Vol.76通巻881号　平成7年8月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会
Architecture and Society

特集

私の空間作法―会員作品



8

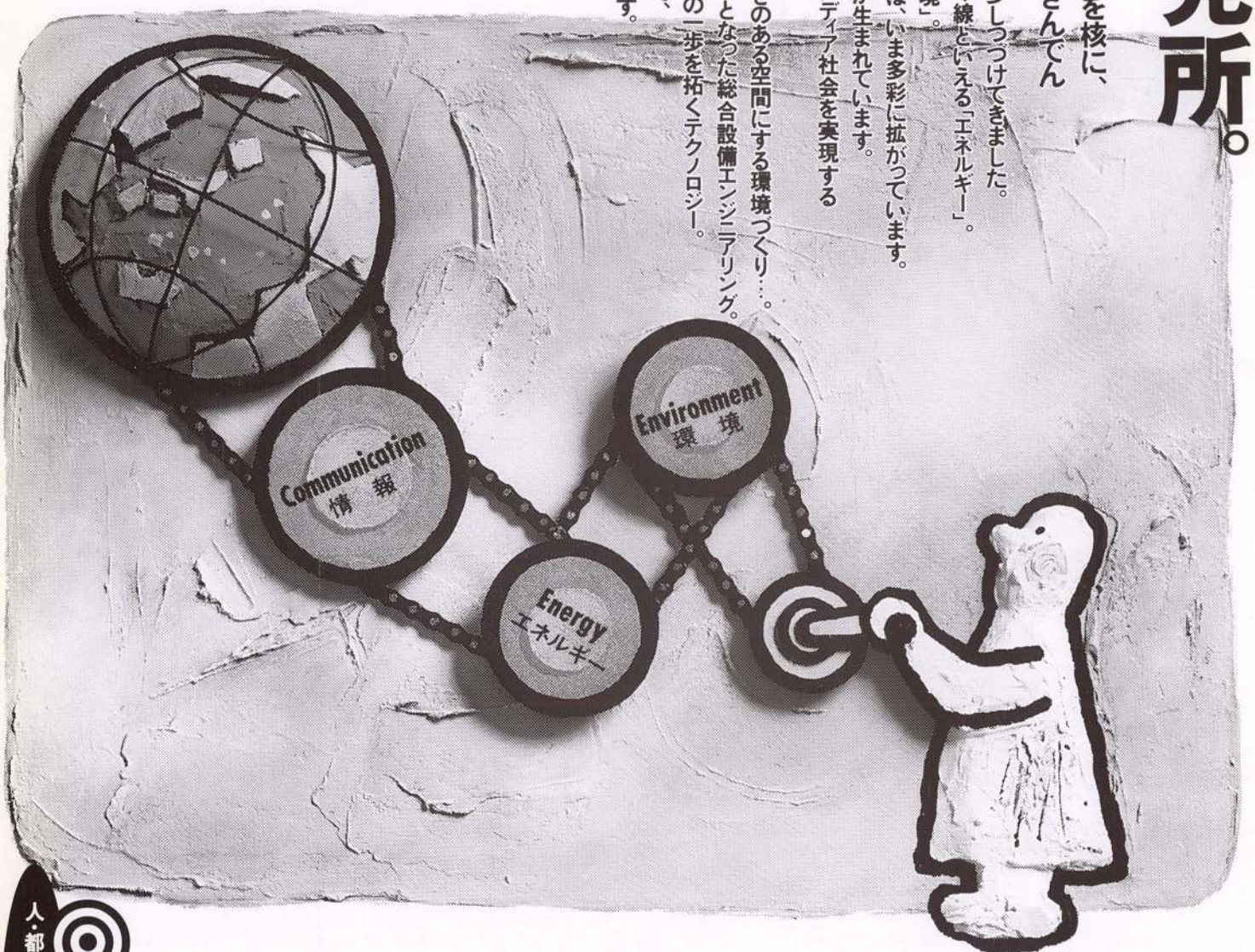
日本建築協会

Kinden
CORPORATION

次のこと開発所。

たとえばマルチメディア。情報通信を核に、次代への可能性を拓いています。きんでん

時代は新しい発想や技術を原動力に、進歩しつづけてきました。
現代社会の知力である「情報」。都市の生命線といえる「エネルギー」。
そして人が快適に暮らし、働くための「環境」。
私たち〈きんでん〉が取り組んでいる分野は、いま多彩に拡がっています。
そしてそこにはさまざまな新しい可能性が生まれています。
たとえば、光通信やCATVなど、マルチメディア社会を実現する
情報通信ネットワークシステムの構築。
住まいやオフィスの快適性を向上し、優しさのある空間にする環境づくり…。
情報を主軸に、エネルギー・環境が三位一体となった総合設備エンジニアリング。
それは新しい価値をつくり、つたえ、次代への一歩を拓くテクノロジー。
私たち〈きんでん〉は、新しい発想と技術で、
21世紀の人・都市・地球の可能性を拓きます。



人・都市・地球の明日を拓く発想・技術

株式会社 きんでん

本　店 大阪市北区本庄東2丁目3番41号 〒531
東京本社 東京都品川区東五反田5丁目25番12号 〒141

青年技術者のみなさまへ

「建築と社会」平成7年12月号の
「第42回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに41回にわたって優秀な青年技術者を紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。

42回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1. 応募される人は満35歳までの青年技術者であって、本会会員に限る。

2. 原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。(すいせん用紙は事務局にご請求ください)

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3. 応募者は、設計（住宅・インテリアを含む)、計画（都市計画など)、構造、設備、施工、その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を本会に期日までに提出する。

4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。

5. 「青年技術者選考委員会」において選考されたものは「第42回青年技術者特集号」（平成7年12月号）に記載するとともに、記念品を贈呈する。

6. 提出資料

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

A資料

A資料は、A3判用紙10枚以内にまとめる。

① 建築設計の場合

——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む)

——上に準じた資料

③ 上記以外の分野の場合

——それぞれの分野にふさわしい資料

B資料

上記A資料の各実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、A資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、400字詰原稿用紙5枚以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない)。ただし応募者・本人の執筆に限る。

■すいせんのことば

原則として、すいせん者によるすいせんのことば(120字程度)を添付のこと。自せんの場合は不要。

※「青年技術者選考委員会」において選考し、採択されたものについては、後日、本人の写真、青年技術者としてのことば（青年技術者としての抱負、考え方、信念、建築観等々を、400字程度で執筆）の提出をお願いすることにします。

7. 提出期限 平成7年9月29日(金)

8. 提出先 日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階
電話 06-348-0635 FAX.06-348-0634

9. 青年技術者選考委員会（平成7年度）

委員長 荒井 清／東畑建築事務所技術顧問
委 員 多胡 進／大阪市立大学工学部長
井口勝文／竹中工務店開発計画本部長
山下 勝／双星設計代表取締役社長
岡本弘之／安井建築設計事務所常務取締役設計部長
山田 稔／関西大学教授
八木大児／平田建築構造研究所代表取締役社長
中曽暁尚／鹿島関西支店建築部建築部長
藤本 健／日建設計理事・業務部長
三浦康夫／大林組本店建築工務部長
関川詞之／大成建設大阪支店建築部管理室次長

舞洲アリーナ見学会

舞洲アリーナは、北港の埋立地、舞洲スポーツアイランドの中核施設として、また五輪誘致を目指す大阪市の主会場予定地内の施設として位置づけられている。
各施設をできるだけ同一階に配置しているが、大会開催時の多数の人々をスムーズに誘導するため、建物周囲に歩行者デッキを巡らせ2層に動線を分離し、平面的にも明快な施設計画としている。
メインアリーナは、68m×40mのフローリング床張りで、日常の各種室内スポーツをはじめ国際試合にも対応でき、観客席は最大7,000席余りを確保できる。またスポーツをする楽しみだけでなく、観る楽しみ、交流する機会を深めるべく、会議室の充実やレストラン・カフェテリアの設置などコミュニティ施設の充実をはかると共に、身障者や高齢者の利用についても十分に配慮しているのが特徴である。
外観は、海のイメージと、スポーツ施設としてのさわやかさ、躍動感、スピード感といったイメージの表現を計画の目標とし、ステンレス鍋板屋根や凹凸のある外壁タイルの表情で海のイメージに重ね、大地と一体感のある基檀の上に横ラインと曲面を多用した造形により、さわやかなスポーツイメージを表現している。（森田芳次）



●建築概要
所在地　大阪市此花区北港緑地2丁目内
建築主　大阪市港湾局
設計監理　大阪市港湾局
　安井建築設計事務所
施　工　鹿島・不動・東洋JV
敷地面積　35,416㎡
建築面積　11,168㎡
延床面積　17,221㎡
構造規模　RC、一部S・SRC、4F
施設構成　メインアリーナ(40×68m)
　サブアリーナ(24×37m)
　観客席、ロビー、レストラン、カフェテリア、会議・研究室等
工　期　1993年3月～1995年9月
オープン　1995年10月（予定）

日　時　1995年 **9**月**12**日(火)
　13:30～16:30
講　師　森田芳次
　／安井建築設計事務所専門部長
　後藤幸満
　／鹿島・不動・東洋JV次長
定　員　50人
　＊申込者多数の場合は抽選
集　合　JR桜島駅前 13:30
　(バスで現地まで送迎)
　＊JR環状線「西九条」で桜島線に乗換
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
申　込　9月5日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　①催し名(舞洲アリーナ見学会)
　②氏名
　③会員・一般の別
　④職場名
　⑤参加証郵送先
　⑥連絡先電話番号
　をお知らせ願います。
　＊参加証を9月6日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　大阪市北区梅田1-1 〒530
　大阪駅前第3ビル21階
　FAX348-0634　TEL.348-0633

スライド・レクチャー ぶらり海外建築見て歩き

第1回 東欧の華
レヒネル・エデンの建築と東欧の世紀末建築

これから10回にわたり、スライドを使って、海外の建築及びその周辺の風物をご紹介したいと思っています。大学の授業のような堅苦しい話ではなく、建築に関係のない方にも楽しんでいただけるような内容ですので、気軽なお気持ちで聴きに来ていただければ幸いです。

＊

レヒネル・エデン設計の地学研究所、工芸博物館(装飾美術館)、旧郵便貯金局(現国立銀行)、聖エルジェーベト教会(青い教会)及び東欧のアールヌーボーやキュービズムの建築作品等、ハンガリー、チェコ、スロバキアの紹介をします。



工芸博物館(装飾美術館)



聖エルジェーベト教会(青い教会)

杉本真一(すぎもと　しんいち)
1955年生まれ。
京都工芸繊維大学大学院、プリンストン大学大学院で学び、現在大阪芸術大学建築学科専任講師(建築史、建築計画)

日　時　1995年 **9** 月**25**日(月)
　18:30～20:30
会　場　日本建築協会サロン
　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　杉本真一/大阪芸術大学講師
定　員　30人
　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
　(学生は半額、飲物付、税込)
申　込　9月18日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込みください。
　①催し名(スライド・レクチャー)
　②氏名
　③会員・一般の別
　④職場・学校名
　⑤参加証郵送先
　⑥連絡先電話番号
　をお知らせ願います。
　＊参加証を9月19日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　大阪駅前第3ビル21階 〒530
　FAX 348-0634　TEL 348-0633

●次回の予定
1995年10月24日(火) 18:30～20:30
北欧の華 ― 北欧の近代建築を訪ねて

新中央体育館
八幡屋プール
建設工事見学会

○新中央体育館

大阪市港区の八幡屋公園に建設中の大阪市立新中央体育館は、敷地の有効利用と環境保護の目的から地下に計画しました。

床面積8,000㎡で1万人が収容できるメインアリーナを始め、サブアリーナ、柔道場、剣道場、トレーニング室等の施設が設けられています。建物を地下に埋めることにより、地上は芝生や植木等の植栽を施した小高い丘を中心として、起伏と変化に富んだ公園を建物の機能の確保と併せて実現しています。また建物が地下にあることで、地上にある場合に比べて外部からの熱負荷が低減し省エネルギー効果を高める一方、地上の公園は都市化による温度上昇を抑える役割を果たすことができます。特徴としては、約1mの厚さに土を被せた、直径110mの屋根の大荷重をコンクリートシェル構造を採用して支えています。また建物にかかる基礎底の地下水圧を、外周のリング部に深さ39mの杭兼用の連続土留壁を設けて抑え、解決しています。　（二本柳法生）

●建築概要

所在地	大阪市港区田中3八幡屋公園内
設計監理	大阪市都市整備局営繕部 日建設計
施工	大林・西松・淺沼JV
敷地面積	123,986.02㎡
建築面積	442,00㎡
延床面積	38,425.00㎡
構造規模	RC＋屋根PC球面シェル構造、B3
施設構成	メインアリーナ(77×46m) サブアリーナ(38×35m) 柔道場、剣道場、研修室、スポーツギャラリー、トレーニング室、情報プラザ、レストラン等
工期	1993年6月～1996年5月
オープン	1996年春(予定)

○八幡屋プール

平成9年度大阪国体を契機として計画された本施設は、国際競技にも対応する屋内プール施設である。

施設は、50mプール、飛び込みプール、及び25mプールとこれらの付帯諸室、レストラン等で構成される。固定席で3,500名の観客が収容可能である。プールはいずれも公認プールであるが、本施設では、50mプールと飛び込みプールに昇降床を採用し、水深の自由な変更を可能にしている。これにより競技種目を選ばないばかりか、一般に開放する際の安全な水深の設定が、さまざまなバリエーションで実現できるようになった。

敷地である公園との一体化、及び独立した利用者動線を得るため、地上より約3mの高さに設定された人工地盤を周囲にまとう形で、建物は直径約100mの円形に計画されている。屋根は、ケーブルネット膜構造によるテフロン膜と、周囲からオーバーハングするPC/SRC梁部のステンレスで構成されており、内部外部ともに躍動感ある形態を与えている。　（藤田　寛）

●建築概要

所在地	大阪市港区田中3八幡屋公園内
設計監理	大阪市都市整備局営繕部 東畑建築事務所
施工	フジタ・鴻池・藤木JV
敷地面積	123,986.02㎡
建築面積	7,778.52㎡
延床面積	24,922.54㎡
構造規模	RC・SRC＋屋根ケーブルネット膜構造、2F・B2
施設構成	50m公認プール／冬期アイスアリーナ 飛び込み公認プール 25m公認プール／通年温水プール レストラン、会議室等
工期	1993年10月～1996年3月
オープン	1996年春(予定)

日　時　1995年 **9** 月 **26** 日(火)
13:00－17:00

講　師　米村理市／大阪市都市整備局営繕部企画主幹
○新中央体育館
二本柳法生／日建設計主管
田渕博昭／大林JV工務長
○八幡屋プール
藤田　寛／東畑建築事務所
弓場千歳／フジタJV工事長

定　員　40人
＊申込者多数の場合は抽選

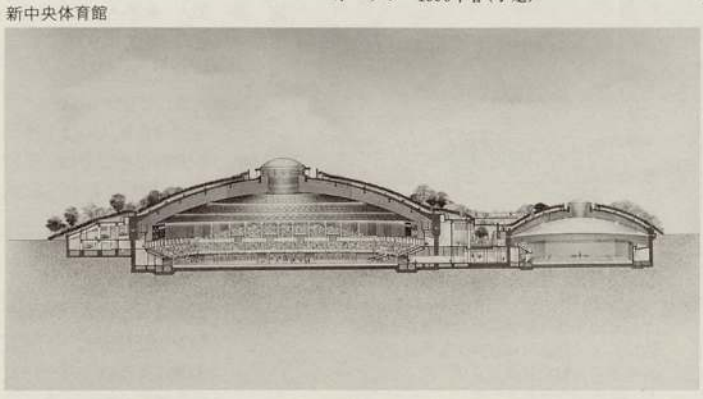
集　合　現地
大阪市港区田中3八幡屋公園内
＊地下鉄「朝潮橋」駅下車すぐ

参加費　会員1,000円、一般2,000円

申　込　9月19日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（新中央体育館＋八幡屋プール建設工事見学会）
②氏名
③会員・一般の別
④職場名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を9月20日(水)に発送します。

申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1　〒530
大阪駅前第3ビル21階
FAX348-0634　TEL348-0633

新中央体育館



八幡屋プール



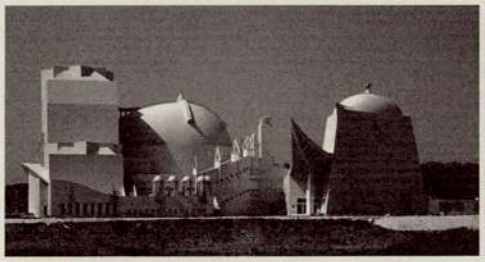
日本建築協会新入会者ご斡旋のお願い

本会は大正6年3月創立以来、建築法規の法制化に努めたほか、わが国初の住宅博覧会の開催、四会連合工事請負契約約款の制定など、今日に至るまで、建築界をリードするとともに、一般社会との結びつきを深めてまいりました。また、建築界の総合団体として常に建築関係各部門の連繋と調査に当たり、会誌「建築と社会」の発行や、各種見学会、講習会など実務に直結した諸種の事業活動を行っております。

これらの事業をますます発展させるため、会勢の伸展をはかりたく、入会者のご斡旋をお願い申し上げます。事務局は電話06-348-0635です。

話題建築を聞く 第23回

加茂町文化ホール・ラメール
渡辺豊和氏に聞く





この建物を構想するに当たってモチーフとしたのは、出雲の神話「スサノオの命の八岐大蛇退治」である。加茂町にはこの神話に因む地名がそこかしこに残っている。この地名の記憶を寓意的に建築として形像化することによりこの記憶＝神話を活性化することができ、そしてこれこそこの場所にふさわしい建物のありようではないかと考えたからである。

建築は古代以来世界模型として構築されてきたのは周知のことであろう。建築は本来一つの場所に一つのものとしてしか存立しないはずのものである。ところが現代建築にあってはその多くが複製・繰り返し可能の標準化・画一化したデザインによるものとなっている。「デ・コンストラクション」、「ハイテク・スタイル」、「ネオ・モダニズム」等、表面上の差異はあっても、いずれもこの標準化・画一化つまりデザイン化から逃れてはいない。この建物は、デザイン化を避け建築を世界模型として構想する一貫した試みの一つである。

（渡辺豊和）

渡辺豊和（わたなべ　とよかず）
1938年　秋田県生まれ
61　福井大学工学部建築学科卒業
64　RIA建築綜合研究所
70　渡辺豊和アトリエ設立
70~72 都市問題経営研究所
72　渡辺豊和建築工房に改称
80　京都芸術短期大学非常勤講師
81　同大学教授
82　福井工業大学講師
91　京都造形芸術大学教授
主な作品
吉岡邸［1½］
西脇市立古窯博物館
龍神村民体育館
対馬豊玉町文化の郷
角館町立小学校
秋田市体育館
黒滝ホール、など

日　時　1995年 9月28日(木)
18:30－20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　渡辺豊和／渡辺豊和建築工房
定　員　30人 ＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員 2,000円、一般 3,000円
＊含、飲物・消費税
申　込　9月21日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（話題建築を聞く）
②氏名
③会員・一般の別
④職場名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を9月22日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX 348-0634　TEL 348-0633

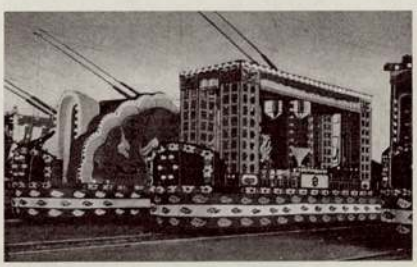
●建築概要
所在地　島根県大原郡加茂町大字宇治303
発注者　島根県加茂町
設　計　渡辺豊和建築工房
施　工　鴻池組・中筋組JV
敷地面積　23,230.20㎡
建築面積　2,850.73㎡
延床面積　3,675.31㎡
構造規模　RC、B1・3F
工　期　1993年9月～1994年12月

30'sEYE 21世紀へのエスキス
第14回

橋爪紳也
建築史家・京都精華大学助教授

都市装飾再考
緑門・凱旋門・花電車

「30'sEYE-21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会形式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。





空間演出のエレメントである「飾り」に改めて注目してみたい、と思う。

建築の表層の、さらに表面に張りつけられた旗・幕・看板といった「飾り」の類。あるいはイベントや行事の会場を飾る仮設の建築群。そのデザインには、同時代を生きた人々の価値観、生活文化の諸相が投影されている。

そのほとんどは、わずかな期間で撤去されるものだ。しかも金をかけていないチャチな造作であることが多い。しかしはかない運命の造作物だからこそ、また「無造作な造作」であればあるほど、豊かな「意味」を含んでいるケースがある。

今回の報告では、緑門、凱旋門、花電車などを事例に、近代都市において植物をモチーフとした「飾り」がどのようにかたちづくられてきたかを検証する。そのうえで都市・建築の表層に付加された「飾り」の存在意義を、改めて問う契機としたい。

（橋爪紳也）

橋爪紳也（はしづめ　しんや）
1960年大阪市生まれ。京都大学工学部建築学科卒。現在京都精華大学人文学部助教授。建築史・都市計画史専攻。工学博士
○主な委員
大阪市海洋博物館展示検討委員会委員
大阪市文学館基本構想検討委員会委員
滋賀県新世紀委員会委員
堺市臨海活性推進専門委員
大阪商工会議所地域振興委員会委員ほか
○主な著書
『倶楽部と日本人』（学芸出版社1989）
『明治の迷宮都市 東京・大阪の遊楽空間』（平凡社1990）
『商都のコスモロジー』（共編著、TBSブリタニカ1990）
『海遊都市 アーバンリゾートの近代』（白地社1992）
『大阪の表現力』（共編著、パルコ出版1994）
『KYOTO恋愛空間 カップル考現学』（学芸出版社1994）
『化物屋敷』（中公新書1994）ほか

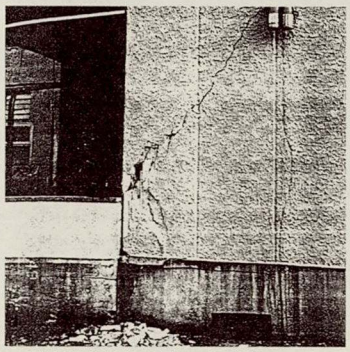
日　時　1995年 9月29日(金)
18:30－20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　橋爪紳也
定　員　30人 ＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員・学生 1,000円
一般 2,000円
＊含、飲物・消費税
＊団体会員扱いは1社1名
申　込　9月22日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（30'sEYE）
②氏名
③会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を9月25日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1　〒530
大阪駅前第3ビル21階
FAX 348-0634　TEL 348-0633
主　催　㈳日本建築協会
若い会員の集い小委員会
主担 有田吉弘/北大阪急行電鉄

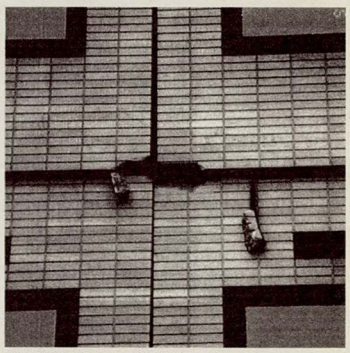
阪神・淡路大震災における建築外装材の検証

計り知れない大被害を出した大震災では、建築業界においても、種々の問題点が新たに発見されるに至りました。外装業界団体も各業種ごとの調査が実施され、報告できる状況になってまいりました。このたび、各関係業界団体のご協力をいただいて、まとめられた資料に基づき、対策も含めて、今後の取り組み方を検討する機会にしたいと思います。多数の方のご参加をお待ち申し上げます。


窓ガラスの被害


枠付きサッシドアがはずれた


ALC板の伸縮目地の有無による被害


PC板の回転による角欠け

日　時　1995年**10**月**4**日(水)
13:30〜16:30
報告団体　板ガラス協会
サッシ協会
ALC協会
プレコンシステム協会
会　場　大阪府立文化情報センター
多目的ホール
＊大阪市北区中之島3-2-18
住友中之島ビル5F
定　員　100人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　1,000円（含・資料代）
申　込　9月27日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（建築外装材の検証）
②氏名
③会員・一般の別
④職場名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を9月28日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21F　〒530
FAX348-0634　TEL348-0633

㈳日本建築協会編『建築設計者のための設備知識』第2刷を刊行 割引価格で頒布

㈳日本建築協会の編著、㈱オーム社の出版で『建築設計者のための設備知識』の第2刷を、より新しい情報に差しかえて刊行いたしました。
この著書は、本会機関誌「建築と社会」1990年〜1992年に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる社会状況を織り込み、最新の情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、本会の編集委員会で推敲を重ねたものです。
第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こし、その解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。
本書は、7月から全国の書店店頭に出ていますが、本会でも図書の販売をいたします。本会では特別価格で頒布しますので、お買い求め下さるようお願い申し上げます。
詳細お問い合わせ、および購入申込は、㈳日本建築協会へお願いします。
編著者　社団法人　日本建築協会
（東畑建築事務所／坂田進・城下善雄・弓崎幸治・中野格、日建設計／藤岡茂・瀬戸良昭・押田忠明、安井建築設計事務所／日根東治・水谷広治・山根敏和、大阪ガス／中村秀行・佐々木明美、関西電力／中村秀夫・大木俊郎）
〒530　大阪市北区梅田1-1-3-2100　TEL06-348-0635



発行所　㈱オーム社
〒101　東京都千代田区神田錦町3-1　TEL03-3233-0641
体　裁　B5判、220頁、上製本
定価5,000円

平成7年度
建築工事実務講習会

主催　㈳日本建築協会東海支部

と　き　平成7年10月3日(火)
　　午前9時30分～午後5時
ところ　昭和ビル・9階ホール
　　(名古屋市中区栄4丁目3-26)
定　員　100名
会　費　15,000円(含テキスト代)
　　※消費税を含む。
　　※テキストは、当日配布させていただきます。

■趣旨と内容

●官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の有能な技術者を養成する目的をもって講習会を開催します。

●とくに取りつきにくい施工計画と仮設見積、現場実務の基礎である積算技術に重点をおき、講義します。

●また、都市環境の変化に伴う法令・規準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の修得をはかります。

●「積算業務」では、建築数量積算基準にのっとり、また「仮設計画」では具体例により、その着工準備から完成に至るまでをわかりやすく解説します。

■申込要領

下記受講申込書に必要事項をご記入のうえ会費を添えて東海支部までお申し込み下さい。引き替えに受講券を発行致します。

■申込先

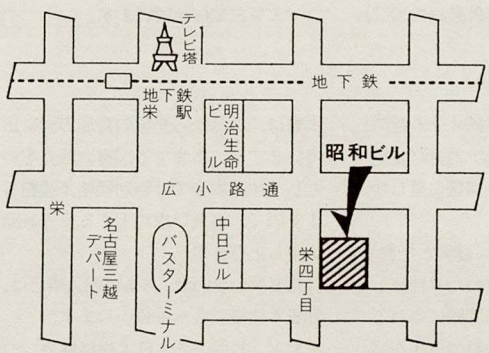
㈳日本建築協会 東海支部
〒460 名古屋市中区栄4-3-26
(昭和ビル 愛知建築士会内)
TEL (052)261-1451
FAX (052)261-0251

■申込締切日

9月20日(水)

※但し、定員に達し次第締め切ります。

・受付時間
　午前9時～午後5時
　但し土・日・祝日を除く。
・詳細は、事務局(田中)へお問い合わせください。



昭和ビル
(名古屋市中区栄4丁目3-26)
付近見取図

一歩踏み込んだ先手の計画!!

施工計画

細田泰彦氏
清水建設㈱名古屋支店岐阜営業所工事長

＊

適切な施工計画の立案できることが、建築現場技術者の必須条件です。安全で、経済的な施工計画を解説します。

計画と一致した仮設費を!!

仮設見積

佐渡政勝氏
㈱大林組名古屋支店建築工事部副部長

＊

仮設工事費は、一般には非常に把握しにくい面があって、ついつい単位面積当たり、あるいは請負金比率のみで処理されがちである。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

迅速かつ合理的な積算!!

積算業務

木村敏男氏
㈱竹中工務店名古屋支店見積部見積課長

＊

見積業務のなかで、基本となるのは数量積算です。この手順、基準を基本により合理的で正確な積算業務を解説します。

キリトリ線

平成7年度建築工事実務講習会　東海開催受講申込書　No.

社団法人　日本建築協会東海支部　御中　　平成7年　月　日

郵便番号	受講者氏名	年齢
住所		
事業所名 (または氏名)		
担当責任者		
電話番号		
会費支払方法　・持参　・現金送金　いずれかに○印を付して下さい		

建築と社会

1995 8 1917年創刊 第76集／通巻881号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

今月の表紙

60 Wall Tower
60ウォール・タワー・ビル

竣工年　1932
設計者　Clinton & Russel
所在地　New York, 70 Pine Street

1932年、パインストリート70番地にシティーズ・サービス・ビルディングとして竣工し、現在はアメリカン・インターナショナル・ビルディングと呼ばれている。
エントランス上部にはこの建物自身の模型があたかも彫刻のように取りつけられている。またタワーの頂部は、バットレスをもったゴシック風のデザインがなされており、CGでは、真夏の雲を背景にこの特徴的な頂部を引き立たせるように構成している。(CG作成：川角典弘、解説：戸泉協／京都工芸繊維大学山口研究室)

■特集予告
9月号／新しい「都市・建築」の視点
10月号／建築構造と社会の接点
11月号／ライフラインと建築設備

編集委員会（平成7年度）

■副会長　岩本登志男
金多　潔　植田加久夫
薬袋　公明　遠藤　進
■編集理事　梶井　宏修
青柳　司　河津　隆之
◎荒井　清　※田ノ畑好幸
荒巻　恭士　西岡　道雄
井上　豊　水谷　昇
小島　雄　村上幸三郎
須賀　好富　★施工材料分会
竹中　練一　※有光　利治
深江　實　植田　実
松村　慶三　小椎八重猛
清神宏至朗　志水　史典
■編集顧問　野口　和宏
東　孝光　吉田　茂二
■編集委員　★法令分科会
★計画系分科会　乾　康雄
☆計画系　※入江田吉仁
伊縫　惠幸　樫田　攻
梅村　宏尚　城戸　史郎
小浦　久子　中島　弘志
鈴木　克彦　中西　孝子
田中　直人　■作品作風小委員会
松川　敏正　赤木　隆
横関　真紀　小笠原絵理
※吉村　英祐　小野　正人
☆建築計画系　尾崎　久純
荒井　博　川上比奈子
磯村千恵子　倉澤奈千子
上杉　秀隆　杉原　繁
江副　敏史　田中　均一
荻窪　伸彦　◎富田　昌義
菅野　忠司　藤城　義丈
笹村　欽也　前川　治彦
佐藤不二男　前田　幸宏
塚本　史郎　増田　敬彦
刃金　国男　増田　俊哉
※山本　匡　松田　善弘
☆インテリア・住宅系　宮地雄一郎
石川　佳子　■会員企画小委員会
岡本　昭子　伊藤　郁郎
加藤　力　◎稲木　裕子
角方　利幸　樽谷　浩史
北浦かほる　毛谷村英治
※小梶　吉隆　小板橋鉄雄
小島　保人　佐伯由紀子
高橋　文吾　佐野　洋
中村　孝之　高岡　伸一
畑　康之　高田　光雄
福田　由利　高橋　麗子
松田　隆　塚口　明洋
山上　恭子　増渕　昌利
★構造分科会　松石　千秋
太田　寛　山嵜　章子
西郷　慈師　■広告企画小委員会
田中耕太郎　池渕　俊男
多田　元英　上井　善一
※長瀬　正　勝　一弘
平野　富之　◎河原　正雄
北條　稔郎　衣川　徳好
松本　孝弘　菱田信八郎
宮本　光則　藤田　孝吉
★設備分科会　山下　修司

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成7年8月20日
発　行　平成7年8月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1165円〕

CONTENTS

特集●　私の空間作法——会員作品

SUGITA ● 塚口明洋 — 26
国立淡路青年の家　浴室棟・講師棟 ● 山本俊輔 — 27
SUN UTSUMI 50 ● 富川桂二郎 — 28
浄るりシアター—能勢町ふるさと会館 ● 加藤精一 — 29
須磨高倉台の家 ● 松下好宏 — 30
M邸 ● 新保哲也 — 31
The Ψ House ● 吉村英祐 — 32
らいこう庵 ● 村重保典 — 33
総本山智積院第三行堂 ● 八木康夫 — 34
エムズコート ● 鈴木隆雄 — 35
くずかわ茶寮　寅や ● 岸　一 — 36
学校法人池坊学園　美心館 ● 北條　誠 — 37
モンベル本社ビル ● 三谷和巳 — 38
和泉府中みどりビル ● 浅野　裕 — 39
穂波町庁舎 ● 広岡建築事務所 — 40
久万町明神小学校(改築) ● 臂谷年勝 — 41
阪南市立西鳥取公民館 ● 森　幹雄 — 42
公冠株式会社本社ビル ● 山崎義康 — 43
博多駅南MTビル ● 志村公夫 — 44
県営住宅雄湊団地 ● 岩橋重文 — 45
F邸 ● 岩本貞幸 — 46
菓子処　青柳屋 ● 沖本弘至 — 47
天・地・人の庭 ● 長谷川弘直 — 48
尼崎市都心の水辺空間 ● 横山浩二 — 49
高台寺・夢あかり—ライトスケープ—'95春 ● 村上幸三郎 — 50

会告　青年技術者のみなさまへ. 1
舞洲アリーナ見学会.
スライド・レクチャー1・東欧の華.
新中央体育館、八幡屋プール建設工事見学会.
話題建築を聞く23・加茂町文化ホール・ラメール—渡辺豊和氏に聞く.
30's EYE14・橋爪紳也「都市装飾再考」.
阪神・淡路大震災における建築外装材の検証.
『建築設計者のための設備知識』第2刷を刊行、割引価格で頒布.
平成7年度建築工事実務講習会—東海支部.

作品作風　泉北高速鉄道和泉中央駅
MBS劇場
下関市細江町駐車場　8

Gallery　枚方の家(設計：岡崎善久) ● 尾崎久純　14

Sketch Book　最近竣工した新建築10点　16

W　Walking 13：建築家おすすめデートスポット—吉田昌弘氏 ● 稲木裕子　18

書評　建築企画の面白さと醍醐味を伝える実践書 ● 柏原士郎　20

ブックステーション　短評4題 ● 伊藤郁郎・稲木裕子　21

GBRCニュース　被災建築物の復旧計画の評価業務について　22

建築の眼　安全と安心感 ● 内井昭蔵.　京都を考える—1— ● 西村幸雄
「土」について—2— ● 與謝野久.　蠟燭能 ● 野村　充　24

構造の頁　アクティブ制震(振)装置の制御効果—同和火災フェニックスタワー
● 小堀鐸二・坂本光雄・小鹿紀英　51

設備の頁　光源の演色評価数 ● 村上幸三郎　52

Information　医療福祉建築に関する研修会. 建築環境・省エネルギー講習会.
建築デザイン会議'95 IN YOKOHAMAへの参加者募集. 「国際デザイン展'95」開催.
コンペ表彰式とシンポジウム. 建築文化懸賞論文募集. 札幌国際デザイン賞募集.
KANDINSKYの家大賞決定.　53、55

月間の動き　平成7年6月分　54


泉北高速鉄道
和泉中央駅
IZUMI CHUO STATION

南面外観


泉北高速鉄道
和泉中央駅
IZUMI CHUO STATION

南面外観夜景

作品風

設計監理 ■
安井建築設計事務所

施工 ■
大林・清水・鴻池・奥村 和泉中央駅共同企業体

泉北高速鉄道 和泉中央駅

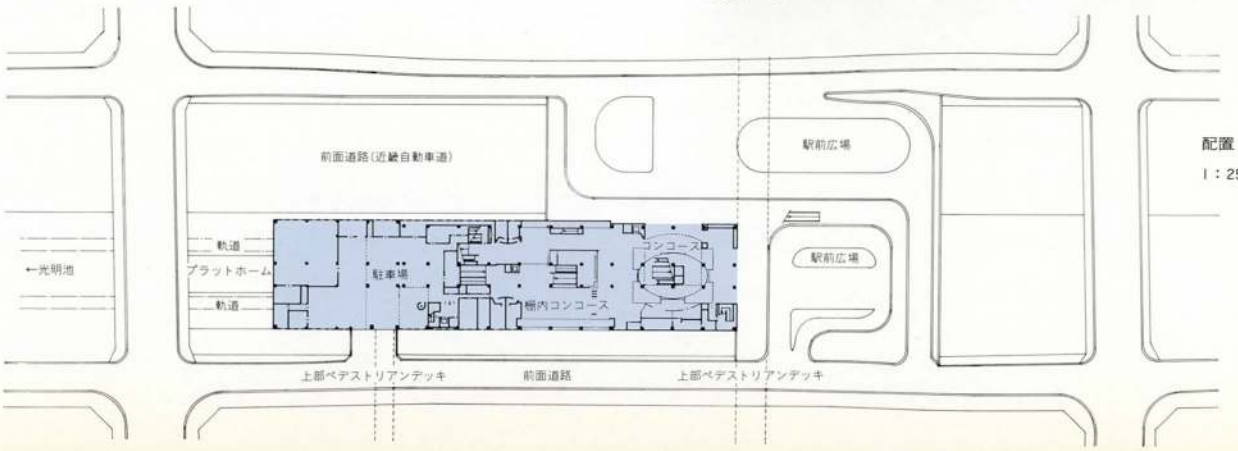
泉北高速鉄道の延伸事業として光明池駅の西方約2.2kmにつくられたこの新駅は、住都公団の開発になるニュータウン「トリヴェール和泉」のメインアクセスとして建設された駅である。1日の乗降客数は開業時約22,000人、熟成時約31,000人が見込まれている。
鉄道の軌道敷は、並行する阪和自動車道、泉州山手線(準高速部)の両道路とともに周辺の地盤から掘割状に下がって計画されており、駅へのアプローチは人工地盤の駅前広場や周辺にネットワーク整備されるペデストリアンデッキにより、立体的に接続されている。
このような条件のもとに駅の建物は軌道敷の幅一杯を利用した細長い矩形となった。階の構成は、最下階の軌道レベルにプラットホーム階、その上の駅前広場レベルにコンコース階、さらにその上に東西2本のデッキにつながる2階、3層からなっている。
建物外装はプラットホーム階に花崗岩風吹付タイルを用い、しっかりとした基壇を形成し、淡いピンクの磁器タイルを基調とした暖かく親しみのある上層部がその上に重なる構成とした。
建物の外観を特徴づけるガラスブロックの楕円シリンダーは、新しい街の発展の「核」としての駅を象徴させるため建物に組み込んだコア(核)を表現している。この部分はコンコースの動線が最も密に重なりあう部分であり、昼間は外光の入る吹抜として潤いのある通行空間を演出するとともに、日没後はコンコースの光を放ち「光のシリンダー」として駅をシンボリックに印象づけるものである。この建物は上階へ増築が可能となっており、将来街の成熟とともに、駅ビルとして文字通り街の核になる機能を発揮できるよう計画されている。増築後には上方へ伸びた光のシリンダーが一層きわだった街のシンボルとなることを意図している。
この駅は大阪府福祉のまちづくり条例に準拠し、人にやさしい駅となることをめざしている。息吹きはじめた新しい街にあってさらに広がる開発の核となるとともに利用する人達にとって長く愛される駅となることを願っている。 (設楽貞樹/安井建築設計事務所)

所 在 地 ——— 大阪府和泉市いぶき野5-1-5
敷地面積 ——— 5,490.00㎡
建築面積 ——— 4,568.01㎡
延床面積 ——— 12,482.44㎡
構造規模 ——— SRC、一部RC、3F
工 期 ——— 1992年9月～1994年12月
撮 影 ——— 泉 幸男


阪和自動車道側より外観全景


コンコースアトリウム


コンコース



配置・コンコース階平面図
1:2500



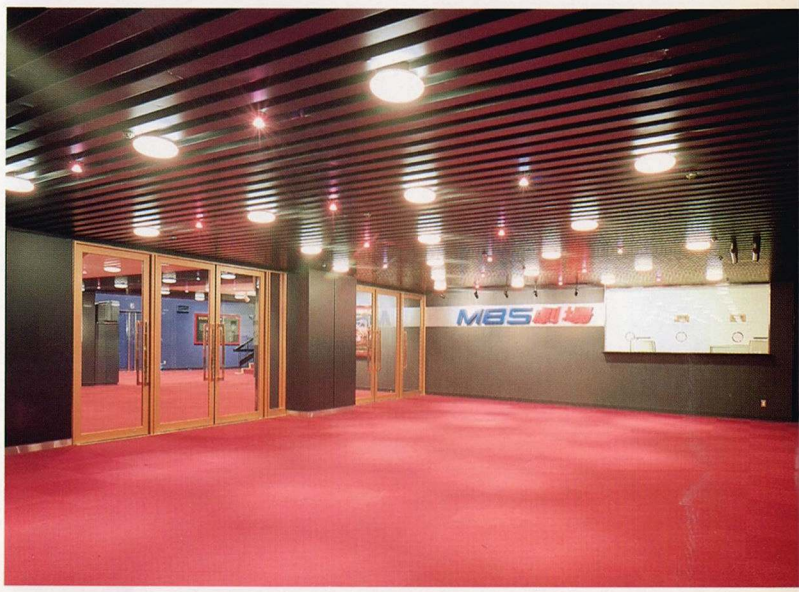


作品
作風

企画設計■
劇団四季

設計施工■
大林組

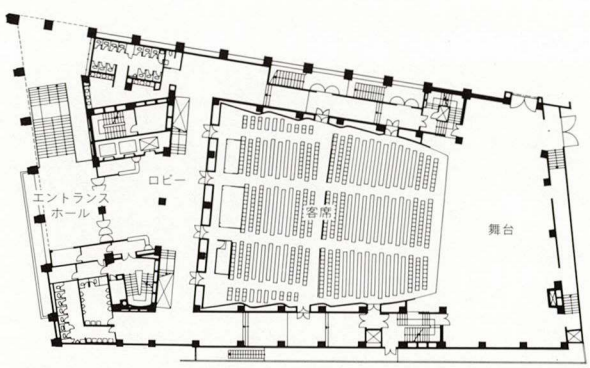




MBS劇場

当劇場は毎日放送開局45周年記念事業の一環として旧毎日ホールを劇団四季専用のミュージカル劇場へとリニューアルしている。
設計のテーマとしては、旧ホールからのイメージの一新、及び新劇場としての個性の創出である。
劇場内の濃紺とワインレッドの配色は、毎日放送のコーポレートカラーを意識させるとともに、演目との調和を考慮した。
この二色のコンビネーション、露出した照明、配線類は劇場を個性的にしつつも、一種の演出効果を持ち観客に開演以前に劇中との関わりを持たせることをねらった。
劇場内の施設は、客席の全面的な見直し、母子観劇室及び身障者に対応する設備の新設等を行い観客が快適な時間を過ごせるよう配慮した。

（神道　浩・杉本孝雄／大林組本店設計部）



2階平面図　1:800



所 在 地 ——— 大阪市北区堂島1-5-20
敷地面積 ——— 2,576.04㎡
建築面積 ——— 2,485.73㎡
劇場面積 ——— 4,144.85㎡
構造規模 ——— SRC
工　　期 ——— 1994年11月～1995年5月
最 寄 駅 ——— JR大阪駅
撮　　影 ——— 上諸尚美



東面外観



夜景

作品
作風

設計■
日建設計
監理■
下関市

施工■
石川島播磨重工業・友田組・福永建設JV

下関市細江町駐車場

下関市細江町駐車場は、新都市拠点整備事業としてこれからの下関の「顔」となるJR下関駅から関門海峡沿いのウォーターフロント再開発地区「あるかぽーと下関」へと人を誘導するような位置に立地している。

この開発コンセプトに呼応して、本駐車場施設は、ふれあいのある演出により市民が憩い、また特徴ある景観をもったものとなるよう計画した。従来の駐車場施設のようにややもすると箱型に詰め込んだものとなるのを避け、ドライバーにも利用しやすいロングスパンでワイドな車室を計画した。外観は、利用者にわかりやすく明るく、緩やかに車が出入りできるスパイラルスロープをモニュメンタルに取り込んだものとした。　(前田泰幸／日建設計)



配置図・1階平面図　1:2500

所在地――山口県下関市細江町2丁目8－25
敷地面積――6,292.00㎡
建築面積――3,219.26㎡
延床面積――12,474.03㎡（駐車台数500台）
構造規模――SRC、4F、P1
工　　期――1994年1月～1995年3月
最寄駅――JR下関駅下車・徒歩10分
撮　　影――渡辺久徳


玄関アプローチ


エレベーターホール


駐車場内スロープ


車室(屋上階)

gallery

枚方の家

和を意識した屋根とファサード

設計

岡崎善久

京阪電鉄香里園駅より東へバスで10分、観月公園の近くに、この住宅が建っている。

広大な900坪の敷地をもった両親の家に、隣接するこの住宅は、東西に長い傾斜地であり、成熟した樹木等を、できる限り残すことをイメージし、自然と対峙することが、この計画の重要な要素であり、POINTである。

この傾斜地に、コンクリートの箱で人工地盤をつくり、箱に対して、15度ふれた東西に長い木造部分は、渡り鳥が「つばさ」をひろげたような屋根とファサードが、時を感じさせ、表情を和らげ、楽しくしてくれるものである。

天井を高くした食堂は木の「はり」をCROSSさせ、束をたて、屋根をささえ、天井の高さを意識させないような空間とした。

丸窓から見える豊かな自然は季節や時間の変化をさまざまなかたち、表情でつたえ、あたえてくれるものである。

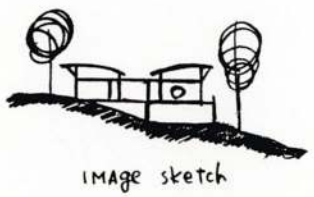
そして渡り鳥が「こころ」を休めたくなるような心地よい、緊張感あふれる空間を、ここに完成させ、味わい深いものとなる。

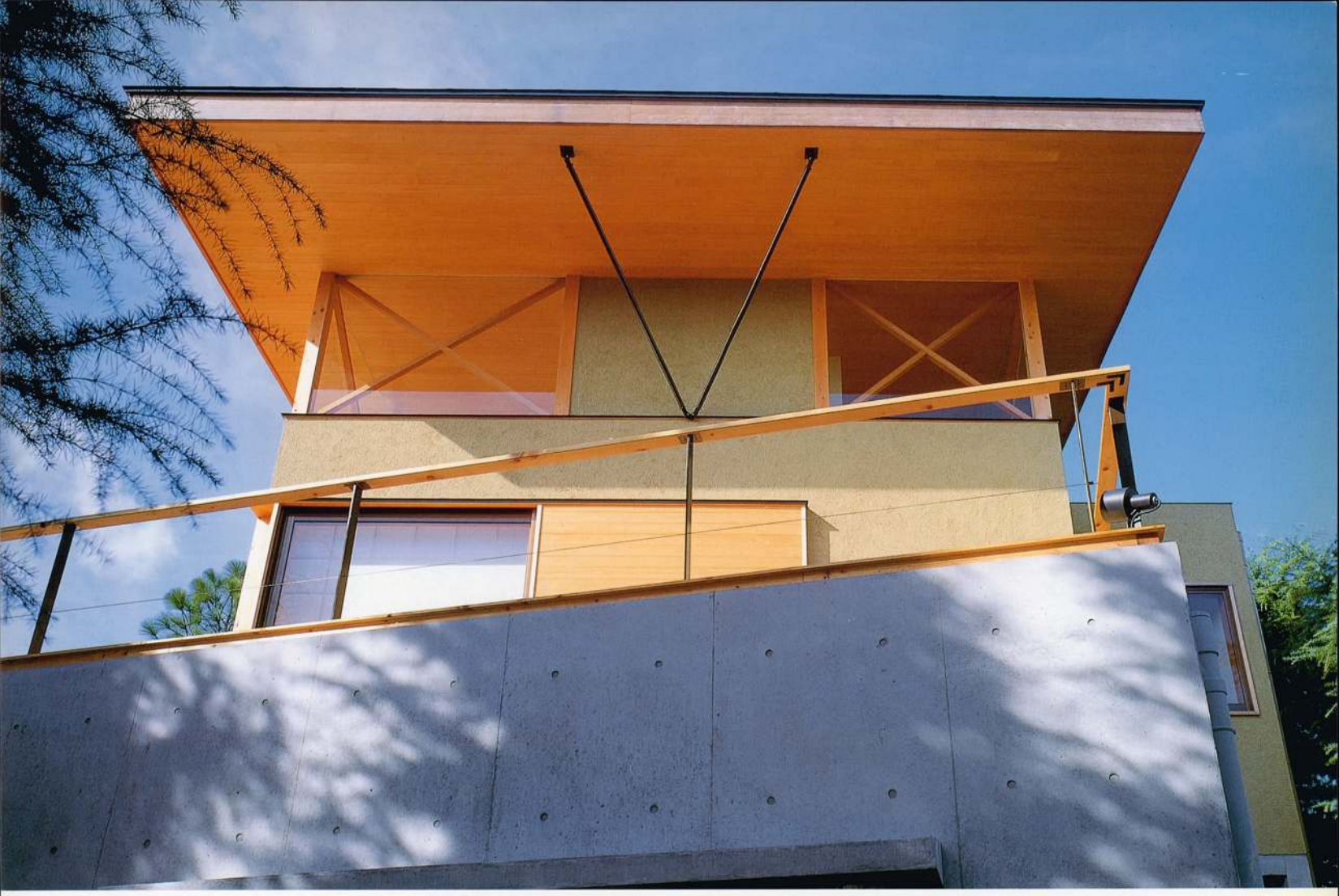
おかざきよしひさ
岡崎善久

1948　新宮市に生まれる
1971　近畿大学理工学部建築学科卒業
1971　近畿建築構造研究所入社
1978　同社を退社
1978　岡崎善久建築設計事務所設立現在に至る

撮　影―大竹静市郎
企画編集―尾崎久純(作品作風小委員会)

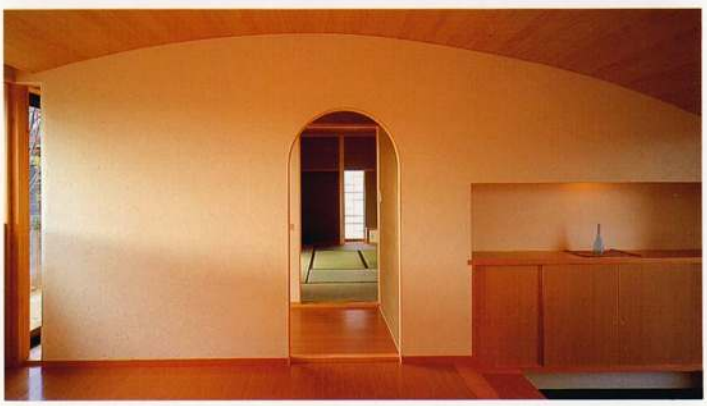
















2483

富山県新川文化ホール（ミラージュホール）

設　計：山下設計名古屋事務所
施　工：前田建設工業他
a．富山県魚津市宮津
b．73,000㎡
c．　8,230㎡
d．12,800㎡
e．RC、SRC、B2F、4F
f．平成4年10月～平成6年8月

富山県東部・新川地区の文化の拠点として整備された複合文化施設で、ホール棟・展示会議学習棟及びそれらを繋ぐロビー棟で構成される。
外観は、ホール屋根とトップライトに山並みをイメージさせる曲線を採用し、その形態を通して感じられる音楽的リズム感、流動感により音楽ホールとしての施設の性格を特徴づけた。また、隣接する河川を親水公園として計画し、周辺環境との一体化を図った。



2484

福岡市健康づくりセンター等複合施設～あいれふ～

設　計：[基本設計]横河建築設計事務所福岡事務所
　　[実施設計]内藤建築事務所九州事務所
施　工：西松・安藤・鉄建・梅林・龍・吉川建設工事共同企業体
a．福岡市中央区舞鶴2丁目103-2外
b．　3,445㎡
c．　1,837㎡
d．18,145㎡
e．S、SRC、RC、B2F、10F
f．平成4年6月～平成6年11月

本施設は、市民の健康づくりの中核施設となる「健康づくりセンター」並びに市民の都市生活に大きな係わりを持ち、相互に深い関連性を持つ「中央保健所」「婦人会館」「消費生活センター」の4施設を、一体的かつ総合的に配置・平面計画をし、本事業の基本テーマである『豊かな生活文化の創造拠点』となるシンボリックな複合施設として建設したものです。
外観は、爽やかで、明るく健康的なイメージをガラスとタイルのカーテンウォールで表現するとともに、都市のランドマークとなり、景観上も地域をリードする建築物としました。
また、低層部のデザインは歩行者に親密感を抱かせるものとし、総合設計制度の適用を受け、敷地の30%以上を公開空地として十分な植栽を施すことで、都市のゆとりとやすらぎのための〝憩い〟の空間を創出しました。



2485



2486



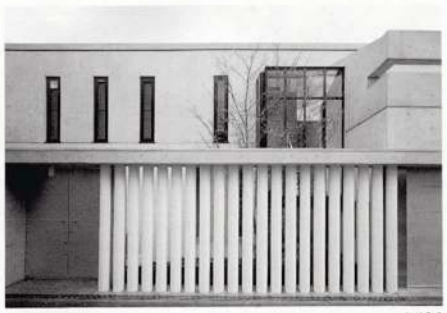
2487



2488



2489



2490

2491



2492



2485 県立高取高校国際交流ホール

設　計：大和設計
施　工：槇峯建設
a．奈良県高市郡高取町佐田455-2
b．62,123㎡
c．　747.16㎡
d．　670.31㎡
e．RC(一部S)
f．平成5年11月～平成6年9月

2486 コモンシティ星田アステージ

設　計：大建設計
施　工：前田建設工業
a．大阪府交野市星田西4丁目5332-85
b．18,983.63㎡
c．　5,661.59㎡
d．17,590.23㎡
e．RC、2F～4F
f．平成5年3月～平成6年10月

2487 姫路工業大学附属高等学校寄宿舎

設　計：兵庫県都市住宅部営繕課
施　工：鴻池・新井・北村特別JV
a．兵庫県揖保郡新宮町角亀琵琶形
b．16,036㎡
c．　2,072㎡
d．11,182㎡
e．SRC、9F
f．平成4年10月～平成6年10月

2488 兵庫県立日高高等学校寄宿舎

設　計：兵庫県都市住宅部営繕課
施　工：クマダ
a．兵庫県城崎郡日高町岩中1
b．3,711.31㎡
c．1,128.40㎡
d．2,428.14㎡
e．RC、4F他
f．平成5年9月～平成6年10月

2489 ベガ中上

設　計：新井組
施　工：新井組
a．神戸市北区山田町下谷上字芝山
b．1,386.11㎡
c．　576.49㎡
d．2,769.55㎡
e．RC、B1F、6F
f．平成5年12月～平成6年11月

2490 住宅9307

設　計：スリーエース総合設計
施　工：田川工芸
a．大阪市東住吉区山坂
b．370.51㎡
c．212.75㎡
d．337.59㎡
e．RC壁式造、一部木造、2F
f．平成6年5月～平成7年2月

2491 学校法人大阪福島学園別館4号

設　計：都市・建築総合研究所
施　工：アタラシ
a．大阪市西淀川区千舟3-8-22
b．11,391.01㎡
c．　316.87㎡
d．　1,843.03㎡
e．SRC、8F、P2
f．平成5年5月～平成6年3月

2492 さぬきこどもの国「わくわく児童館」

設　計：香川県建築課・梓設計大阪支社・環境デザイン研究所
施　工：青木・河辺JV、大一・田中JV、ナミレイ・長尾JV
a．香川県香川郡香南町
b．14,000㎡
c．　3,063.50㎡
d．　5,009.92㎡
e．RC(一部S、PC)、3F
f．平成5年10月～平成7年3月

凡例

a．所在地

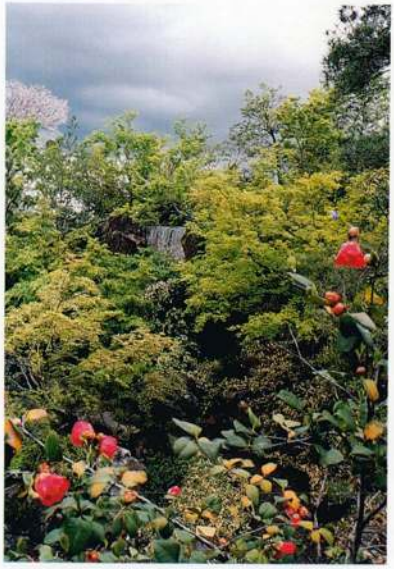
b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

e．構造規模

f．工期



平成の庭造り―伝統と斬新さが同居する庭

昨年、平安建都1200年を記念して、梅小路に日本庭園が造られた。平安建都1100年のときには、同様に平安神宮に記念の日本庭園が造られている。平安神宮の庭園は、平成の今においても、名園として今なお多くの人々に愛されているのは周知の通りである。

さて、梅小路の方の庭園は、平成の名庭園とすべく計画されたわけだが、その記念すべき庭園の設計者が今回登場いただく吉田昌弘氏である。NHKのTVにも、「平成の庭づくり」と題して登場されていたなーということで、いつもは建築家の方にデートをお願いしているわけだが、今回は特別編ということでご登場いただくことになった。

婆娑羅をイメージする

デートの当日はあいにく雨。せっかくオープン前の静かな〝平成の名園〟でデートとしゃれたのだがちょっぴり残念。ところが、いざ待ち合わせの庭園前まで来たらからりと晴れてまさにデート日和となった。（日頃の行いが良いからか？）

吉田氏は、「今日は公園管理事務所が休みですから」と、満面に笑みを浮かべ自ら鍵を持参でご登場くださった。庭園の入り口まで、梅小路公園の中を通っていくのだが、雨上がりの庭園は、緑の草木が生き生きとして大変美しい。雨上がりの石畳を散策しながら、まずは平成の名園の全体構想からお話を伺った。

平安建都1,200年を記念しての庭ということで、ずいぶん力が入ったのではないかと、そのあたりからお聞きしてみた。「そうですね、構想だけで2年費やしていますからね。もともと京都という土地柄は、庭園造りに関しては非常に歴史のあるところ。その地に記念の庭を造ろうというのですから、力が入らないわけがないです。」吉田氏は、その構想時期を思い出しているかの如く、少々しかめっつらである。「庭園作りにあたっては、京都の伝統と平成の斬新さがミックスされたものをめざそうと思って構想を練りました」「伝統と斬新さがミックスされたもの？」「そう、それがコンセプトとした婆娑羅です」

〝婆娑羅〟という、ちょっと耳慣れない言葉が吉田氏から発せられた。この婆娑羅という言葉、室町時代の言葉で「斬新な」とか「気をてらって」とかという意味らしい。

庭園と庭園内建物

公園を抜けると、いよいよその塀の向こうに婆娑羅をイメージした平成の名園が広がる。「ではでは」と、吉田氏が庭園の門扉を鍵をもってあけてくださる。庭園入口の建物の中を通って、庭に出るような仕掛けになっている。まだオープン前とあって、新築の建物の木の匂いと、草木の匂いが混じりあって、何ともいえない静寂さをたたえている。吉田氏の話によると、建物の2階は座敷になっていて、そこから庭園が見渡せるようになっている。また1階には、レストランが入る予定で食事をしながら庭園が楽しめる仕掛けになっているということである。

「建物も庭園の一部として考えているから、このように庭園の一部を引き込んでいるんです」と吉田氏。レストランが入るであろうスペースには、〝もみじ谷〟からの小さな水の流れが床に引き込んである。「本当は、ガラスなんかもとっぱらってしまって、外と一体になったらよかったのにと思っているのですけれど、予算や法律のからみから出来ないそうですよ」
（注：建物設計は吉村建築事務所）

このようなところに庭園が！

「最初は、この梅小路貨物線跡地にこうした庭園を造ろうなんて話はなかったんです」まずは、庭園ができるまでの話を伺おうとしたところ、そもそもは庭園の計画などなかったとのこと。「この地に何か平安遷都1,200年を記念するものをとみんなで考えていたのですけれども、この場所でしょう。これでは立地が悪すぎるとそういう話ばかり」確かに、吉田氏の言われる通り、この梅小路の場所は最適とはいえない場所である。敷地のすぐ横をJR線が通り、高架水槽や鉄柱がそびえ立っているし、反対側にはJRの社宅であるアパートが立ち並んでいる。「建物なんて建ちっこないよ、









と　き　平成７年４月23日
ところ　梅小路公園（京都市下京区大宮通七条下ル西入ル上中之町）
最寄駅　JR京都駅より徒歩15分

―庭園・緑の館―
開園時間：9：00～17：00
休 館 日：月曜日及び年末年始
入 場 料：200円

と思っていたら京都の伝統を生かし庭園にしようということになり、まさか自分が設計するとは思ってもみなかったです」

まさに突然降ってわいたような庭園造りだったようである。「だけど平安遷都1,200年の記念庭園だから、それは責任重大でした。夜中にふと気になって目が覚めてしまうことなんかしょっちゅうだったし、現場でもいいものを造ろうとするあまりにけんかもしました」そのような重圧を経ての庭園が、今は美しく緑や水をたたえている姿は、まさに吉田氏にとって感無量であろう。

こだわりずくめの庭園

「庭園といっても、こう格式ばったものではなく、使ってもらえる公園を目ざしたいという思いがありましてね。最初は、レストランの付属公園的な庭園をイメージしていたこともあったんです」レストランの前は、デッキ仕立てになっており、「ここで本当はビールでも飲みたいですね」と吉田氏はおっしゃる。

公園をめざしたという庭園は、池を中心にグルリと回遊できるようになっている。小高い丘には、ひときわそびえ立つ桜の木が薄桃色の花を満開にさせ、非常に美しい。「本当はあの桜の木は設計にはなかったんですけど、いい桜の木があるからと現場の人から言われて途中で入れてもらった木でね。この庭園を造るときは、現場に教えられたり、イメージで何も言わなくても設計の意図を汲んでくれたりと、現場の人と一体になって造りあげたという感じですね」実際TVで拝見したが、赤松を捜し求めて福島県まで捜しに行ったり、もみじ谷の水の流れを自然の流れに近くなるよう、石を一つ一つ削っていったりと、現場のこだわりは建築のこだわりにも似たものがあり感動した。

水鏡の威力

吉田氏がこだわったところといえば、黒御影石の上に薄く水を張って、水自体を鏡のようにする〝水鏡〟の池の部分である。この話になると、吉田氏は俄然力が入る様子。「水鏡に回りの風景を映し出して不思議な空間を生み出すことを狙ったんですけどね。何度も実験して、このくらいなら鏡になると踏んでやったんですけど、どうも水の流れが多すぎて、実際はもう少し改良が必要かなと思っているところです」「本当に鏡になるんですか」と行政の人からも確認を求められたらしいが、吉田氏も実験をもとに説得を重ね、実現に至ったというわけである。

その水鏡のところには花床があり、季節の花が色とりどりの花を咲かせるそうである。その日も、ブルーの花が一面に水鏡に映えていた。「このような日本庭園に、色のついた花を取り入れるのは非常に冒険なわけですよ。だけど、ありきたりな庭園を造るのではなく平成の庭ですからね。思い切って色を取り入れたというわけです。評判？実は、その道の多くのプロの人が視察しているわけですが、特に何も聞いてないんですよ。不満の声もないので一応よかったということかなと解釈してますけれどね」吉田氏、謙遜気味にそうおっしゃったが、決して大きな庭園ではないけれど、この悪条件の敷地を見事に別空間に仕立てあげている。「一般公開が楽しみですね」と伺うと、「反応が楽しみでもあり、怖いようでもあります」と微笑まれた。

梅小路の日本庭園には、そのテーマ〝平安建都1,200年記念庭園〟をともに、造り込みには半端でない思い入れと、現場と設計者一体の意気込みが感じられた。鍵を片手に、庭園各所の扉を開けていく吉田氏の姿は、大事な宝物をそっとあけていくような感じにも思えた。

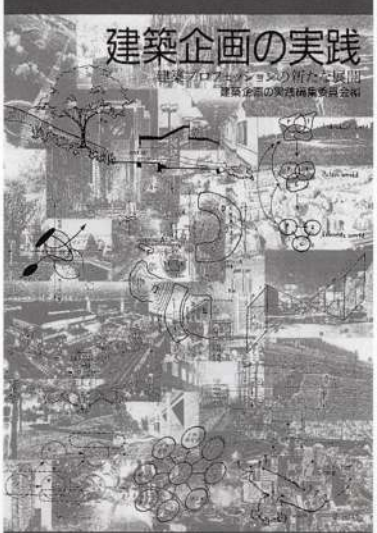
いよいよこの庭園もデビュー。平成時代の新しく、斬新な名園として、語り継がれていくことを願ってやまない。

企画／会員企画小委員会　文・稲木裕子

書評

建築企画の面白さと醍醐味を伝える実践書

柏原士郎



建築企画の実践
建築プロフェッションの新たな展開
建築企画の実践編集委員会 編
彰国社　1995年3月20日刊
A4判　169頁　3,950円

何かが変わろうとしている。世紀末、はては最終戦争（ハルマゲドン）といった物騒な言葉まで飛び交う時代である。少々、マスメディアに操られている感もあるが、現代が大きな時代の転換期であることは、衆人の大多数が感じ、また認めるところであろう。

では、何の転換期か。それは、一言でいえば価値観の転換期である。例の、青島都知事の世界都市博中止の決定は、その是非は別として、何をなし、何をなさざるべきかの判断に真の思想性が問われる時代に突入したということを示す象徴的な出来事であったとも言えるだろう。

「もしかしたら建てないほうがいいという企画もあるかもしれない」という発言を、初めてこの本を手にし、パラパラと拾い読みしていた時に発見し、全く同じことを考えていただけに一気に読む羽目になってしまった。

建築企画の実践編集委員会による「建築企画の実践」（彰国社）は、現代の時代性を適確にとらえて、建築企画の重要性を説き、その方法を数多くの事例と豊富な図や写真によりビジュアルに提示した、これからの環境創造のための優れたテキストである。

編集委員会代表の巽和夫氏は巻頭の論文「建築企画の時代」において建築活動の場の全体を「建築社会」と規定し、これまでの歴史的な変容過程を「生活行為の時代」、「施工の時代」、「設計の時代」、「計画の時代」としたうえで、現代を「企画の時代」ととらえる。その認識は明解であり、説得力をもつ。

その背景を次のように説明する。建築プロジェクトの大規模化・高度化などにより、またプロジェクト環境の複雑化・深刻化などにより、プロジェクトの設定や実現可能性の検討が不可欠になってきた。より高次元の建築企画は設計とはいちおう離れたプロジェクトの事業企画者の性格を強めてくる。こうした業務はかつては建築主・事業主の仕事であったものが、現在はその企画力を超えており、外部の企画者の参画が求められている。さらに、社会的視野における建築企画の発生という問題がある。ニュータウンや都市再開発のプロジェクトにみられるように都市スケールのプロジェクトは、社会的にプラス・マイナスの大きなインパクトを与えている。したがって、行政主体をもまきこんだ社会的調整が必要になってきている。

すなわち、これまで曖昧であった「建築計画」と「建築企画」のそれぞれの内容と領域が明らかにされ、建築企画がより川上にあるという位置づけと環境創造におけるその重要性が説かれる。

本書の構成は、この巻頭論文と巽（教育・研究者）、田村明（都市プランナー）、浜野安宏（総合プロデューサー）、三宗司郎（建築家）という異分野のメンバーによる座談会「建築企画の現在」、豊富なデータに裏付けられた「建築企画を取りまく状況」、さらに構想から実現に至るプロデュースの過程を、方法・手法や技術を交えながら具体的に述べている「建築企画の方法と実践」、最後に建築企画における多様な次元での先端的な諸問題を様々な角度から論じる「建築企画の展開」からなる。

座談会「建築企画の現在」の、企画やプロデュースに豊富な経験をもつメンバーのそれぞれの発言は、企画の真の意味を理解する上で大いに役立つし、何か事業や計画の成功は総て企画の良し悪しにかかっていると思えるほど企画の重要性を伝える上で説得力があり読みごたえがある。

この本の中心を構成する「建築企画の方法と実践」では、アーバンコンプレックス、エコロジカルデザイン、環境創造、デザインツール、参加型建築企画、村おこし、デザインコントロール、ファシリティマネージメントという八つの現代の環境計画に深くかかわるキーワードを魅力的な図を用いて平易にときおこしている。発想のきっかけをつくる有効な情報ソースとしても活用できるだろう。

この本は研究者、都市プランナー、総合プロデューサー、建築家、行政マンなど様々な分野で活躍する27名のメンバーの共同執筆によるものであるが、単なるオムニバスに終わらず、それぞれの個性が垣間見られると同時に、それらの相乗効果により、一種の優れた複合建築と同様の魅力が感じられる。

編集委員会の主要メンバーは、これまでにも「新建築学大系22建築企画」（1982）、「建築企画論―建築のソフトテクノロジー―」（1990）といったややハードな「建築企画」という研究分野の確立をめざした書物を出版してきた。今回の出版はこれまでのものを噛みくだき、建築企画にたづさわる実務者だけでなく勉強中の学生諸君にもその面白さや醍醐味を伝えようとする意図が十分に感じられる。

建築企画に関心を持つ誰でもが読んで明快に理解でき、建築企画について考え始めることができる本である。

（かしはらしろう／大阪大学工学部建築工学科教授）

BOOK STATION
ブック・ステーション

[カラー版]西洋建築様式史

熊倉洋介＋末永 航＋羽生修二＋
星 和彦＋堀内正昭＋渡辺道治

美術出版社
1995.5.10刊
A5判　204頁　2,500円



本書は表紙の言葉によれば「古代から現代（ポストモダン）までの西洋建築の流れを、様式を中心にコンパクトにまとめ、建築関係者はもとより、美術愛好者・海外旅行者の手引書として、学生の参考書として、カラー図版を多用、ビジュアルにわかりやすく解説した」本である。カラーあるいは鮮明な写真と、時代背景をも取り込んだ簡潔な解説で構成されていて、大変読みやすいのが利点である。ただ、写真の真下に建物の名前か載っていたほうが読みやすいか？また、索引がしっかりしており、建築各部の名称（ギリシャ神殿のオーダーなど）や所在地のわかる大まかな地図も添付されている。各章のところどころに、ちょっとしたコラムが掲載されているのも楽しい。ハードカバーではないので、手に取りやすく親しみがもてる本である。　(Y.I)

阪神大震災復興市民まちづくり Vol.1

阪神大震災復興市民まちづくり
支援ネットワーク事務局　編・著

学芸出版社
1995.5.30刊
A4判　176頁　1,854円



この阪神大震災では、地震直後の2月初めより各地において、被災した市民自らの手による復興への取り組みが様々な形で始まった。そして被災者への情報提供や他被災地との情報交換のために多くのまちづくりニュースが発行され、地元だけでなく被災した人々お互いが経験を共有し力づけ合い、また被災地の生の声を広め多くの支援を得るのに大いに力を発揮してきた。この本は、まちづくりプランナー・建築家・大学研究者達が震災後10日目に結成し、行政の参加も得ながら復興まちづくりの共通課題への共同した取り組みを進め、専門的立場から様々な支援活動を行っている「阪神大震災復興市民まちづくりネットワーク」が、これら多くの様々な地元発信のニュースをできるだけ早く・多く全国に送るため、出版社の協力により合本・出版されたものである。逐次、2号、3号の出版の予定で、市民参加のまちづくりの息吹を伝えている。　(I.I)

ー新潮文庫ー
それでも建てたい家

宮脇 檀 著

新潮社
1995.6.1刊
文庫判　290頁　440円



本書は、住宅設計の第一人者宮脇檀が放つ、住宅造りにまつわるさまざまな顛末をエッセイ風にまとめた単行本の文庫判化である。読者層は、これから住宅を建てたい人向け、早い話がプロ向けではなく一般向けの内容である。それだけに、建築業界の人間にとっては、〝そういうことあるある〟といった同感や、人生の一大事〝家造り〟にかける施主の意気込みやとんだ勘違いに圧倒されたり、あきれたりと楽しい一冊である。主婦たちが雑誌でどのくらい住に関する知識を得ているかと、あらゆる女性雑誌を分析し、衣・食の記事に占められて住に関する記事はほとんどないと結論を出し、「だからそんなパーセントの教養しかない女たちと、95%ぐらい住のことばかり考えている私（＝作者）が対決してもスムーズにいかないよ」と分析しているあたりもまたおかしい。　(Y.I)

忘れられた…風景からの…都市論
ロスト・シティ・TOKYO

大岩剛一 著
斎部　功 写真

清流出版
1995.7.15刊
A5判　272頁　2,500円



「ロスト・シティ」は「The City of Lost Landscape」つまり「失われた風景からみた都市」のことであり、このエッセイは、切り捨てられた風景とそれに代わる全く新しい風景という正反対のベクトルをもつ二つの視線で貫かれているとの著者の説明がある。切り捨てられた風景とは長い年月を経た記憶の中の風景であり、それぞれの人々の原体験・原風景につながる。この本において、新しい風景を手がかりに原風景を辿る著者の旅は、子供の頃自由に遊びまわった原っぱの行く末を見定める「原野の記憶から」に始まり「等身大の鏡」、「異界への旅」と続き、興味ひく副題のエッセイは、長年にわたり独自の世界をモノクロ写真に撮り続けた写真家の思いと相まって、忘れてしまっている光景をつい思い浮かべてしまうことになる。まさに、藤森照信氏の推薦の言葉にある「忘れ去られた禁断の光景が目をさます」ごとくに。　(I.I)

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・稲木裕子

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

被災建築物の復旧計画の評価業務について

㈶日本建築総合試験所、建設省及び大阪府、兵庫県等の関係特定行政庁からの要請を受けて、阪神大震災による被災建築物について補修・補強などの復旧計画に係る構造耐力の評価業務を、当試験所と㈶日本建築センターとの共同で実施することになり、4月25日から実施しております。

この評価業務の対象建築物は、阪神大震災で被害を受けた次の1)及び2)に該当するものです。

1) 建築基準法第6条第1項第2号又は第3号のいずれかに該当する建築物で、復旧計画が定められているもの
2) 建築主事が、当該復旧計画は、大規模修繕その他確認申請を要すると判断したもの、又は大規模修繕等には該当しないが第三者機関による評価を受けることが望ましいと判断したもの

本評価業務は、被災建築物の復旧に関して学識経験者で構成される評価委員会を設置して行っています。

申込の受付は、㈶日本建築センター大阪事務所で行っていますが、お問い合わせ等には当試験所庶務課でも応じております。

㈶日本建築センター大阪事務所：TEL 06-947-2725
㈶日本建築総合試験所 庶務課：TEL 06-834-4775(直)

また、本評価の標準手数料は次のとおりです。

Ⅰ. 延べ面積（評価対象部分）が10,000㎡以下の建築物
1) 大規模修繕その他建築確認を要するもの……700,000円
2) 1)以外のもの
(1) 非住宅……600,000円
(2) 住宅
イ. 3階建以下のもの又は延べ面積が1,000㎡以下のもの……400,000円
ロ. イ以外のもの……500,000円
Ⅱ. 延べ面積が10,000㎡を超える建築物……別途算定

なお、平成7年7月末現在で、評価を完了したものが3件、審議中のものが6件となっております。

被災建築物復旧計画評価委員会（敬称略・順不同）

委員長	岡田 恒男	東京大学生産技術研究所第1部教授
副委員長	森田 司郎	京都大学工学部建築学第二学科教授
委員	小谷 俊介	東京大学工学部建築学科教授
	窪田 敏行	近畿大学理工学部建築学科教授
	鈴木 計夫	大阪大学工学部建築工学科教授
	中村 武	京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科教授
	広沢 雅也	工学院大学工学部建築学科教授
	南 宏一	福山大学工学部建築学科教授
	村上 雅也	千葉大学工学部建築学科教授
	脇山 広三	大阪大学工学部建築工学科教授
	渡辺 史夫	京都大学工学部建築学第二学科教授
	鵜飼 邦夫	㈳日本建築構造技術者協会［㈱日建設計構造設計室長］
	福山 国夫	㈳日本建築構造技術者協会［㈱竹中工務店大阪本店設計部副部長(構造担当)］
	中田 慎介	建設省建築研究所第4研究部長
協力委員	八木 秀富	大阪府建築部建築指導課構造係長
	田村 俊郎	兵庫県都市住宅部建築指導課主査
	南出 和延	神戸市住宅局建築部審査課長
	岩城 和喜	大阪市計画局建築指導部審査課構造強度係長
専門委員	井上 一朗	大阪大学工学部建築工学科助教授
	大野 義照	大阪大学工学部建築工学科助教授
	須賀 好富	近畿大学理工学部建築学科教授
	田才 晃	大阪工業大学工学部建築学科助教授
	田渕 基嗣	神戸大学工学部建設学科教授
	中塚 佶	大阪大学工学部建築工学科講師
	西村 泰志	大阪工業大学工学部建築学科助教授
	西山 峰広	京都大学工学部建築学第二学科助手
	藤井 栄	京都大学工学部建築学第二学科助教授
	村上 雅英	近畿大学理工学部建築学科専任講師
	大和田精一	㈳日本建築構造技術者協会［㈱日建設計構造部長］
	近藤 一雄	㈳日本建築構造技術者協会［㈱東畑建築事務所構造課長］
	亀井 功	㈳日本建築構造技術者協会［㈱大林組本店建築設計第7部課長］
	田中 利幸	㈳日本建築構造技術者協会［㈱竹中工務店設計部構造課長］
	勝丸 文彦	㈳新日本建築家協会［㈱構造計画研究所大阪支社長］
	馬瀬 芳知	㈳新日本建築家協会［㈱馬瀬構造設計事務所代表取締役］
	徳田 裕英	㈳日本建築士会連合会（㈳大阪府建築士会）［㈱東畑建築事務所構造部構造部長］
	米倉信太郎	㈳日本建築士会連合会（㈳大阪府建築士会）［㈱ZEN建築構造事務所代表取締役］
	北川 勝	㈳日本建築士事務所協会連合会［㈱安井建築設計事務所大阪事務所構造部副部長］
	八木 貞樹	㈳日本建築士事務所協会連合会［㈱大林組神戸支店建築設計部副部長］

「建築と社会」誌

特集一覧● 1975～1995

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築＊	●インテリア＊	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法＊	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル＊	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者＊	●集合住宅の設備＊
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向＊	●建築基礎構造の問題点＊	●医療施設＊	●床工法と材料＊	●建築防災と法＊	●市街地整備＊	●工場建築の設備＊	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト＊	●結露防止対策と断熱材料＊	●第23回青年技術者＊	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体＊	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法＊	●身障者施設＊	●照明設備＊	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ＊	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者＊
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水＊	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料＊	●電波障害と建築＊	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号＊	●第25回青年技術者＊	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建物の終局強度の検討＊	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望＊	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物＊	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集＊	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法＊	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅＊	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 Vol. 62	●職能論＊	●中国の論文—北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法—安全な環境をめざして＊	●都市住宅—住まい手からの発想＊	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設—地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観—まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎(第一期)＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎(第2期)	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—Ⅰ—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—Ⅱ— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創念100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境の時代建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●台一仮設ぶの—魅力に学ぶグのハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界＊	●音—騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合—よりシンプルに、確実に— ●大阪WTC	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品				

＊印は欠号

ARCHITECT's EYE

安全と安心感

内井　昭蔵

災害に出会うたびに私達は改めて安全性について深く考えさせられる。自然の力が人間の知恵をはるかに超えたものであり、このように計り知れない力に対し安全という概念は果して存在し得るのであろうか。安全は幸福や健康と同様、絶対的な価値ではない。あくまでも相対的であって努力目標とでもいうものではなかろうか。

建築の安全にとって今、構造の丈夫さが最も注目されている。確かに崩壊は生命に関わることだから当然だが、構造だけが丈夫であっても人間の生活が営めなければ意味はない。水や電気、ガス、それに通信、交通などのいわゆるライフラインの断絶は今や人間の生存をおびやかす不安材料となっている。地震や噴火や暴風など、自然災害は誰も未然に阻止することはできないが、その災害の範囲を極力少なくし、又、仮りに災害が生じても急速に回復し得る手段、方法をあらかじめ計画の中に組み込んでおくことはできると思う。

いくら建築の安全性を高めるといってもきりはない。問題はどれだけ巾広く、総合的に安全をとらえることができるか、ということにかかわっている。私達は安心感を持ち得るような健康なまちづくりをしなければならないと思う。

建築家・京都大学教授

京都を考える——1

西村　幸雄

「京都」皆さんは京都にどんなイメージをお持ちだろうか。古都、古いしきたり、雅(みやび)、心のふるさと、いろんなイメージをお持ちだろう。その京都の街が今、転機を迎えていると言われている。というよりこのままでは京都は寿命がつきてしまうのではないかというささやきさえ聞こえる。街の中心人口は減りつづけ、「学問の街京都」から大学が出て行き、「もの作りの街京都」から企業が出ていっている。

そもそも街とは何なのか、一体誰のためにあるのか。これまでいい街か、活気のある街かというのは、その街でどれだけ経済活動がされているかと言うことで評価されてきた。しかし、最近はこれが行き過ぎてしまい、経済が強調されるあまり、都市から人がはじきとばされてしまった。大都市では、今そこに気がつき、種々の方策で防止するのにやっきとなっている。

京都も種々な政策等を行い引きとめにかかっているが、幸い京都市は他の大都市に比べて街の中心からの人口流出は少ない方だ。今ならまだ商店街も残っている。大学もまだまだ残っている。やはり都市というのは経済も大切だけれども、そこに人がここちよく住めてこそいい街であるといえる。京都は今ならまだまにあう。伝統を守りながら新しい街造りをいかにしていけばよいか、次の機会に書いてみたい。　(次号につづく)

京都市都市住環境局営繕部長

「土」について——2

與謝野　久

(前号からつづく)　この時から、私の土との格闘は始まったと言える。

旧ビルの外壁に使用した焼物は、一世紀程前の技術による手練りで吸水率が高い反面、２回以上焼成するという手の凝った工程を経ているため、石英質に似た表面の半透明感は何ともいえない「やわらかさ」と「奥行きの深さ」とに充ちていた。海の向こうの一世紀程前の職人芸の粋を、いかに現代のこの国の職人気質に橋渡しするか…が私の役割であった。

PASSIONがこの橋渡しのキーコンセプトであったと思う。「情熱」と訳されるこの言葉は、裏の意味では「身を賭す、犠牲」などを表わし、２つの主体との連帯を生み出す動機を秘めている。

形と質感、色艶、そして旧ビル設計者の「人の気配」までも、その焼物の完成度合に求める新ビル設計者側のPASSIONが、職人気質を痛く刺激したようだ。

出来上がったビルの外装材を改めて手で触れて見て、これは製作にあたった職人の「祈り」の結晶であるとの深い感慨にとらわれた。

それにしても、ここまで人を夢中にさせるほど、土には人を大きく感化させる空恐ろしいほどの力があるもののようだ。「土は人の感化の母である」とは言い得て妙な言葉ではある。

日建設計取締役大阪本社副代表

蠟燭能

野村　充

大槻能楽堂で蠟燭能を観た。上演されたのは梅若六郎による「重衡」。修羅物である。その名の通り、白州に並べられた燭台のあかりが舞台と橋懸りを照らす。蠟燭の薄あかりに、能面と金銀の糸を贅沢に織込んだ能衣裳が浮かんでいる。

鈍く輝く衣裳が夢のような荘厳さを漂わせ、極度に抽象化された演者の動きは観る者を夢幻の境に誘う。能は情念の造形であり過剰な明るさを拒否する演劇なのだ。暗闇こそ幽玄の世界に相応しい。

谷崎潤一郎は『陰翳礼讃』のなかで能につきまとう暗さとそこから生ずる美しさについて述べている。また私達の祖先がいかに陰翳の秘密を熟知し、光と陰との使い分けに巧妙であったかに感嘆している。そして、「日本座敷の美は全く陰翳の濃淡に依って生まれているのでそれ以外に何もない。」と記している。

現代建築には、この光と陰の濃淡の感覚がない。均質な照明が均質な空間を隅々まで照らして陰や闇の部分を奪い、空間を平板で有限なものにしている。私達は、先達が培ってきた光と陰に対する鋭敏な感覚をまだ失ってはいない。陰と闇をつくり、空間に濃淡と奥行きを与えることを考えなければならない。

妖しげにゆれる蠟燭の薄あかりのなかで、後シテの舞を追いながらそう思った。

竹中工務店設計部設計課長

建築の眼

日本建築協会

会員作品特集

私の空間作法

SUGITA	塚口　明洋　塚口明洋建築研究室
国立淡路青年の家 浴室棟・講師棟	山本　俊輔　スペース クリエーション
SUN UTSUMI 50	富川桂二郎　大成建設名古屋支店設計部
浄るりシアター ―能勢町ふるさと会館	加藤　精一　ジャス
須磨高倉台の家	松下　好宏　松下 Atelier/MOA 設計室
M邸	新保　哲也　新保哲也アトリエ
The ₩ House	吉村　英祐　大阪大学
らいこう庵	村重　保典　村重保典+現代建築設計事務所
総本山智積院第三行堂	八木　康夫　DESIGN TC 建築研究所
エムズコート	鈴木　隆雄　ティ・ベル企画設計
くずかわ茶寮　寅や	岸　　一　アトリエ JIGSAW
学校法人池坊学園 美心館	北條　　誠　都市居住文化研究所
モンベル本社ビル	三谷　和巳　三谷設計事務所
和泉府中みどりビル	浅野　　裕　建築計画 A&A 浅野設計室
穂波町庁舎	広岡建築事務所
久万町明神小学校(改築)	臂谷　年勝　日総建
阪南市立西鳥取公民館	森　　幹雄　MAN プランニングオフィス
公冠株式会社本社ビル	山崎　義康　山崎義康建築事務所
博多駅南MTビル	志村　公夫　志村建築設計事務所
県営住宅雄湊団地	岩橋　重文　岩橋設計
F邸	岩本　貞幸　岩本貞幸建築・都市研究所
菓子処　青柳屋	沖本　弘至　広島デザインハウス
天・地・人の庭	長谷川弘直　都市環境計画研究所
尼崎市都心の水辺空間	横山　浩二　環境設計
高台寺・夢あかり ―ライトスケープ―'95春	村上幸三郎　東芝ライテック

この会員作品特集も２回目を迎えました。編集者の心配を吹き飛ばすほどにバラエティに富んだ力作が、会員諸氏より多数寄せられ、自然とレイアウトなどにも力が入った次第です。

ここに改めて、ご協力いただきました会員の皆さまに、また企画を担当した編集委員の皆さま、事務局編集担当者に、感謝申し上げます。

作品は私たちの「いのち」です。ささやかでも、思いを込めた作品への情熱を、限られた条件下の紙面ではありますが、このような機会を作って会員の皆さまにご紹介することで、会員間の輪が広がり、また作品への話題や反省の糧としていただければ幸いです。

ご提出いただいた作品の中には、ぜひカラーで掲載したいものもありましたが、現状の予算の関係で、それが出来なかったことは残念です。

将来この企画に、多くの会員諸氏のご参加を得て、カラー刷りでページを飾ることの出来る日が来ることを夢見ております。

編集委員長●荒井　清

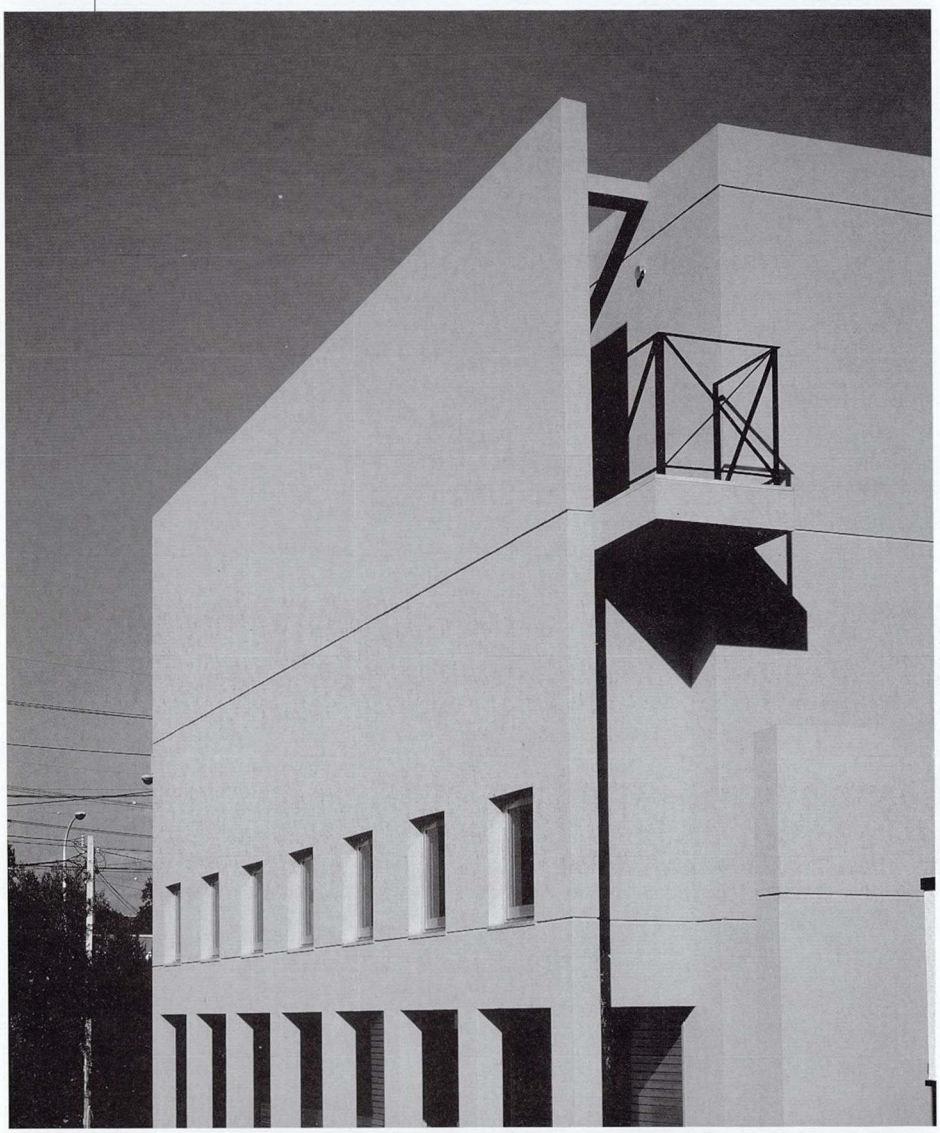
企画協力　編集委員会作品作風小委員会

私の作品

SUGITA

リズムをもつ壁

塚口明洋　塚口明洋建築研究室



国道側より壁を見る（※）

奈良市の国道沿いに建つ、1階が店舗の住宅である。交通量の多い国道（西側）に面しては、規則正しい開口のリズムをもつ壁を設けた。これは、都市の中での建築のもつ象徴性を大切にしたかったからだ。

また、2階の住宅に対しては、南側に壁、階段、柱廊を設けることにより、都市への生活の広がりを助ける外部空間を計画した。

そして、3階に設けた住宅のリビング・ダイニングは、東の若草山に対しての眺望を考えて、東側は全面開口とした。

建築主の奥さんは、30帖ほどある広いリビング・ダイニングで、空の雲の動きを見るのがとても楽しいそうである。　（塚口明洋）

所在地　奈良市三条大路5丁目1—28
設　計　塚口明洋建築研究室
施　工　浅沼組
敷地面積　573.71㎡
建築面積　259.39㎡
延床面積　660.40㎡
構造規模　RC、3F
工　期　1994年3月〜1994年10月
撮　影　納崎雄二（※）、塚口明洋



南側より柱廊を見る（※）



東側開口を通して若草山を見る

私の作品

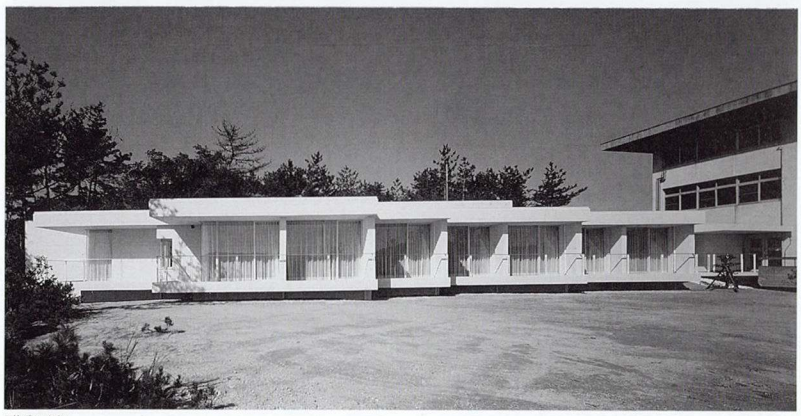
国立淡路青年の家 浴室棟・講師棟

山本俊輔 スペース クリエーション

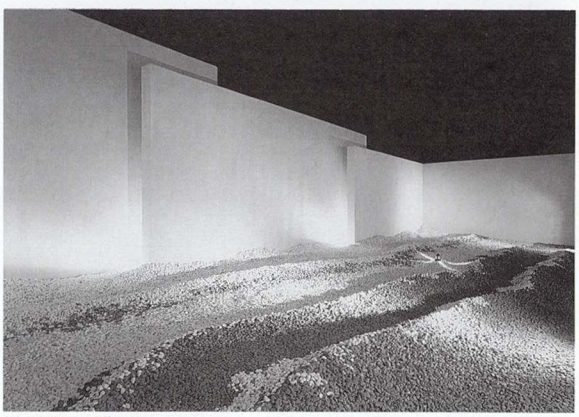
海へ連続する



浴室棟外観



講師棟



浴室棟1階石庭

所在地　兵庫県三原郡南淡町阿万塩屋757-39
基本設計・監理　近畿地方建設局神戸営繕工事事務所
実施設計　スペース クリエーション
施工　地崎工業大阪支店
敷地面積　163,661.00㎡
延床面積　12,145.22㎡
床面積　750.95㎡（今回計画）
構造規模　RC、2F、1F
工期　1994年3月～1994年10月
撮影　酒井文明（SS大阪）

社会教育施設として昭和44年にスタートした国立淡路青年の家は、現在、生涯学習施設としての多様な展開を進めている。その一環として、今回、講師棟と浴室棟が計画された。敷地は、鳴門海峡を望む景勝地であり、計画に際しては、この海辺の風景との調和をテーマとし、心身ともにリフレッシュできる施設となるよう心掛けた。

8つの宿泊室と談話室からなる講師棟は、既存の本館棟の眺望を損なわないよう、軸線を10°振り、地形に沿って緩やかに雁行させることで、海への眺望を最大限確保し、宿泊室のプライバシーおよび快適性を高めている。

大・中浴室とホールからなる浴室棟は、1階大浴室に、吹上浜に打ち寄せる白波を表現した石庭を、2階中浴室に、岬より眺める雲海を表現した石庭を設けた。また、吹抜けのホールは大きなガラススクリーンの開放的なファサードとし、外部の松林に連続する空間構成とし、それぞれにくつろぎを演出している。

（山本俊輔）

私の作品

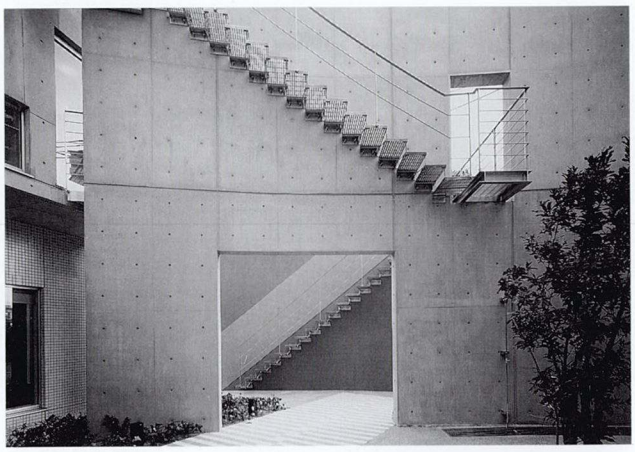
SUN UTSUMI 50

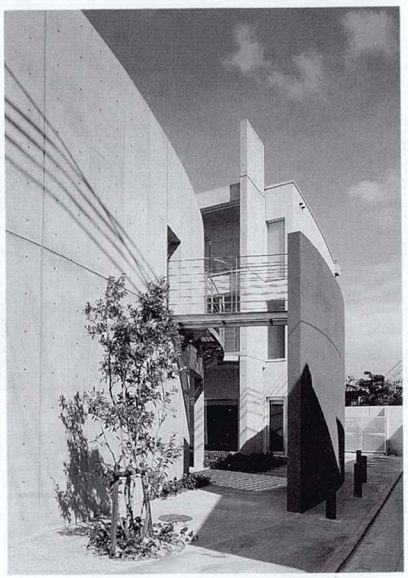
(愛知機械工業健康保険組合内海保養荘)

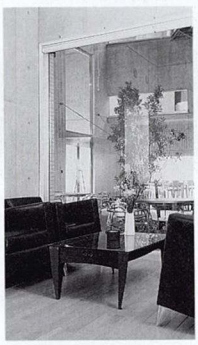
反転しつづけるあいまいな空間

富川桂二郎　大成建設名古屋支店設計部









M・C・エッシャーの作品に、＜相対性＞というリトグラフがある。階段が上下左右おかまいなく空間を貫き、重力感の全くない空間を描き出している。

同じく＜画廊＞では、見ているはずの絵画の中の建物から顔を出している人に、逆に見られているというものである。

＜メタモルフォーシスII＞では、白と黒という図と地の反転による様々な変化が巧みに表現され、見ている者に不思議な感覚を思いおこさせる。

●

これらエッシャーの3作品は、ものを見るということは頭で考えることなのであり、思い込みや常識にのっとった頭で見ると、一瞬にして裏切られてしまうことを教えてくれる。

●

＜相対性＞…

直線、曲線、ブリッジなど変化に富んだ階段があり、特に外部のものは固いコンクリートの壁から軽やかに片持ちでせりだし、パティオのオブジェとしての様相を呈している。

＜画廊＞…

利用者はパティオを介してお互いの行動を見ることにより、自らの行動に影響をうける。意図的に開けられた開口部は額縁のように様々なシーンを切り取り、ガラスに反射された虚像も重なり、内外の空間をあいまいにする。

＜メタモルフォーシスII＞…

色彩はタイルや塗装の白、打放のグレー、アートグレーベルの黒というようにモノトーンにまとめ、光と影による変化がオーバーラップして時の自然な移ろう様を豊かに感じることができる。光と影は図と地の関係に対応するが、常に反転しつづけ、どちらが図なのかあいまいになる。

●

様々な質感と形態を持つ壁がパティオを囲み、ガラスが空気を隔てるが、内部でもなく外部でもないあいまいな空間が、人間の行動を豊かにするに違いない。

(富川桂二郎)

所在地　愛知県知多郡南知多町大字内海字西端後5番
設　計　大成建設名古屋支店設計部
　　意匠：富川桂二郎
施　工　大成建設名古屋支店
敷地面積　504.97㎡
建築面積　300.22㎡
延床面積　802.10㎡
構造規模　RC壁式構造、3F
工　期　1994年5月～1995年2月
撮　影　エス・ゴトー

私の作品

浄るりシアター　能勢町ふるさと会館

加藤精一　ジャス

鉄骨造を和風仕立てに

能勢町には200年の伝統を持つ郷土芸能「浄瑠璃」があり、今も三派の太夫さんを中心として保存・継承されている。浄るりシアターは、このような町の交流センターとして建てられた。

茅葺き民家の座敷で三味線の深い音色に乗せて語られる能勢の浄瑠璃には、現代人の生活に失われた心のふれ合いの感覚がある。与条件の中で何とかそんな感覚のあるふれあいの場をつくれないかというのがテーマであったように思う。「芝居小屋」というフィジィカル・イメージは、割に自然にこのテーマになじむように思われた。鉄骨造を選んだのは別の理由が大きいが、かつての木造建築の持っていたような架構性・仮設性を表現してみようとも考えた。

この建物には、下地材と仕上材の区別がない。あるものはできるだけそのまま見せようと思った。この点、現場では目に見えない苦労があったが、民芸調ではない簡素だがヒダのある和風の趣をつくりたかった。

音響の面では、素材直仕上と乾式工法のためのジョイント処理に悩まされたが、比較的柔らかい響きのホールとなった。

オープニングに演じられた鶴澤燕三さんの太棹の響きは、今も耳の奥に残っている。　（加藤精一）



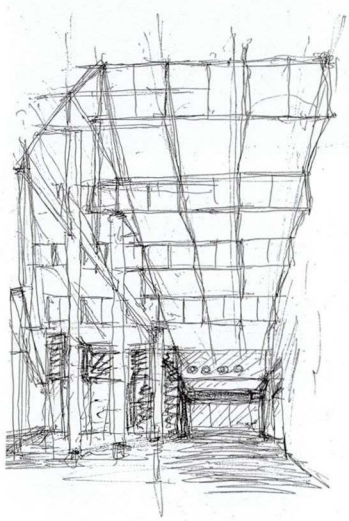
正面夜景



ロビー
（正面奥がホール）



ホール内部（緞帳は「野間の大けやき」を描く）



所在地　大阪府豊能郡能勢町宿野30番地
設計監理　ジャス・坂倉建築設計共同企業体
施　工　日本国土開発大阪支店
敷地面積　6,193.5㎡
建築面積　2,656.7㎡
延床面積　3,167.2㎡
構造規模　S、2F
工　期　1991年11月～1993年4月
最寄駅　能勢電鉄山下駅
撮　影　フォトス・U

私の作品

須磨高倉台の家

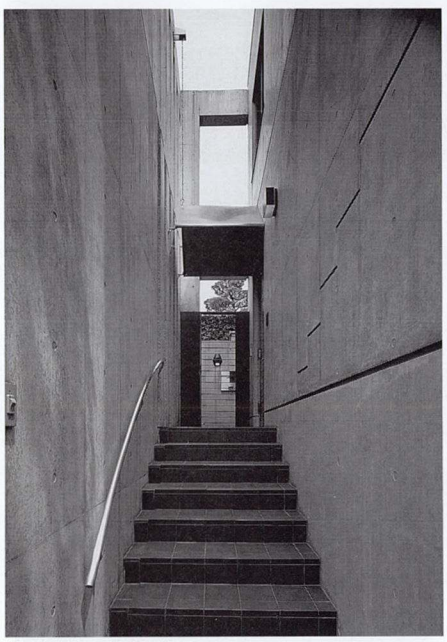
松下好宏　松下Atelier/MOA設計室

2本の大梁で表現する住空間

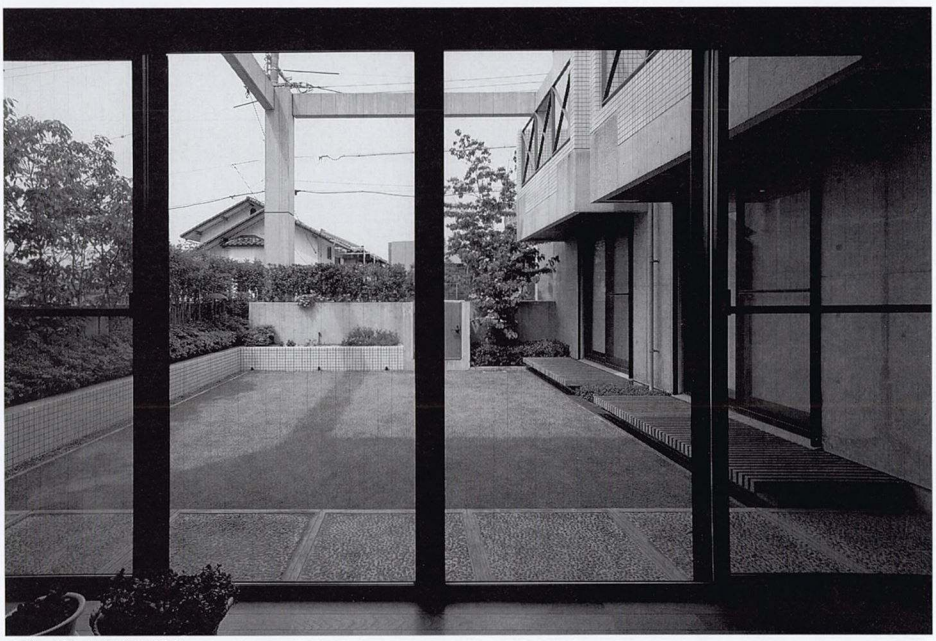


全景

所在地　神戸市須磨区高倉台
5-16-6
設計監理　松下 Atelier／MOA 設計室
施　工　大一建設工業
敷地面積　225.27㎡
建築面積　101.89㎡
延床面積　238.63㎡
構造規模　RC、BIF、2F
工　期　1991年10月～1992年9月
最寄駅　神戸市地下鉄妙法寺駅
撮　影　高橋祐嗣写真事務所



入口階段から玄関を望む



リビングから中庭を望む

遠くに関西国際空港を望み、眼下には瀬戸の海と本土と淡路島を繋ぐ明石架橋の工事現場が広がる静かな須磨の高台に建つ住宅である。四人家族の住まいとして設計された。

この建物の持つシンプルなデザインは、清楚な佇まいと相まって、周辺にある種のエキサイティングな存在感を醸し出している。素材のコンクリートは打放し仕上げとし、中庭を単なる外部空間としてとらえるのではなく、室内住空間の一部として明確に位置付けをし、建物の形状も、空間を横切る2本の大梁をもってこれを表現している。このことは、閉鎖的になりがちなこの種の建物に開放性と重厚性を同時に与える結果ともなっている。

地下1階は駐車場、倉庫、1階はリビング、キッチン、客室等を配し、2階は寝室・浴室等の生活空間であり、居室の開口部はすべて南面に取り設計した。

道路に面した大壁の三つの連続枡のデザインは、三代にわたる健康な住環境が保たれることを願った気持ちを表したものである。

要所要所に植栽したヤマボーシ・イヌシデ・ヒイラギ・アラカシ・シラカシ等の樹木が、この建物をより一層引き立たせている。（松下好宏）

私の作品

M邸

新保哲也　新保哲也アトリエ

変化し連続するキューブ

今回の計画は、大阪の都心部より適度に離れた阪神間の閑静な住宅地である武庫之荘における、ご夫婦とそのご子息の３人家族のための住宅である。

敷地は西側に 8m、南側に 5m の前面道路をもつ40坪弱の角地である。閑静な住宅地ではあるが、北、東両側には木造２階建ての隣家が軒を並べて建っているという状況である。

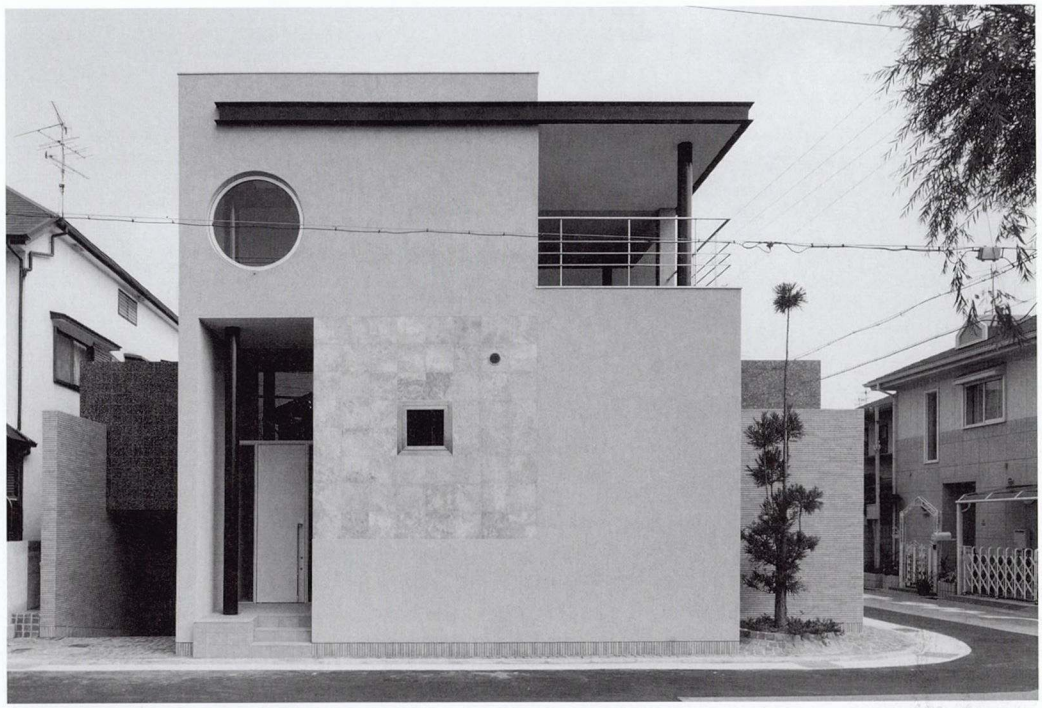
建物は北側の駐車場と南側のドライエリアの間に建ちあがり、スキップフロアのため、法規的には地上３階、地下１階となるが、全体の高さは周囲の住宅と同程度におさえられている。

全体構成は、単純なキューブを何かが突き抜けるというところから導かれ、それは素材の変化をともなって表現される。その際、内外空間の関係にも変化が生じ、それらは、連続感をもって、限られた室内空間に拡がりをもたらす。

“周囲の視線に悩まされることのない生活を”という希望に対して、直接道路に面してはあまり開口部を設けず、ドライエリア、テラス等を介して採光がとられている。ドライエリアを含め地下部分の計画に際しては、武庫川流域のこの地域では、地下水位も高いことから、快適な生活が維持されるよう細心の注意が払われた。しかし隣家が境界線まで迫っていることもあり、施工は困難を極めたが、二重三重の対策と施工者の努力により、地下空間もドライな状態で保たれている。

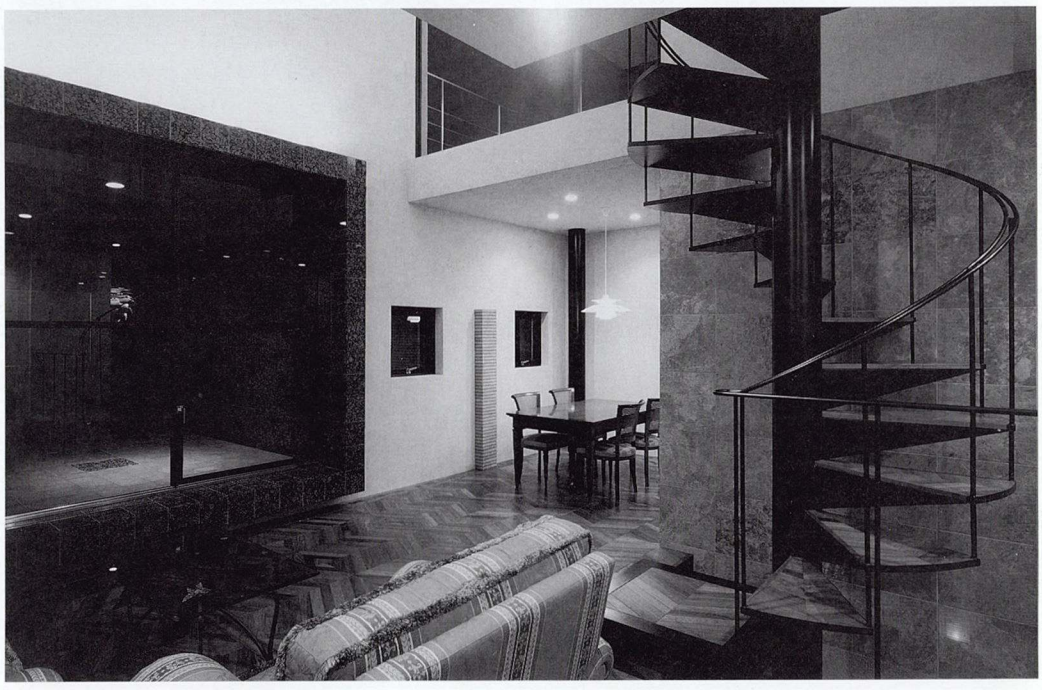
このようにして市街地の限られた敷地で、プライバシーを守りながらも、のびやかさを確保された住宅は、M氏の街への想いを表すように、角地のコーナー部分が街路に開放され、そこに植えられた樹とともに街の景色にとけこんでいくことを希望する。

（新保哲也）





所 在 地　兵庫県尼崎市武庫之荘
設計監理　新保哲也アトリエ
施　　工　大工建設
敷地面積　124.34㎡
建築面積　 79.58㎡
延床面積　182.12㎡
構造規模　ＲＣ壁式構造、ＢＩＦ、3F
工　　期　1993年９月～1994年９月
最 寄 駅　阪急電鉄神戸線武庫之荘駅
撮　　影　絹巻　豊

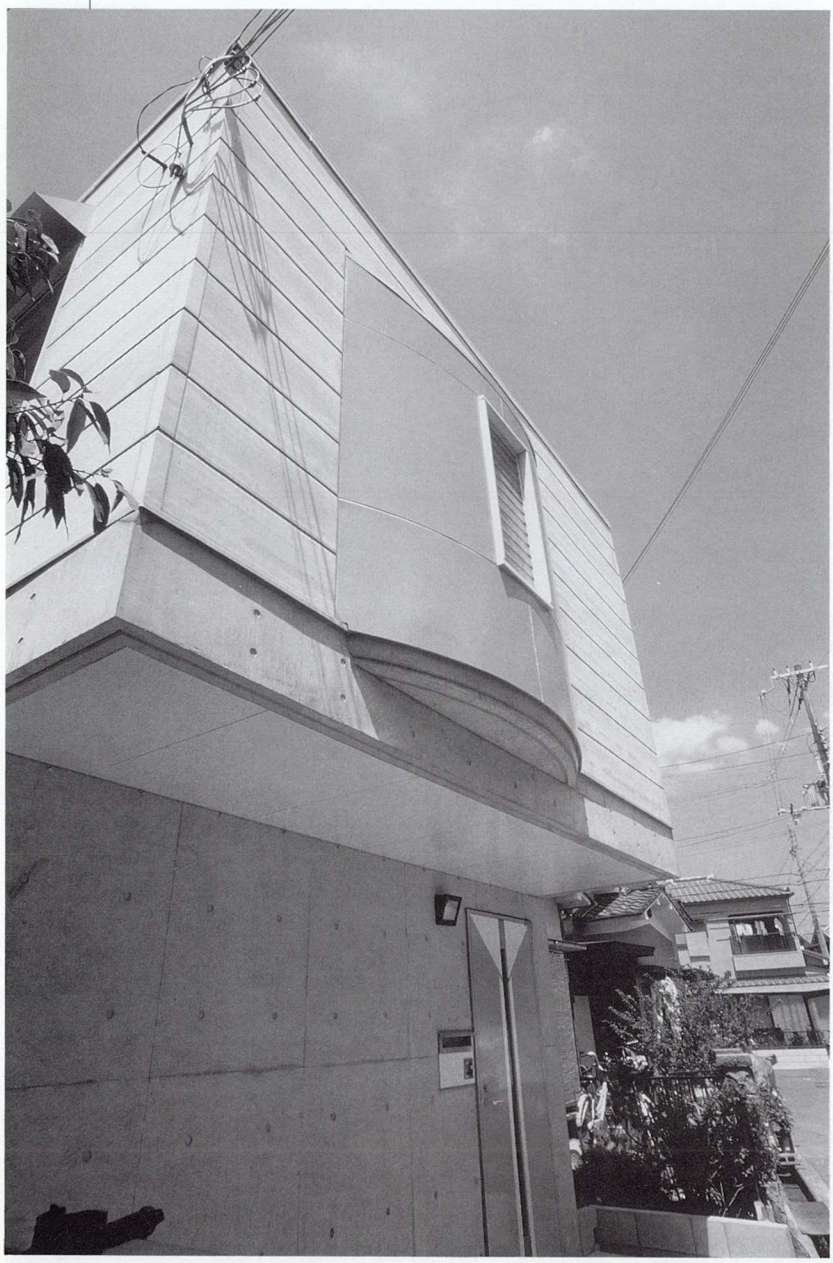


私の作品

The Y House

吉村英祐　大阪大学助教授

環境・構造・施工とデザインの融合



正面外観



南側外観。外壁材は層ごとに異なる。手前の緑は公園の植栽



2階階段室

敷地は東西に長く、東側が指定道路、南側と西側が都市計画公園に面する第二種住居専用地域で、建蔽率が10%緩和されるという好条件に恵まれている。南側に開口部を大きくとり、公園の緑を借景とすることは最初の段階で決定した。北側隣家への日影条件を以前より悪化させないこと、排水系統や屋根工事の簡素化をはかることから決まった北下がりの片流れ屋根が、住宅の形態を大きく特徴づけることになった。

1階は防音室や水回り諸室への対応からRC壁式構造、2階以上は重量軽減と工期短縮のため鉄骨造とした。耐震性には特に注意し、構造設計者とバランスのよい平面、適切なブレースの配置、屋根の軽量化、鉄骨柱断面のワンサイズアップなどを十分検討していたため、竣工後半年で兵庫県南部地震の激しい揺れに見舞われたときも、不安は全く感じなかった。

将来の高齢化に備え、原則として室内床面の段差をなくす、玄関上がり框の段差を小さくする、便所のスペースや廊下・階段の幅にゆとりを持たせるなどの配慮をしている。また工期短縮、工程数削減、住宅設備の簡素化によるコストダウンも設計テーマの一つであったが、鋼材価格の下落や現場の努力にも大いに助けられた。　（吉村英祐）

所在地　大阪府枚方市春日元町1
設計監理　吉村英祐
施　工　阿倍野建設
敷地面積　94.33㎡
建築面積　54.46㎡
延床面積　115.47㎡
構造規模　1F／RC壁式構造
　　2、3F／S
工　期　1994年2月～1994年7月
撮　影　吉村英祐

私の作品

らいこう庵

村重保典　村重保典＋現代建築設計事務所

空間の移行と変化－旧から新へ－

このプロジェクトは日本の古い民家を改修し、現代的な住空間を創造しようとするものである。民家の外観は大きな屋根によって特徴づけられており、ほかにコンクリート製のガレージが敷地を占める大きな要素であった。

●

われわれは現代的な手法により伝統的な建物との対話を試みようとした。そのためにまず、日本間を囲む障子以外の既存の間仕切りをすべて取り外し、それによって日本間を民家の象徴として際立たせるようにした。それはまた、日本間を入れ子とすることで強調することである。

●

新しいリビングダイニングルームをデザインするにあたり、古い民家における日本間のプロポーションが参照されている。それはまるで日本間の本質を二重写しにしたようにも見え、それを自然の中に露呈しようとしている。露呈と囲い込み。新しい部屋においては、庭が部屋を包み込んでいる。

●

透明性の高いリビングダイニングルームは外部を二分割し、その柱は民家の柱のグリッドにのっている。各部屋のバランスを保つために、最小限の表現を選択している。木とコンクリート、そして鉄。新旧の差異を強調するため新しい要素にはフラットルーフを採用した。それにより、敷地においては民家に優位が与えられている。

●

新旧の結びつきは第三の要素である渡り廊下によって強められる。それはプラン上ではカーブした壁とキッチンを囲い込む壁の間に見出せる。それには異なった色を使うことで自立性を与えている。渡り廊下はプラン上に動きを与え、日本の伝統的空間から現代的な空間への橋ともいえる。旧から新への空間の移行と変化が設計のコンセプトとなっている。ただし床全体は同一レベルのフローリングにすることで連続性をもたせ、同時に高齢化社会への対応を考慮した。

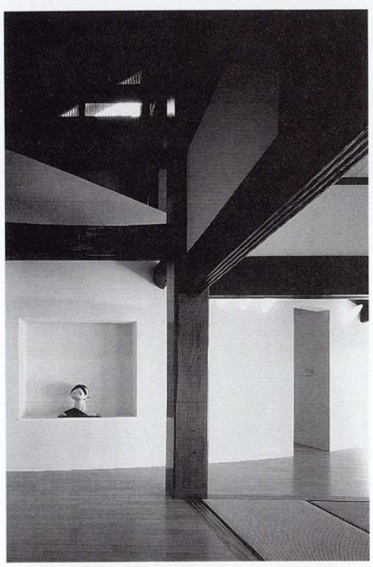
●

設計においてほかに考慮した点は、大黒柱の周囲を開放し、その存在感を強調したことである。われわれはまた天井を取り外し、屋根架構を露出させ、垂直方向に空間を拡張し、同時に上部にとった二つの三角形の窓から透過した自然光を得ることができた。しかし、内部の部屋は天井を低くおさえ、プライベートな雰囲気をもたせている。動線部は天井が高く開放感があふれる。住むことと展示するための、質を備えた空間の創造を目指した。

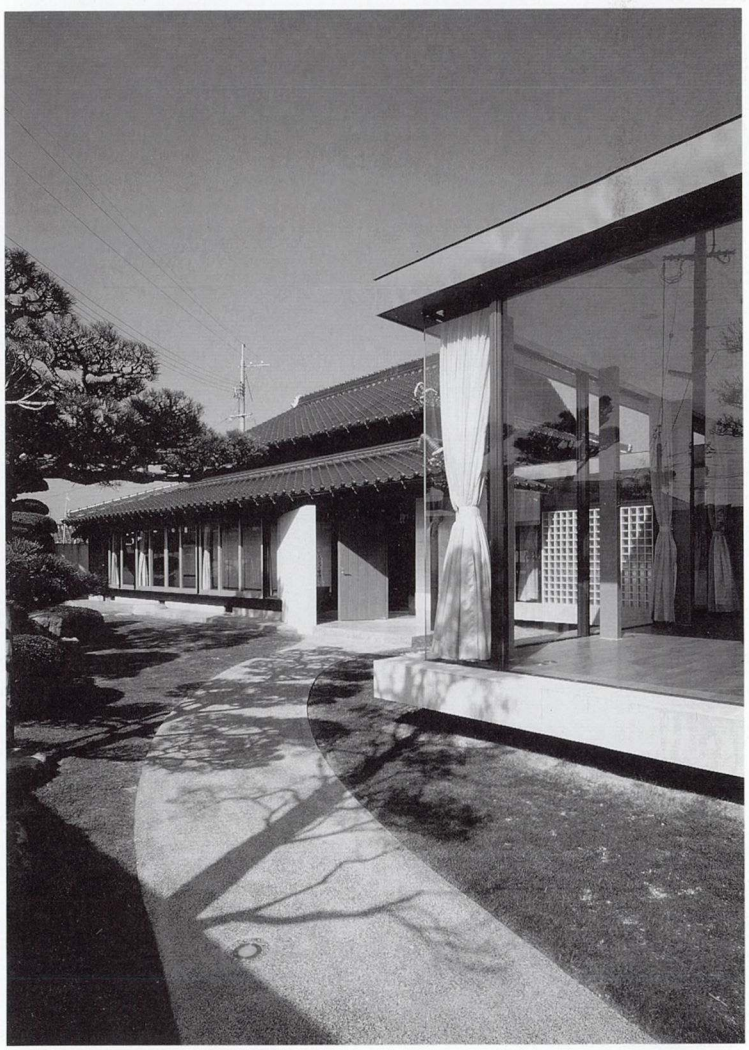
（村重保典、アルバロ・バレラ）



母屋(左)と増築部分(右)を直接つなぐのではなく、ジャンクションとなるスペースをつくった



大黒柱。屋根の妻側の壁に三角の窓を



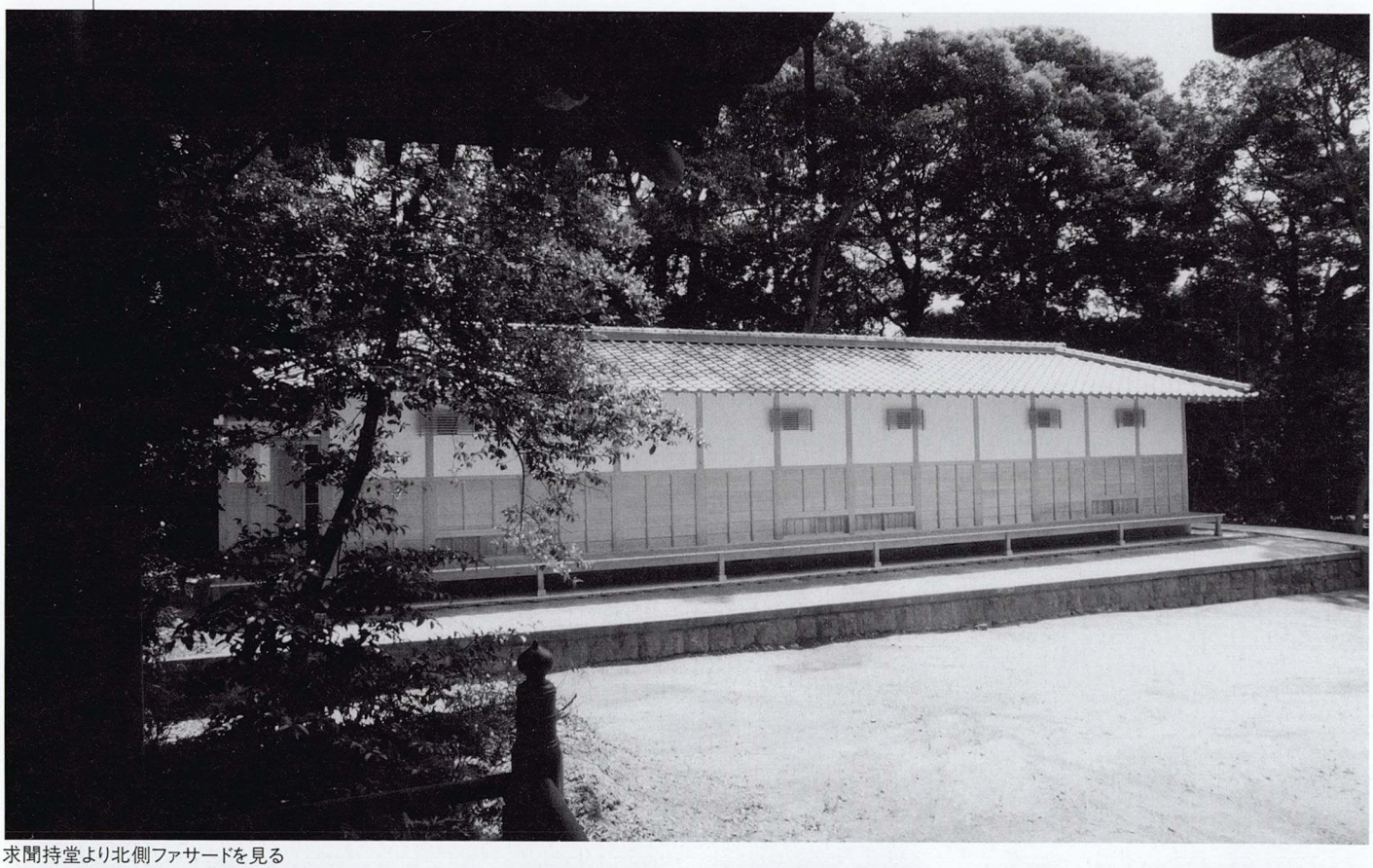
所在地　山口県岩国市車町1丁目13-19
設計監理　村重保典＋現代建築設計事務所　アルバロ・バレラ
施工　大島組
敷地面積　1,155.00㎡
建築面積　237.94㎡
延床面積　234.82㎡
構造規模　木造平屋建、一部S平屋建
工期　1993年10月～1994年5月
最寄駅　山陽本線岩国駅
撮影　岡本公二

私の作品

総本山智積院第三行堂

八木康夫 DESIGN TC 建築研究所

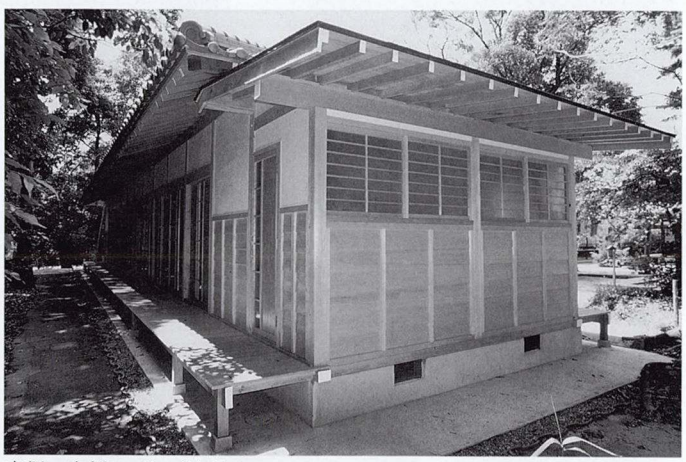
歴史をたどって「行の場」を計画



求聞持堂より北側ファサードを見る



西側、南側ファサードおよび拝殿を見る



東側、南側ファサードを見る

智積院は真言宗智山派の総本山であり、宗団には成田山新勝寺・川崎大師平間寺・高尾山薬王院等の大本山をはじめ、東京の高幡山金剛寺・栃木の出流山満願寺・名古屋の大須観音宝生院を別格本山として、全国に三千余の寺を推している。

今回計画された第三行堂は、智積院山内の北東域に配置され、正面には興教大師の御遺徳をしのび発願され約400年前に建立されたという開山堂が、その横には拝殿、そして約200年前に建立された求聞持堂が配されている。これらの空間構成、方位および重畳を踏まえ、「行の場」は計画された。（八木康夫）

所在地　京都市東山区塩小路通大和大路東入
設　計　DESIGN TC 建築研究所
施　工　松井建設大阪支店
敷地面積　43,213.070㎡
建築面積　74.145㎡
延床面積　74.145㎡
構造規模　木造平屋建
工　期　1994年8月～1994年11月
撮　影　八木康夫

私の作品

エムズコート(M's コート)

鈴木隆雄　ティ・ベル企画設計

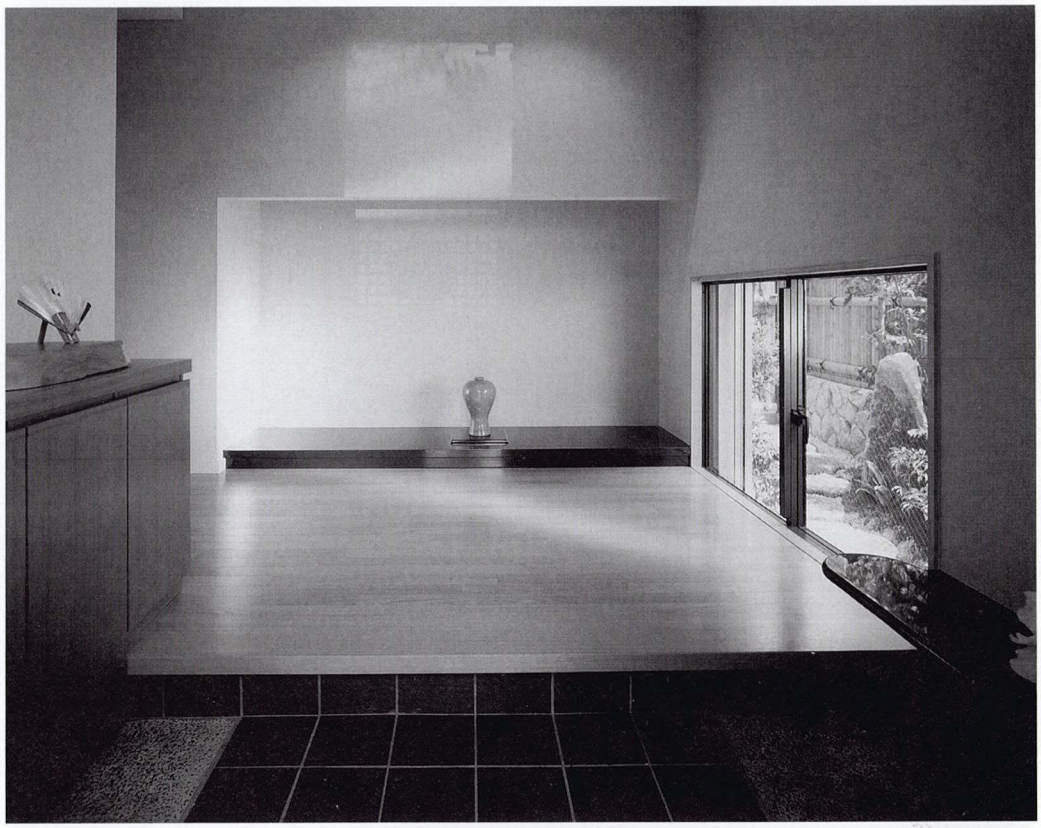
町並みとの調和

阪急京都線茨木市駅より西側に広がる住宅街に位置し、すぐ西側には中央公園へとつながる、趣のある旧住宅地である。前面道路は狭く、道路空間は閉鎖感があり、何としても開放感を演出したいという気持ちが強く、今回の形になった。

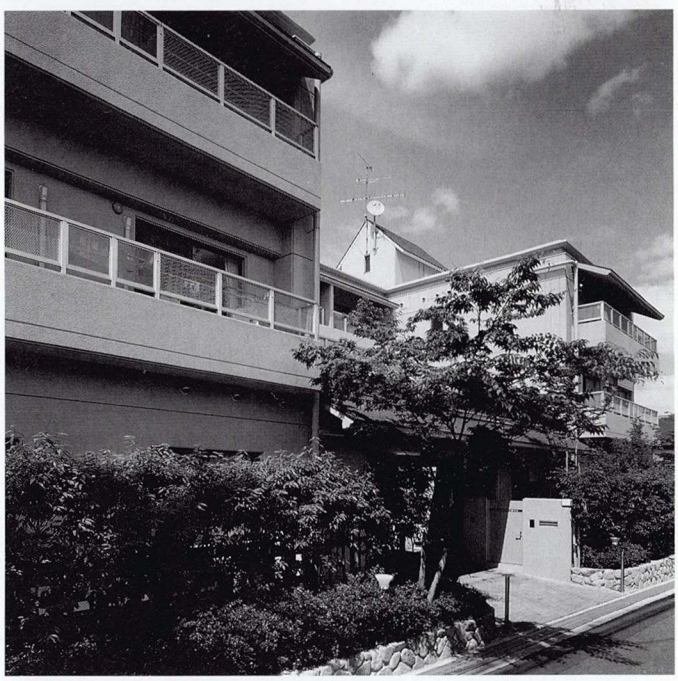
建物はできる限り低く、道路に面した外壁はブロックごとに変化（セットバック）させ、建物の周囲には植樹帯を設けるなど、緑と風と太陽の恵みを公共エリアに提供できるように計画した。

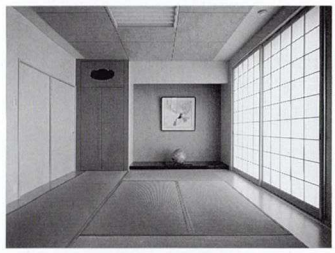
建物の用途は、オーナー宅を含む賃貸マンションであり、ワンルームタイプ、ファミリータイプの混合型であるため、ブロックごとにゾーン分けを行い、ライフスタイルの違和感の軽減に配慮した。また駐車場はピロティー形式を採用し、住居ゾーンとは上下分離を行っている。駐車場にも開放感をという考え方に基づいて、中央に大きいライトコートを設けた。

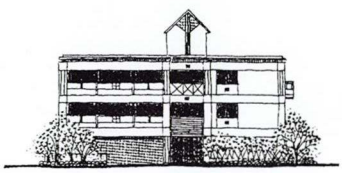
建物すべてにおいて、自然との融合（緑、風、光）を内外に求めた計画になっている。　（鈴木隆雄）



所在地　大阪府茨木市大手町11―14
設計監理　ティ・ベル企画設計
施　工　ハコダ
敷地面積　797.275㎡
建築面積　474.445㎡
延床面積　1,241.730㎡
構造規模　RC、3F
工　期　1993年10月～1994年3月
最寄駅　阪急京都線茨木市駅
撮　影　畑　義温







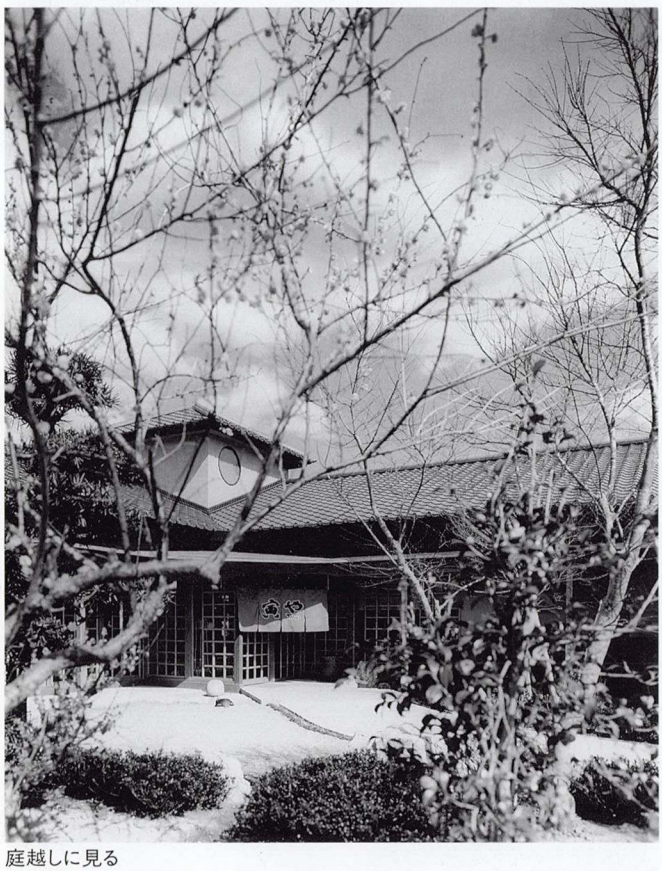
くずかわ茶寮 寅や

岸　一　アトリエJIGSAW

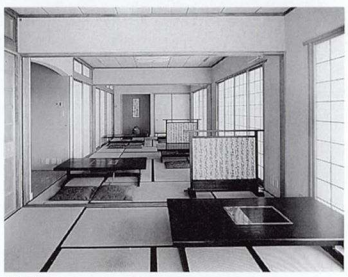
景観としての建築



アプローチより見る



庭越しに見る



畳席

所 在 地　静岡県掛川市弥生町158番地
設計監理　アトリエJIGSAW
施　　工　金田工務店
敷地面積　1,684.57㎡
建築面積　330.02㎡
延床面積　293.81㎡
構造規模　木造平屋建
工　　期　1993年8月～1994年2月
撮　　影　藤原　清（スタジオ エフ）

●景観としての建築

この建物は、掛川市の小高い茶畑の中に建つ、掛川で有名なしゃぶしゃぶと日本料理の店（寅や）である。郷土の景観に同化させ、建物と自然との調和をテーマに設計した。

●遠景、中景、近景としての建築

東海道の軸線（国道1号線）から見える景観は、建物と水車、茶畑と自然が一体感をかもしだし、昔の日本の風景を思わせるなつかしい建築を演出している。

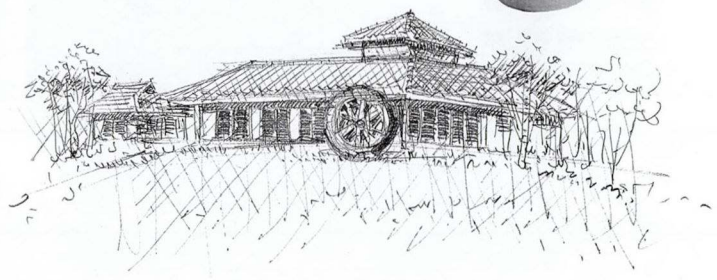
敷地入口からの景観は安定感のある大きな切妻屋根と、梅、木蓮、桜、つばき、つつじなど季節感のある自然と建築の一体感を演出している。また、夜は建物中央の円形窓（月見窓）が印象的で、満月が建物の上にあるように見え、心豊かになる建築景観である。

玄関までは水車と水の流れる庭を通り、玄関を入ると陶器スピーカーから流れる環境音がお客様を迎えてくれる。空間全体に流れるこの音は、世界でも例をみない陶器スピーカーの環境音である。

空間は、カウンター席、富士山を望む円形テーブル席、30名程度の宴会のできる畳席と個室、それに離れの5つの空間から構成されており、それぞれの空間からそれぞれの風景が味わえて、いつ訪れても違った景観を見せてくれる。　（岸　一）



陶器スピーカー



私の作品

学校法人 池坊学園 美心館

北條　誠　都市居住文化研究所

都市と学園の新しい関係





中庭のシンボルとなる時計塔



学生のくつろぎの場となるラウンジ

所在地　京都市下京区四条室町下ル鶏鉾町491番地
設　計　都市居住文化研究所　北條　誠
監　理　都市居住文化研究所
施　工　大成建設
敷地面積　約5,326㎡
建築面積　約688㎡
延床面積　約6,207㎡
構造規模　SRC＋RC、B1F、8F、P1
工　期　1993年5月～1995年3月
最寄駅　阪急京都線四条烏丸駅
撮　影　伸和

京都都心部である四条室町に立地する池坊学園は、昨今の教育環境や学校教育施設へのニーズの多様化や京都市内からの大学流出といった社会問題を直視し、キャンパス計画を単なる学舎改築にとどまらず“都市と学園との新しい関係を創造する事業”として位置づけ、取り組んでいる。

この美心館は、その魁となる第一期事業であり、21世紀に向け感性豊かで快適な学園環境の創造を目指し学舎改築に着手した。

計画に際しては、勉学研鑽の場としての機能性の追求と同時に、①生活や憩いの場としてのゆとりある環境整備、②シティーカレッジに相応しい都市の文化交流拠点として、都会的センスに溢れた新しい学園環境の形成、③学園としての象徴性、都心部の新しい街並み景観の創造を目指し、色調やオープンスペースの緑化環境整備にも十分考慮したキャンパスデザインを追求している。

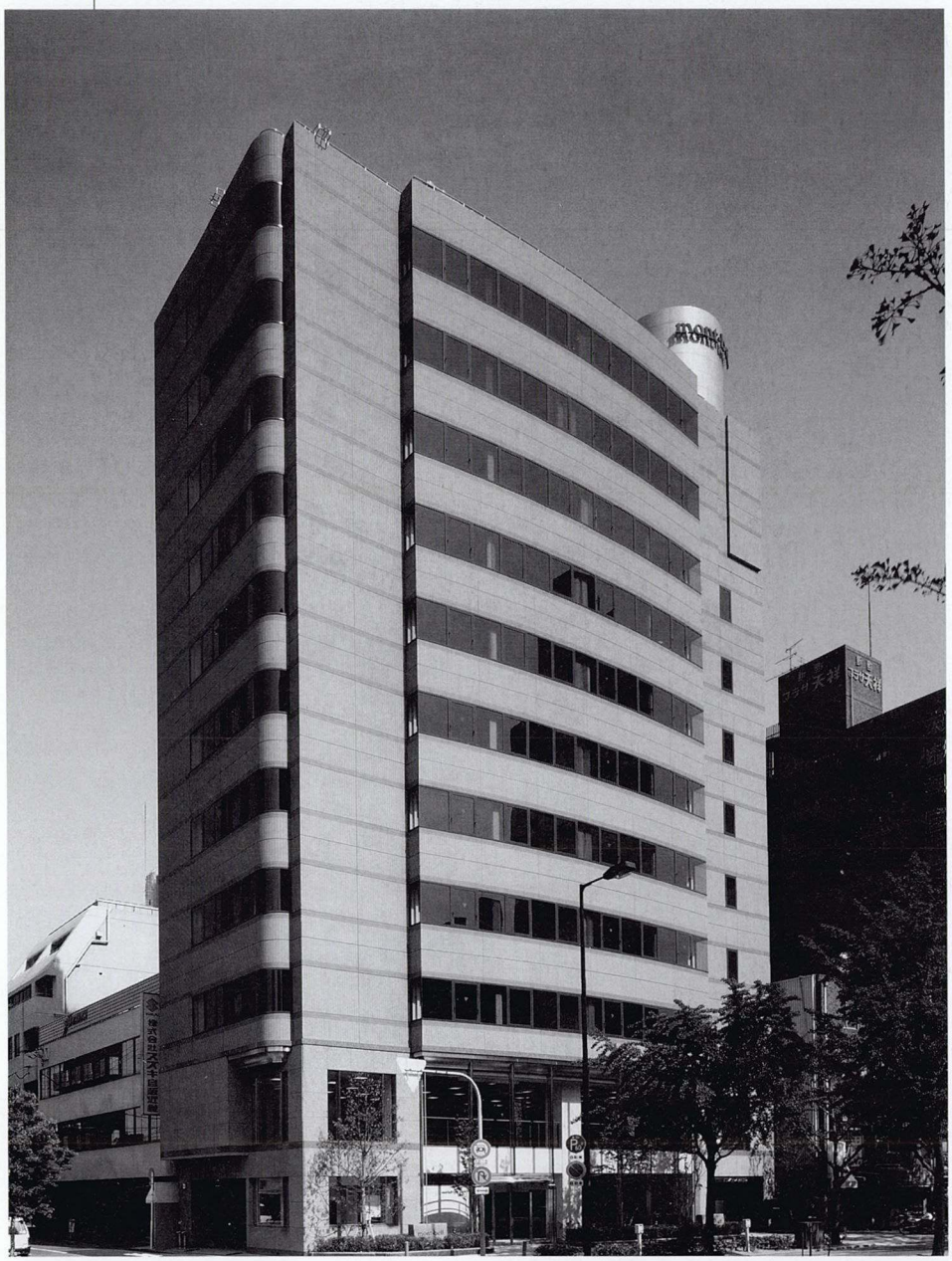
美心館に引き続き、順次、池坊学園学舎改築事業に取り組んでいくが、このキャンパスが京都都心部の新しいシンボルとなり、学生、教職員はもとより、市民にも広く親しまれていくことを願っている。

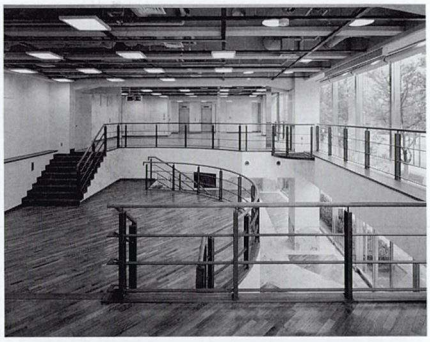
（北條　誠）

モンベル本社ビル

入口は小さく奥深く

三谷和巳　三谷設計事務所









この建物は、㈱モンベルが25周年を機に計画した本社ビルである。

敷地は大阪市西区にあり、西側は40m（なにわ筋）のメイン道路に接し、都市計画では将来、ショールーム・物販店舗等の立地を誘導するよう美観誘導制度として指導されている。

当建物は、その主旨に沿った構成によって計画された。1階～2階は吹き抜けを通したゆったりとした店舗とし、なにわ筋歩道と対面している。

ファサードはゆるやかな曲面で構成され、商業ビルとしてのやわらかさを出している。高さ6mの大きなガラスを使用したのは、店内の様子がわかりやすく、親しみやすくなればと願ってのことである。

オーナーは登山家であり、実業家でもある。内外に大きな評価を得られている方で、建物すべてにわたって大変精通されており、設計者泣かせのところが多く、一つ一つ丁寧に打ち合わせをし、オーナーの了解の上で施工された。また一見して派手な表現は否定され、質の高い形、色、表情を要求された。

今は昔、大阪商人の店の構えは「入口は小さく奥深く」と聞かされていたように、バブルの時期にはなんでも派手に行われていただけに、反省の機会を得られたことに大変感謝している。

（三谷和巳）

所在地	大阪市西区新町1丁目22-30
設計監理	三谷設計事務所　三谷和巳
施工	鹿島建設
敷地面積	402.54㎡
建築面積	316.88㎡
延床面積	3,554.27㎡
構造規模	SRC、B1F、11F
工期	1994年3月～1995年4月
最寄駅	地下鉄四ツ橋線本町駅
撮影	加藤（伸和）

和泉府中みどりビル

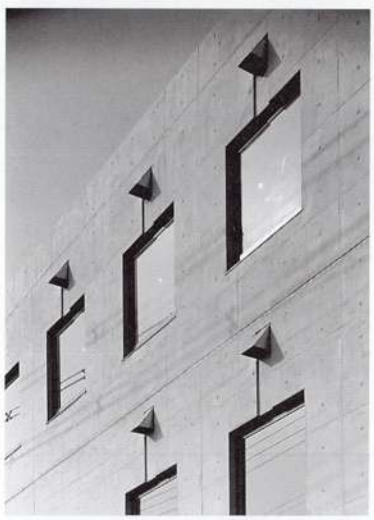
浅野　裕　建築計画 A&A 浅野設計室

秩序と力強さで存在感をアピール

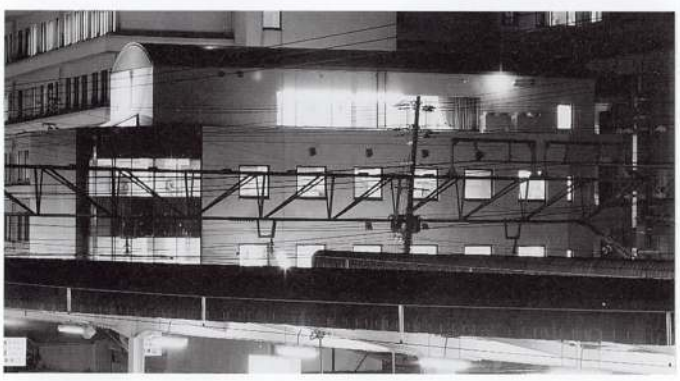
敷地は、ＪＲ和泉府中駅の南西にある。限られた敷地内で、調剤専門薬局（１階）・薬局事務室（２階）・レストラン（３階）・貸会議室（４階）と複数の用途を満足させるために、全体としてキュービックな形態とした。ポジとして現れる部分には正方形・円形等幾何学的に明解な形を多用し、意匠に秩序と力強さを与えた。また外壁につながるトップライトやスリット状のカーテンウォール等により、空間に広がりと連続性を感じさせるとともに、多様な光を楽しめるように演出した。

和泉の地は歴史的には、古くは弥生文化の栄えた地として名高いが、残念ながら現在は歴史性を感じさせる町並みは存在しない。その中で、今後、町並み形成の核となるよう、小規模ながら存在感のある建築をこころがけた。　（浅野　裕）









所在地	大阪府和泉市肥子町１丁目10番37号
設計監理	建築計画 A＆A 浅野設計室
施　工	浜田組
敷地面積	297.18㎡
建築面積	237.28㎡
延床面積	776.52㎡
構造規模	ＲＣ、４Ｆ
工　期	1991年１月～1991年10月
最寄駅	ＪＲ阪和線和泉府中駅
撮　影	柄松　稔

作　品

穂波町庁舎

広岡建築事務所

ボタ山の風景をうつす



外観

穂波町は、福岡市より東約35km、北九州市より南約50km、飯塚市に隣接し、昭和32年頃までは筑豊炭田の中核産炭地として繁栄し、人口43,000人であったが、現在は27,000人の小都市である。町には基幹産業と言えるものはなく、周辺を水田で囲まれ、秋には、地名が表すように稲穂のさざ波が豊作を感じさせる住宅地方都市である。

建物は、旧庁舎の駐車場と旧公民館跡地に計画したために、役場の日常業務に支障なく建設することと、敷地北側の民家の日影問題、西側を南北に横切る用水路などのきびしい制約条件を受けるものとなった。庁舎と広場は、町民の日常的な利用、地域のランドマークとしての機能を考え、稲穂の豊作のたわみを三重の丸屋根に表現し、かつての産炭地のシンボルであるボタ山を町民ホール北側のハーフミラーカーテンウォールに投影し、庁舎の町民ホールからの視線を町民プラザへと拡大していくように計画した。

「事務所空間＋集会場」という空間構成の原則に基づき、エントランスポーチに連続して、面積600㎡、3階吹き抜け天井高さ11mの町民ホールを設けた。執務空間と電動シャッターで仕切ることにより土、休日の催し物、集会、演奏会、展示発表会などの多目的使用に対応できるように計画した。

町民ホール上部4階の議場は、地域のシンボルのボタ山を原形としたピラミッド状の天井とし、インテリアに品性と軽快さをデザインした。また開かれた議会を目指し町民ホールにモニターＴＶを設置し、議会の公開性を強めるように企画した。

空調設備は、省エネ化のため町民ホール、議場、執務空間など個別方式とした。

執務室を含めたカウンター業務は、東西方向に平行に配置し、インテリジェント化に併せて一般執務室全体をＯＡ機器の導入が効率的に行われるように床は複層構造とし、照明は、グループゾーニングによる制御可能なシステムとした。通路は広めに計画し、ワークスペース的機能をもたせ、多様な使用を意図した。

（石坂洋一）



町民ホール

所在地	福岡県嘉穂郡穂波町忠隈523番地
指導・計画	近畿大学九州工学部井波研究室
設計監理	広岡建築事務所
施　工	西武建設・坂平産業・曽根組建設共同企業体
敷地面積	9,258.14㎡
建築面積	3,414.46㎡（含む建康センター）
延床面積	9,325.36㎡（含む建康センター）
構造規模	ＲＣ、5F
工　期	1993年6月～1994年11月
最寄駅	筑豊線天道駅
撮　影	後藤長年

久万町明神小学校(改築)

臂谷年勝(ひじたに) 日総建

活用した磨丸太は久万町産

空に近い久万高原のやまなみをイメージした屋根。久万町産の木材で、森と木材への愛着と誇りをあらわし、温かみと潤いのある21世紀を目指す夢のある教育施設である。

■既設施設として管理棟（ＲＣ造)、幼稚園（ＲＣ造）があり、木造校舎は老朽危険のため改築することになり、地場産業が林業であり、地域産業振興のため木造在来工法で改築。ＲＣ造と木造が一体の建物として、調和できるよう計画した。

■久万町産の磨丸太（杉)、檜正角を、地元の好意により寄付していただき、昇降口、多目的スペースは磨丸太あらわし仕上げとし、木材の温かいやさしい表現とした。

■冬に設計。磨丸太の柱、梁のデザイン、納まり等を考慮しながら丸太の太さ、長さを決定。森林から伐採。春夏は乾燥、養生、仕上げ、保管。秋には工事着工。…と年間を通して、木材とのお付き合いになった。

■磨丸太の納まりは、末口寸法指定で元口の寸法が推定なので、寸法調整のため苦心した。　（臂谷年勝）

所在地　愛媛県上浮穴郡久万町大字東明神甲698-1
設計監理　日総建大阪事務所
総合設備コンサルタント（設備協力）
施　工　熊谷組
敷地面積　13,921.00㎡
建築面積　514.25㎡
延床面積　887.25㎡
構造規模　木造、2F
工　期　1994年8月～1995年3月
撮　影　臂谷年勝



昇降口正面



正面全景



多目的スペース



昇降口天井

私の作品

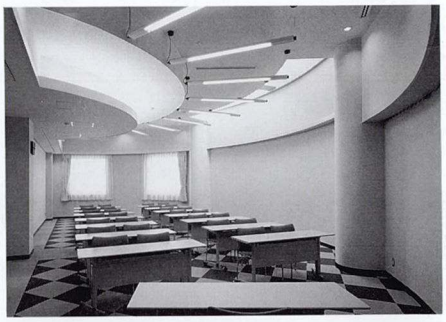
阪南市立西鳥取公民館

出会いの場としてのシリンダー

森　幹雄　MANプランニングオフィス



所在地　大阪府阪南市鳥取
設計監理　ＭＡＮ（エムエーエヌ）プランニングオフィス
施　工　阪井組・根来組共同企業体
敷地面積　1,472.03㎡
建築面積　593.74㎡
延床面積　1,430.75㎡
構造規模　ＲＣ、ＢＩＦ、2Ｆ
工　期　1993年6月～1994年7月
最寄駅　南海本線鳥取ノ荘駅
撮　影　黒田青巌







公民館活動の活発な阪南市の三番目の公民館として、次のような活動が充実できる公民館をめざした。

①「人と人との出会いの場」
②「ボランティア活動の充実」
③「何でもできる多目的ホール」
④「音の出せる公民館」
⑤「ここでしか出来ないプログラム」

これらを建築的に実現するために、円い平面の中にゆったりした「ロビー」を確保し、みんなが自由に集える交流サロンを創った。その一角に、吹き抜けと階段を配し、上下の結びつきを強調している。練習室は地階に設け、気兼ねなく音の出せる場としている。

古い街並みが比較的良く残されているこの阪南市西鳥取地区の公民館として、周辺の集落との調和を図り、1層は地階とし、地上は2階建の切妻屋根を持った施設である。奥の切妻の下には「何でもできる多目的ホール」がある。そして「みんなの集まる」「人と人との出会いの場」の象徴としての円柱（シリンダー）で構成された空間が手前にある。

大阪湾にほど近いこの地の建築として、波の形の青海波をデザイン要素として、外部床、照明器具、ＥＶ、タペストリー等にその形を展開している。

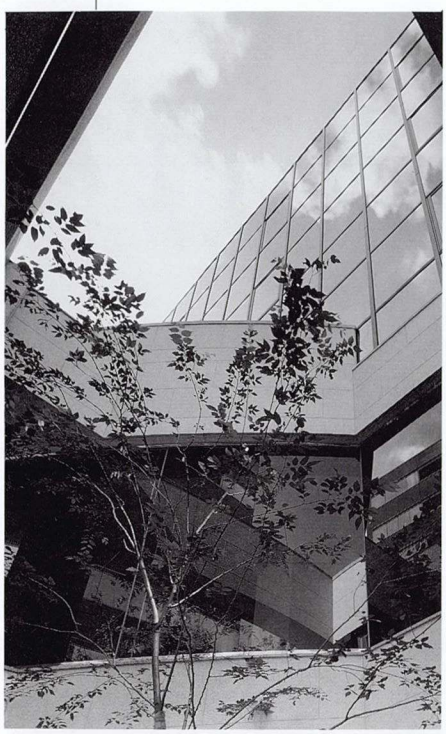
（森　幹雄）

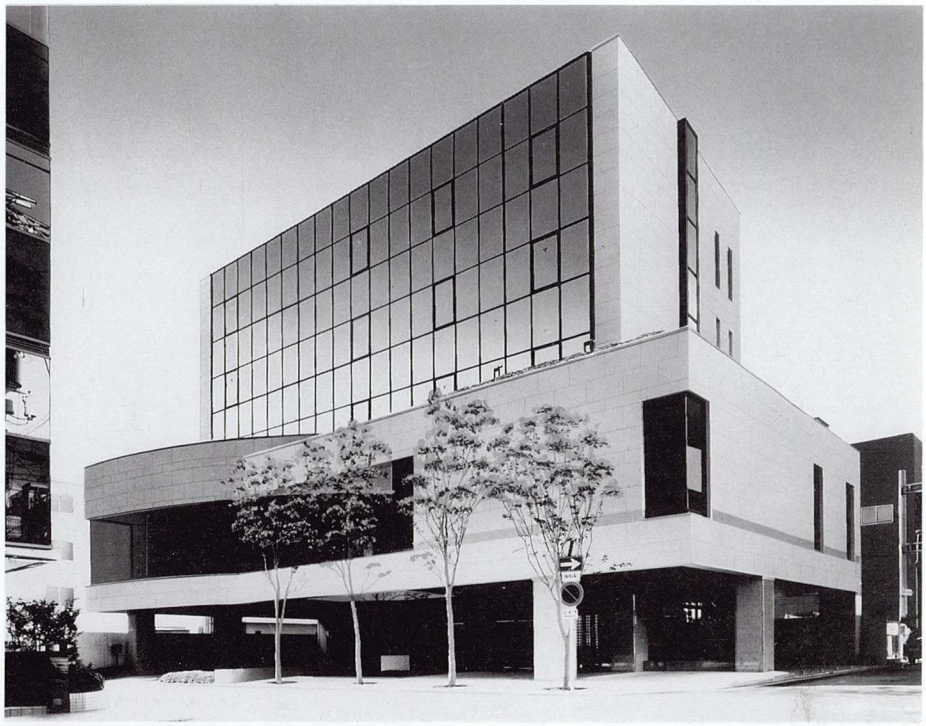
私の作品

公冠株式会社本社ビル

文化と事業創造の舞台

山崎義康　山崎義康建築事務所







所在地　大阪市北区西天満3－4－15
設計監理　山崎義康建築事務所
施　工　松村組
敷地面積　619.05㎡
建築面積　463.61㎡
延床面積　1,886.69㎡
構造規模　SRC、5F
工　期　1992年9月～1993年7月
最寄駅　地下鉄（堺筋・谷町線）南森町駅
撮　影　松村　浩（STUDIO アド・ビューロ）

日経ニューオフィス推進賞、近畿通産局長賞を受賞したこの建築は、インナーウェアーメーカーの創業80周年記念事業として、「快適な生活の創造」という企業理念の具現化から始まった。敷地を十分に活用するため、広い床面積の低層階と整形平面の高層階とをくみあわせた。この企業のもつ歴史と堅実さを表現すべく、外壁に明るい基調の花崗石を採用し、クラシカルな重厚さを保持させた。高層部の軽快なカーテンウォールと低層部の緩やかな円弧を描く石とガラスの壁面構成は威圧感を和らげ、端正さの中に受容と進取の精神の内在を暗示したものである。広々としたピロティ、十分な駐車スペースを設け、植込と屋上庭園には緑をふんだんに配した。室内からも眺められる緑のネットワークが、人間環境に表情豊かな潤いと安らぎを与え得たものと思う。玄関脇のカフェラウンジや円筒状エレベーターシャフト廻り、そして階段室は日常業務の動線の中で随時リフレッシュとコミュニケーションの場として回廊的に開放し、十分な採光と立体的空間を演出する工夫を施した。

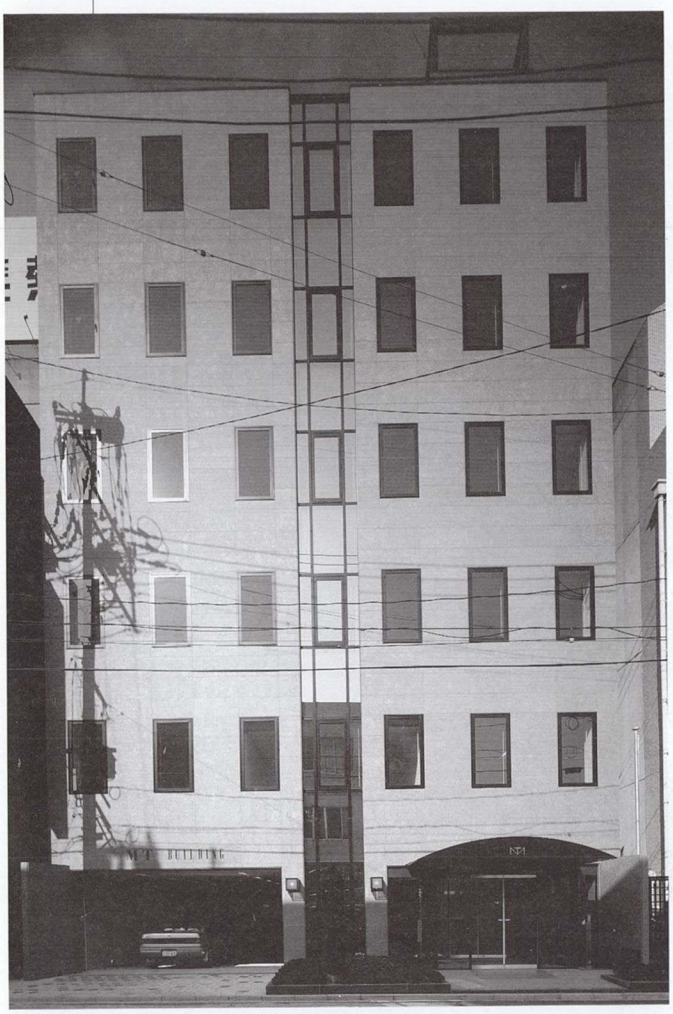
計画段階から各階にフロアーコンセプトが定義され、「社員はオーナーのエンプロイではなくアソシエイツなり」という企業哲学を追求した、文化と事業創造の舞台として、これからの自社ビルのあり方を問い、かつ提示した建築となったものと思う。　（山崎義康）

私の作品

博多駅南MTビル

オフィス空間に憩いとゆとり

志村公夫　志村建築設計事務所







所在地　福岡市博多区博多駅南1丁目44
設計監理　志村建築設計事務所　志村公夫
施　工　鹿島建設九州支店
敷地面積　444.56㎡
建築面積　344.02㎡
延床面積　2,239.67㎡
構造規模　S、一部RC、7F
工　期　1989年4月～1990年1月
最寄駅　JR博多駅
撮　影　河野博之（西日本写房）



JR博多駅より南に歩いて7分ほどの静かな環境の敷地は、8mの道路に南面し、他の三方は隣地に接していた。周辺は、様々な形態のビルが、外観もボリュームも雑多に建ち並ぶ地域であった。

オフィスビルを計画するにあたって、他のビルと異なる魅力をいかにして持たせるかが問題であった。レンタブル比を高めることは大事であるが、オフィスの環境をいかにして高めるかがテーマとなった。

提案として、ビルの中央に5m×6mの吹抜空間をつくり、各オフィスに自然の通風と採光を取り入れる工夫をした。2階レベルの吹抜の下部は、季節ごとにアレンジする庭とし、緑のある空間とした。この庭に面し、共用のラウンジをつくり、喫茶のサービスを受けられるようにした。1階はゆとりのあるエントランスホールとし、12台収容の自動式駐車設備を設置した。オフィス規模からして十分すぎる9人乗りエレベーター2基と、個別制御の24時間使用可能な空調システムは、利用者の様々な勤務時間に対応している。

外観は、道路側を石貼りとスリットのカーテンウォールで対比させ、品格のあるビルとなるよう心がけた。テナント料から設定した総工事費は、ローコストにも十分に配慮した。

（志村公夫）

県営住宅雄湊団地

岩橋重文 岩橋設計

高齢化社会への配慮



この県営住宅は、既存団地の老朽化に伴う建て替え事業である。

敷地は和歌山市内中心部にほど近く、北側は国道26号線。西側は紀ノ川、東側は和歌山城、市役所に近い。南側は県庁にも近く、静かな住宅地で、近くには古くからの市場もあり、住環境に恵まれている。

建物は、従来の公営住宅のイメージにとらわれないものを求められた。外壁はすべてタイル貼り、バルコニー手摺りにはアルミパンチング等を使用し、建物の早期の劣化を防ごうと配慮している。また建物周囲には豊かとはいえないけれども植栽を施し、周囲の環境に配慮した。

建物は高齢化が進む社会の中で、県下では初めて、シルバー住宅20戸が併設されている。60歳以上の健康な方々の生活をサポートできるようなシステムが組み込まれている。

なお、玄関は片引戸としたが、段差解消、防雨、防風という点では今後に課題も残している。（岩橋重文）



所在地　和歌山市男野芝丁3
設　計　岩橋設計
監　理　和歌山県土木部住宅課
　　岩橋設計
施　工　第五工業
敷地面積　2,089.63㎡
建築面積　851.61㎡
延床面積　6,068.69㎡
構造規模　SRC、一部RC、9F
工　期　1993年12月～1995年2月
最寄駅　南海本線和歌山市駅

F邸

岩本貞幸　岩本貞幸建築・都市研究所

密集した街並みへの提案







この建物は、戦前よりの木造家屋や店舗が密集した大阪の中心地に立地している。施主は老舗の和食店を営んでおり、この敷地に店舗付き住宅を希望された。敷地面積は約55㎡、間口はわずか4.5mである。この中に、いわゆる3LDK＋店舗、しかも施主の老後を考慮してエレベーターを計画したので、そのプランは一分の無駄も許されないものだった。

構造は柱型も省くため壁式コンクリート造を採用し、敷地境界いっぱいに壁を打設したが、施工方法は困難を極め、実用新案ものであった。

外観は極力シンプルを心掛け（これしかないのだが）、密集した街並みの中に、いや味のないすっきりした外観デザインを意図したつもりである。内部空間は、道路よりの斜線制限を受けながらも、できるだけ天井高をとり、空間の拡がりを考慮するとともに（梁型のない壁式構造は効果があった）、内装は単純で明快さを基本にした。まさに土地有効利用の見本であると自画自賛している。

外観デザインで不満の残るところもあるが、坪単価に目が飛び出るような土地に建てた住宅としては、施主さんに叱られることはなかろうと自負している。（岩本貞幸・有田　智）

所在地	大阪市中央区安堂寺町1丁目4－7
設計監理	岩本貞幸建築・都市研究所
施　工	リバー産業
敷地面積	54.54㎡
建築面積	46.29㎡
延床面積	198.92㎡
構造規模	RC壁式構造、BIF、5F
工　期	1994年6月～1995年3月
最寄駅	地下鉄谷町線谷町六丁目駅
撮　影	PCS

菓子処 青柳屋
S.C内の店舗デザイン

沖本弘至 スペースデザイナー／広島デザインハウス主宰

広島市中区に本店を置く和菓子の老舗・青柳屋は、高級和菓子を中心に広く知られる店舗である。

今回、ベッドタウン内のS.Cに店舗展開を計画するに当たり、M.Dコンセプトは、40歳代の主婦をターゲットに、食文化の和菓子、新しいクオリティーマインドを発信する店と位置づけ、商品構成、坪効率、工費、イメージカラー、形態、ショーケースの改良等の問題を含め総合的に見直しを図り、地域密着型の店舗づくりを計画した。

S.Cの店舗には、独立個店と違いS.Cの内装設計基準書による制約がある。動線、意匠、空調、照明とスペース等、デザインの自由度が少ないデザイナー泣かせの条件である。特に隣店とのデザイン処理は簡易間仕切というさみしい区分であり、いつも苦慮するところであるが、クライアントの専属施工業者と知恵を出し合いながら解決を図っている。

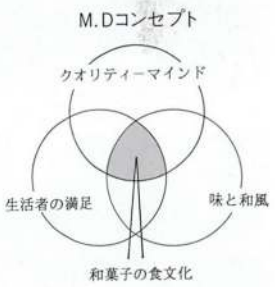
フジグラン高陽店につづき、ゆめタウン東広島店も、同様のデザインコンセプトで企画設計し、オープン後、両店とも、順調に売上も増加し、安心しているところである。

（沖本弘至）



青柳屋フジグラン高陽店（上・下）





青柳屋

青柳屋ゆめタウン東広島店（左・右）





設　計　沖本弘至
監　理　坂光家具装工課
施　工　坂光家具装工課
■フジグラン高陽店
所在地　広島市安佐北区高陽ニュータウン
店舗面積　77㎡
完　成　1993年11月
最寄駅　バス高陽ニュータウン
撮　影　沖本弘至
■ゆめタウン東広島店
所在地　東広島市西条ＪＲ駅
店舗面積　22㎡
完　成　1995年6月
撮　影　沖本弘至

私の作品

天・地・人の庭

新大阪に新風景を

長谷川弘直　ランドスケープ・アーキテクト／都市環境計画研究所









新大阪の街に今、何が求められているのかを検証することで、「新大阪アーバン回廊景観計画」を提案した。

新大阪駅周辺にもこの数年、高層ビルが建設され、公開空地が生み出されているが、建物のための修景外構で終わっている例が多い。ここでは、建物のアトリウムと外部空間が有機的に連続し、都市に、地域に開かれた空間、広場として計画した。

スケッチや模型から、現場で自らノミやハンマーで石にも挑戦する、それが私の言う「石彫石の空間」づくりである。

ここでは、建築の東西のメインエントランスと、南北のサブエントランスのL型の広場に「天」「地」「人」の3つの御影石による石庭をつくった。

みどりの地勢の中で水が踊り、涌き、流れる、そこでは野鳥が水浴びをしている。

また街角には緑のシンボルのクスの大樹を植え、色とりどりの草花や地被で四季のうつろいの美しさを街の景観として演出し、新大阪に新風景を誕生させた。

（長谷川弘直）

所在地　大阪市淀川区西宮原2-1-3
設　計　都市環境計画研究所
監　理　大広＋都市環境計画研究所
広場施工　フジタ・錢高組・長谷工コーポレーション共同企業体
　工房カワサキ
　松花園
敷地面積　4,864.90㎡
広場面積　1,644.26㎡
工　期　1994年4月～1994年7月
最寄駅　JR、地下鉄御堂筋線新大阪駅
撮　影　秋山博章

私の作品

尼崎市都心の水辺空間

手探りの水ぎわづくり

横山浩二 環境設計





所在地　兵庫県尼崎市昭和通り２丁目73番地先
事業主体　兵庫県・尼崎市
設　計　環境設計
区　域　淀川水系 庄下川（一級河川）
　　阪神電鉄軌道～鳥洲橋区間 約400m
施設整備　護岸美装化
　　自転車歩行者専用道路（左岸・右岸）
　　護岸噴水（21基）
　　親水性護岸（４カ所）
竣　工　1995年６月
最寄駅　阪神電鉄尼崎駅
撮　影　松下電工ほか



庄下川は、兵庫県尼崎市のほぼ中心部を流れる、延長約6.0kmの一級河川である。この庄下川の都心部約400m区間において、護岸美装化、歩行者専用道路、護岸噴水、親水性護岸が、兵庫県と尼崎市によって整備された。

一級河川での護岸噴水の整備は、全国的にも事例が少なく、河川水を直接取水して、再び護岸の上部から、噴水として河川へ吐出させるシステムの検討は、手探り状態の連続であった。しかし、苦労した結果、美装化された護岸の壁面から、半円状に広がる優雅な噴水を出すことができ、特色ある都心の水辺の名所をつくることができた。

歩行者専用道路では、歩道空間の広がりや視覚的な親水性を高めるため、歩道地盤を現況の護岸天端まで上げ、水辺を見やすくするようにした。そして、背景の緑の軸に配慮しながら、歩道上に立ち上がってくる防護柵と照明灯を、鋳鉄製によるクラシックな形と、ダークグリーンの色彩で統一して、景観のポイントをしぼった。また、照明灯のランプは、暖色系の高演色系高圧ナトリュームランプを使用して、緑や人をやさしく包み込む光空間をつくりだし、護岸噴水のライトアップとともに、都心の夜景を演出している。（横山浩二）

高台寺・夢あかり—ライトスケープ—'95春

村上幸三郎　東芝ライテック

昼と異なる夜の表情



方丈前波心庭の照明演出



臥龍池の水鏡



霊屋のライティング

夜の京都に賑わいと見所を創ろうとする試みで、93年秋に“夜紅葉”を実験的に実施し、94年秋には平安建都1200年記念行事として夜間拝観を実施した。95年春はそれに続くもので、「生命」をテーマに開催された。

高台寺は京都でもっとも京都らしい情緒溢れる八坂にあり、秀吉夫人の北政所が開創した禅寺で、国指定史跡名勝の庭園に多くの重要文化財建造物が配され、自然と人工が調和した景観を形成している。

ライティングデザインにあたって、単に照明対象物を明るく照らし出すのでなく、月を意識した明るさの中で、拝観者が生命の尊さに思いを巡らされることを願うとともに、高台寺の昼とは異なった境内の表情、桃山盛期の生き生きとした文化性などを現出させようと意図した。

併せて、高台寺だけでなく、周辺各寺院のご協力を得て主要な建造物もライティングし、八坂地区に夜間景観を現出させた。期間中約3万人の拝観を得た。　（村上幸三郎）

所在地　京都市東山区高台寺下河原町526番地
催事期間　1995年3月25日～1995年5月7日
午後6時～9時30分
主催　高台寺
後援　平安建都1200年記念協会
街の色研究会・京都
京都デザイン協会
運営　シー・エム・エー
ライティングデザイン
街の色研究会・京都（景観照明調査研究委員会）
対象　高台寺境内一円
および協力寺院（大雲院、法観寺、円徳院）
仮設電気工事　日本電機商会
撮影　小桧山義晴、杉山宏之

構造の頁　242

アクティブ制震(振)装置の制御効果
― 同和火災フェニックスタワー

小堀鐸二　こぼり　たくじ
京都大学名誉教授、㈱小堀鐸二研究所代表

坂本光雄　さかもと　みつお
㈱小堀鐸二研究所

小鹿紀英　こしか　のりひで
㈱小堀鐸二研究所

筆者らが東京京橋に Active Mass Driver (AMD) システムを搭載した世界で初めてのアクティブ制震ビルを完成させたのは1989年のことであった。その後、それに追随するかのように国内においていくつかのアクティブ制震ビルの完成を見たが、その間の AMD の観測による制御効果の検証、維持管理の実績に、さらに独創的なアイデアを盛り込んで新世代のアクティブ制震システムとして開発実用化したのが同和火災フェニックスタワーに設置している DUOX (デュオックス) である。

1995年１月の建物の完成以来、いくつかの地震強風時の観測記録が得られており、制御効果を確認するに至っている。

DUOX の概念

DUOX は、**図１**に示すようにアクティブ型の AMD 制震装置とパッシブ型の動吸振器を上下に重ね合わせた複合型の制震システムで、小さなアクティブ装置で大きな振動制御効果が得られる点に特徴がある。

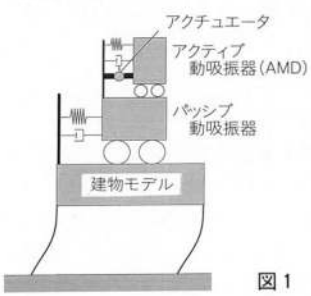


図１　DUOX の原理

動吸振器は、重錘を建物の周期に同調させたバネと減衰を与えるダンパにより構成された一種の振り子であり、本来、それ単体でも建物の振動を抑えるように挙動するが、それだけでは十分な制御効果が得られない。AMD は動吸振器の上に設置されて、地震や強風によるセンサーが建物の揺れを感知するとコンピュータ制御によって駆動し、動吸振器の動きを拡大して、全体としてアクティブシステムと同程度の制御効果を発揮させるのである。

DUOX の構成

同和火災フェニックスタワーは、幅33.5m×奥行き33.5m×高さ145.5m の29階建ての建物で、高さ方向に沿って片側にセットバックしたユニークな形状をした音楽ホールを有する複合事務所ビルである(**写真１**)。快適性と先端機能性を目指した当ビルでは、強風時や地震時の不快な揺れをなくすため、塔屋１階の２箇所に DUOX を設置し、ビルの形状からくる複雑な揺れを制御することとしたものである。



●設計
㈱日建設計
㈱梓設計
●施工
鹿島、熊谷、長谷工、佐藤、東亜、地崎、淺沼、錢高、戸田共同企業体
●DUOX 設計施工
㈱小堀鐸二研究所

写真１
同和火災フェニックスタワー

２基の DUOX は、それぞれ30t の動吸振器とその上に直交して設置した6t の AMD ２基、全体を支持するボールベアリング、バネ要素の中空積層ゴム、減衰を与えるオイルダンパからなる(**図２**)。２基の DUOX の重量は、建物地上重量の0.3%に相当する。

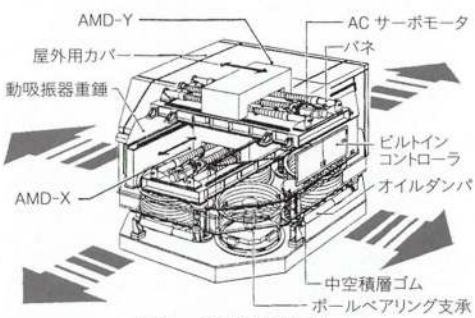


図２　DUOX の構成

制御目標

制御対象は強風時の揺れおよび地震の後揺れで、頂部平均風速30m/s までの強風に対して応答を無制御時の1/2以下に低減すること。また、それ以上の強風に対しても装置の能力の範囲内で制御することである。また、地震については中規模程度までを主な制御対象としている。

観測と制御効果

ビルには地震強風観測装置が設置されており、建物完成後すでにいくつかの観測記録が得られている。１月17日の兵庫県南部地震においては建物竣工前であったため装置は未稼働であったが、２月18日の余震に関して小地震ながらも装置稼働時の観測記録を得ることができた。また３月11日には低気圧の通過により再現期間１年程度の強風が吹き、装置稼働状態での観測記録が得られた。

２月18日の地震は地動約 4Gal であった。これを入力として解析で推定した無制御時と観測記録の制御時建物応答を比較すると、大阪平野の地震の特徴である50秒以降の長周期の後揺れを制御によって約1/2に低減していることがわかる(**図３**)。

また、３月11日の強風は建物頂部で最大風速26 m/s を記録しており、その前後の10分間のＰ１階

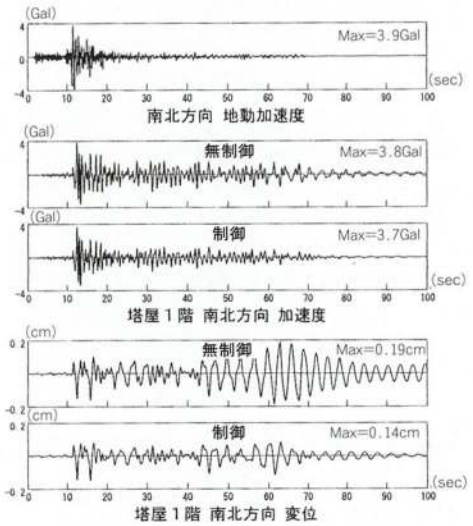


図３　地震時の制御効果(1995年２月18日)

の加速度の時刻歴、並びに加速度の軌跡を示すと**図４**のようになる。無制御時には最大加速度が３Gal～4Gal に達しており、体感レベルに入っている。また西、南西の風向によらず、建物短辺方向の応答が大きくなっている。これに対して DUOX による制御時には、応答最大加速度がおおむね１Gal～1.5Gal 程度で無制御時の1/2～1/3に低減され、完全に無感レベルに収まっている。

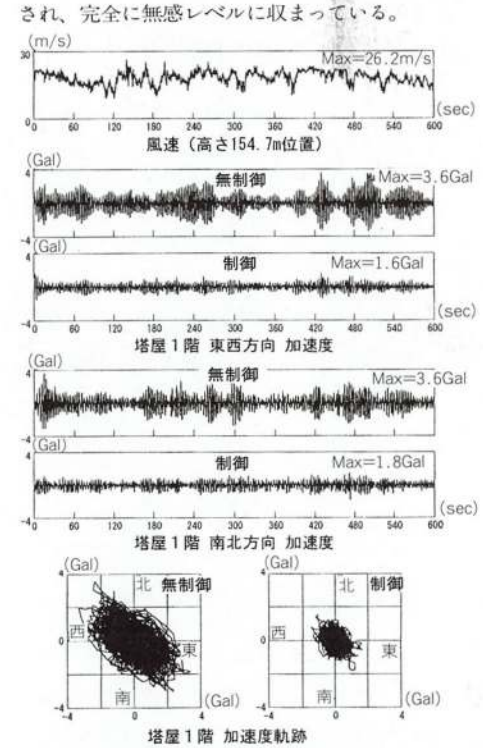


図４　強風時の制御効果(1995年３月11日)

すでにいくつかの地震や強風時の記録から制御目標を満たしていることが確認されたが、今後も観測を続けて、より大きな地震や強風時の挙動の調査、分析を行うことにしている。

設備の頁　244

光源の演色評価数

村上幸三郎　むらかみ　こうざぶろう
東芝ライテック㈱研究所参与

「蛍光灯と電球では、壁紙の色彩が大きく変わる」「夜の街路灯に照らされた建物の外装材の色彩が、昼の光で見た色彩とは異なった雰囲気になる」など、仕事や日常生活の中で照明環境の相違による色彩の変化に気付くことがある。

このように、照明に用いる光源の種類や特性によって、物の色の見え方が変化することはよく知られている。そして、この光源による色の見え方の違いを客観的に示すのに演色評価数が広く活用される。しかし、この色彩に対する光源の特性を表す便利な数値も、その内容を理解しておかないと思わぬ誤解を生みかねない。

演色評価数の意味

演色評価数とは『光源の演色性を表すことを目的とした指数で、試料光源の下で物体の色知覚が、規定の標準の光の下での同じ物体の色知覚に合っている程度を表すもの』(JIS Z 8113) で、「光源の演色性評価方法」(JIS Z 8726) に定めた方法によっている。

それは、15種類の試験色に主な色相を代表する明度6の中彩度の8色と、高彩度の赤、黄、緑、青と、肌色、木の葉の色、そして日本人の肌色の7色 (図) を用い、評価しようとする光源で照明したときの色の見え方と、その光源と等しい相関色温度の基準光 (黒体またはCIE昼光) で照明したときの色の見え方とを比較し、その色のズレの程度を数値化して個々の特殊演色評価数 Ri (i = 1～15) とする。そのとき基準光と同等の演色性を評価数100とする。特殊演色評価数 R_1～R_8の平均値を平均演色評価数 Ra として表す。

電球と蛍光灯の光

白熱電球の光は加熱したタングステンフィラメントの温度によって性質の定まる熱放射であり、黒体を高温に加熱したときの発光にほぼ等しい。演色評価数を求めるときに比較する基準光は黒体によるので、白熱電球はバルブなどに色を付けない限り、必然的に演色評価数は100となる。

一方、蛍光灯はランプの中に紫外線を発生させ、ランプ管壁内部に塗布した蛍光体で可視光を放射させるので、目的に応じていろいろなものが設計され、当然、演色性はさまざまとなる。

すなわち、演色評価数は蛍光灯などの放電灯のの光による演色性を評価することを目的とした指数といえる。

演色評価数の注意事項

演色評価数はこうした方法により数値化されているので、当然ながら、その数値を扱うにいくつかの条件をもっている。その主要な事項に触れる。

①色温度の異なる光源の演色評価数を比較できない。

演色評価数は基準とした光源に対するものであり、基準光の色温度が異なると評価の基準である100の意味が違う。例えば、蛍光ランプの昼光色形 (6,500K) と白色形 (4,200K) による色の見え方を、演色評価数のみにより優劣は論じられない。

②同じ相関色温度の光源であっても、平均演色評価数のみでは、その優劣を比較できない。

平均演色評価数は、8種類の試験色票の見え方のズレを計算し、平均したものである。そのため、赤色におけるズレの大きい光源と、青色で同じようなズレのある光源とが同じ平均演色評価数となってしまう場合が起こりうる。

③演色評価数は、定められた試験色票の色のズレの程度を数値化したもので、色再現の好ましさや色のズレの方向などを表していない。

例えば、顔の色は本来の色よりもやや赤味を帯びているほうが生き生きとして見え、少しでも黄味や緑味にズレると顔色が悪いと評価されてしまう。逆に、バターの色は黄味の濃いほうが好まれる。演色評価数の値はその色によるズレの内容を示していないので、その光源による物の色の変化の内容や好ましく見えるかどうかといった面などを評価するものではない。

④演色評価数1～2程度の数値差を問題にすることは意味がない。

肉眼で大体識別できる演色評価数の最小値は最良の条件で Ra:3、Ri:4程度といわれる。実用上はあまり詳細の数値を取り上げても意味がない。

⑤照明の演色は演色評価数だけではない。

暗い場所では色彩感は乏しく、明るくなるにしたがって色彩は生彩を帯びてくる。同じ光源でも、灯数を増して照度を100ルクスから1000ルクスに変えてみると、同じ演色性なのに物の色は鮮やかに見える。色彩のもつデリケートな調子や柄の細部を鮮明に認識するには500ルクス以上、できれば1000ルクスが必要とされている。

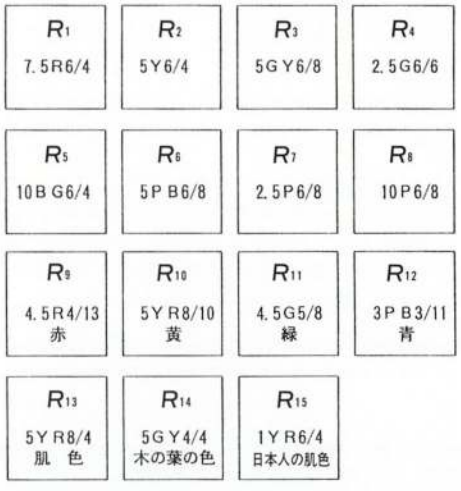
実際上、光源の演色性は器具構造やセード材質に大きく左右されるし、場の演色は内装材の色の反射も大きく影響し、目の順応、色彩や照明の対比の効果なども無視できない。

光源の演色性を評価する方法としては、現行以上の方法はまだである。注意して扱えば、演色評価数は照明光源の選定に有効な目安である。

とくに、色の見え方を重視する照明の光源選定には演色評価数を参考にするとともに、実際にランプを点灯して実験評価するのが最良といえる。

代表的なランプの演色評価数 (東芝ライテック㈱製品値)

ランプの種類		形名	相関色温度(K)	Ra	R_9	R_{10}	R_{11}	R_{12}	R_{13}	R_{14}	R_{15}
蛍光ランプ	一般形 ●昼光色	FL40S・D	6500	74	-55	58	64	72	70	94	57
	●昼白色	FL40S・N	5000	72	-65	49	56	61	66	94	53
	●白　色	FL40S・W	4200	61	-101	36	40	44	56	93	41
	●温白色	FL40S・WW	3500	60	-110	28	20	30	49	92	35
	三波長域発光形(5色発光形)										
	●昼光色	FL40SS・EX-D-H	6700	88	50	60	76	70	97	76	97
	●昼白色	FL40SS・EX-N-H	5000	88	45	62	78	72	97	75	97
	●電球色	FL40SS・EX-L-H	3000	88	12	73	90	77	89	75	96
	高演色形(演色AAA)										
	●色比較・検査用 D_{65}昼光色	FL40S・D-EDL-D65	6500	98	95	94	98	90	98	98	98
	●色評価用純正色　昼白色	FL40S・N-EDL	5000	99	99	99	97	98	99	99	99
	●美術・博物館用　電球色	FLR40S・L-EDL・NU/M	3000	95	93	90	95	90	97	95	97
HIDランプ	メタルハライドランプ										
	●高効率形(拡散形)	MF400・L-J	3800	70	-105	83	71	88	75	89	42
	●高演色形(陽光ランプ)	D400	4600	90	73	77	87	79	89	94	90
	●両口金形(HQIランプ)	HQI-TS 150W/NDL	4300	85	8	80	92	88	91	97	71
	高圧ナトリウムランプ										
	●高効率形(Lタイプ)	NH360・L	2050	25	-181	43	-34	27	21	73	7
	●高演色形	NH400SDL	2500	85	81	68	62	60	86	87	89
	蛍光水銀ランプ	HF400X	3900	40	-117	-13	6	-13	32	80	27



演色評価値の計算に用いる試験色 (JIS Z 8726)

医療福祉建築に関する研修会

会　期　1995年10月2日(月)、3日(火)
会　場　明治大学会館　8階会議室
　　東京都千代田区神田駿河台1-1
定　員　150名（先着順）
受講費　一般50,000円、医療福祉建築協会30,000円
申　込　主催の㈳日本医療福祉建築協会（〒108 東京都港区芝5-26-20、TEL03-3453-9904、FAX 03-3453-7573）へ郵送またはFAXで申し込み、受講費も同時に金融機関へ振り込む。

■10月2日　10：00～16：30
・解説講演「癖呆性老人のケアの現在Ⅰ精神医学的分類と行動特性」雨宮克彦氏（泰生の里総長）
・解説講演「痴呆性老人ケアの現在Ⅱ高齢者グループホームの実例から」林崎光弘氏（あいのさと施設長）
・シンポジウム＜病室・療養室とプライバシー―個室的多床室の試み―＞司会：外山　義、報告：山下哲郎、講師：松本啓俊/井部俊子/鈴木成文の各氏

■10月3日　10：00～16：55
・解説講演「医療施設近代化施設整備事業」王井広則氏（厚生省健康政策局）
・解説講演「療養型病床群の計画」覧　淳夫氏（国立医療・病院管理研究所）
・解説講演「医療・福祉建築の安全計画」志田弘二氏（日本大学）
・シンポジウム＜癒しの環境―医療福祉施設環境の新しいコンセプトを求めて―＞司会：長澤　泰、講師：柳田邦男、河野博臣、栗原嘉一郎の各氏

建築環境・省エネルギー講習会

㈶住宅・建築 省エネルギー機構は、10月9日の大阪を皮切りに7都市8会場で、建築士、建築設備資格者および建築関係業務に携わる人を対象に、「省エネルギー計画書」作成のための建設大臣指定特別講習会を、登録制度として実施する。
講習科目は、(1)我が国における建築環境及び建築物の省エネルギーに関する施策、(2)建築物の省エネルギー計画、(3)新省エネルギー基準によるPAL計算法、(4)新省エネ基準に基づく省エネルギー計算プログラムとCEC計算法、(5)建築設備の省エネルギー計画、(6)LCC評価と運転管理・改修、(7)優良省エネルギー建築物の事例。
講師は松尾陽東京大学教授ほか。
会場　10月9日　大阪科学技術センター（定員330名）
　　10月12日　東京証券会館（340名）
　　10月16日　北海道建設会館（200名）
　　10月18日　名古屋国際会議場（240名）
　　10月24日　勾当台会館―仙台―（200名）
　　10月27日　福岡サンパレス（200名）
　　11月6日　厚生年金会館―広島―（270名）
　　11月10日　東京証券会館（340名）
費用　25,000円（登録料、テキスト代、税含む）
申込　㈶住宅・建築 省エネルギー機構（〒102東京都千代田区二番町4-5　相互二番町ビル　TEL03-3222-6693、FAX03-3222-6696）
詳細問い合わせも、同機構へ。

「国際デザイン展'95」開催

APEC'95大阪会議の協賛事業として、㈶国際デザイン交流協会は大阪南港のATCホールで「触」を基本テーマに「国際デザイン展'95」を開催する。
会　期　1995年10月7日(土)～15日(日) 10：00～17：30
会　場　アジア太平洋トレードセンター/ATCホール
　　大阪市住之江区南港北2-1-10
入場料　大人1000円（前売券800円）、高校生以上の学生700円(〃500円)、中学生以下と65歳以上および障害者は無料

■第7回国際デザイン・コンペ入賞作品・優秀作品の展示…1549の応募作品の中から選ばれた60点を展示。
■第7回国際デザイン・アオード受賞者の業績紹介展示…安藤忠雄氏、アーサー・J・プーロス氏、ローレンス・ハルプリン氏の業績や作品を展示。
■企画展〝やさしさをデザインする〟〝デザインと国際交流〟…デザインの役割を問い、デザイン活動を紹介。
■特別展〝バウハウス―モダン・デザインの源流〟…バウハウスの約400点の歴史的な作品を展示。
■アオード受賞者記念講演会
日　時　1995年10月7日(土)　13：30～16：30
会　場　大阪ワールドトレードセンター/2F会議室
講　師　受賞の3氏
受講者　300名
参加料　無料（ただし、事前申込要）
■デザイン・フォーラム＜講師未定＞
テーマ　「触」―人間性の原点を探る―
日　時　1995年10月13日(金)　13：30～16：30
会　場　アジア太平洋トレードセンター/ATCホール
受講者　150名
受講料　一般2000円、学生1000円
未定部分等詳細問い合わせは、㈶国際デザイン交流協会（TEL06-346-2611）へ。

建築デザイン会議'95 IN YOKOHAMAへの参加者募集

今年9回目を迎える「建築デザイン会議」は、メインテーマを「建築の想像力―未来空間ミュージアム宣言―」にして、7つの分科会＜建築家の岡部憲明、文化人類学の今福龍太、精神科医の香山リカ、メディアデザインのA.シュナイダー、宗教学の植島啓司、生態心理学の佐々木正人、作家の石黒達昌ほかのゲスト＞のディスカッションと併設展覧会で構成される。

■1995年10月21日(土)　12：00～18：00
ドックヤードガーデンで展覧会見学→横浜市開港記念会館でディスカッション1
■1995年10月22日(日)　12：00～18：00
パシフィコ横浜でディスカッション2と3
■併設展覧会「未来空間ミュージアム展」―入場無料
会期/10月14日(土)～10月22日(日)　10：00～19：00
会場/ドックヤードガーデン（みなとみらい21）

＊

〔オーディエンス募集〕
募集人数　10月21日　600名（各ユニット約100名）
　　10月22日　1000名
応募方法　往復ハガキ1枚につき1名。氏名・住所・TEL・FAX・年齢・勤務先（学校名）と参加希望日・返送先を記入して9月22日までに建築デザイン会議'95運営組織事務局・オーディエンス参加申込係へ。

〔ボランティアスタッフ募集〕
募集内容　20×8×8.6feetのコンテナ内部に、それぞれのユニットテーマに沿ってコーディネーターが作品を制作する。これを補助するボランティアスタッフをユニットごとに数名募集。
応募方法　応募希望者は氏名、連絡先住所、TEL、年齢、勤務先or学校名・学科・学年を記入し、ハガキで応募要項等を請求すること。
応募締切　1995年9月11日(月)まで。
申込み先　建築デザイン会議'95運営組織事務局・ボランティアスタッフ募集係
　　〒102 東京都千代田区四番町8-13デルフファイ研究所内　TEL03-3222-5031
活動期間　1995年9月下旬～10月20日のうち約1週間～10日間の制作補助。および10月末の撤去。

コンペ表彰式とシンポジウム

八尾市は「久宝寺寺内町・町家型建築設計競技」を実施し、10月27日に審査発表・表彰式を行うが、10月25日～27日の3日間にわたり八尾市文化会館（プリズムホール）で応募作品を展示公開する。
この表彰式に併せて、審査員5氏によるシンポジウムの開催も予定されている。
■シンポジウム「このまちを未来につなぐ―原風景を生かす21世紀型住宅の提案―」
会　場　八尾市文化会館（プリズムホール）小ホール
日　時　1995年10月27日(金)
　　13：00～　コンペの審査発表・表彰・講評。
　　14：00～16：00
　　高田　昇(都市計画)、遠藤剛生(建築)、竹山聖(建築)、降幡廣信(建築)、安原　秀(建築)の5氏によるシンポジウム。

日本建築協会

月間の動き

【平成7年6月分】

通常総会

第1回通常総会
28日・5時半～6時・於本会会議室
出席者　岡本、金多、三品各副会長ほか2名
議　事　(1)平成6年度事業報告並びに決算報告承認の件
(2)平成7年度事業計画並びに収支予算承認の件

定時評議員会

第1回定時評議員会
28日・5時～5時半・於本会会議室
出席者　鶴田議長ほか45名（委任状共）
議　事　(1)理事補選（4名）の件
(2)平成6年度事業報告承認の件
(3)平成6年度決算報告承認の件
(4)その他

理事会

第1回常任理事会
28日・4時～4時45分・於本会会議室
出席者　岡本副会長ほか12名
議　事　(1)入退会者承認の件
(2)4支部前年度事業・決算及び本年度予算承認の件
(3)後援名義使用承認の件
(4)理事補選について
(5)会員増強について
(6)事業報告、その他

編集委員会

第3回会員企画小委員会
6日・6時半～8時半・於本会会議室
出席者　稲木幹事ほか5名
議　事　(1)「建築と社会」（シリーズもの）の報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第3回構造分科会
7日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　長瀬幹事ほか2名
議　事　(1)10月号構造特集「地震」の企画
(2)「構造の頁」の企画
第3回編集委員会
8日・6時～8時20分・於本会会議室
出席者　荒井委員長ほか6名
議　事　(1)6月号「接合」特集・「WTC」特集経過報告
(2)7月号「ユニバーサルデザインとは」特集経過報告
(3)8月号「会員作品」（仮称）特集・「福岡ユニバーシアード」（仮称）特集経過報告
(4)9月号「新しい『建築』の視点」（仮称）特集・「日建設計」（仮称）特集経過報告
(5)10月号「地震」（仮称）特集経過報告
(6)11月号「駐車場設備」（仮称）特集経過報告
(7)その他
(8)収支状況報告
第3回計画分科会―建築系―
12日・7時～10時半・於本会会議室
出席者　山本幹事ほか6名
議　事　平成7年9月号の本分科会担当「新しい『建築』の視点」特集の内容案に関して検討
第3回設備分科会
13日・6時～9時・於本会会議室
出席者　田ノ畑幹事ほか5名
議　事　(1)編集委員会の報告
(2)11月号設備特集の企画
(3)「設備の頁」の企画
第4回構造分科会
21日・6時～9時15分・於本会会議室
出席者　長瀬、入江田両幹事ほか5名
議　事　10月号「建築構造と社会の接点」特集の企画
第3回作品作風小委員会
29日・6時半～9時15分・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか8名
議　事　(1)前回編集委員会の報告
(2)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3)作品の選定
(4)「Gallery」掲載報告・予定
(5)「SKETCH BOOK 欄」の掲載予定

事業委員会

第2回広報第1分科会
6日・6時半～8時40分・於本会会議室
出席者　奥村、門川両幹事ほか2名
議　事　本年度の企画について
第3回若い会員の集い小委員会
12日・7時～8時40分・於本会会議室
出席者　杉本副委員長ほか10名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定について
(4)新旧委員の紹介と挨拶
(5)委員の時間
第3回広報第1分科会
28日・6時半～8時45分・於本会会議室
出席者　奥村、門川、掃部各幹事ほか2名
議　事　震災をテーマに企画を検討

建材委員会

第3回建材委員会
14日・3時半～5時半・於本会会議室
出席者　和田委員長ほか12名
材料説明：システム天井の耐震性について／松本委員
議　事　今後の検討建材

出版委員会

第3回出版委員会
22日・5時～6時半・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか9名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)「プロのノウハウ」講座シリーズ

見学会

近代建築見学会（第3回）
近江八幡にヴォーリズの建築を訪ねる
10日・11時～4時45分・参加者53名
関西国際空港エアロプラザ見学会
13日・2時～4時45分・参加者63名

建築クラブ

第278回朝食会
13日・8時～9時半・於大阪グランドホテル
演　題　「山と川の話」
講　師　作家　高田　宏氏
参加者　57名

建築工事実務講習会

（京都開催）
27日・10時～4時30分
講師（施工計画）関川詞之氏／大成建設㈱大阪支店建築部管理室次長
佐貫　久氏／鹿島建設㈱関西支店建築工事管理部次長
30日・10時～4時30分
講師（積算業務）吉田　豊氏／㈱竹中工務店大阪本店見積部見積課長
（仮設見積）藤井孝晏氏／㈱大林組本店建築工務部副部長
参加者　26名
主　催　本会京都支部

◀会員の訃報
植松有弘氏（プラス建築都市設計研究所）
7月5日死去

日本建築協会

6月の入会者（敬称略）

会員増強についての御礼と御願い

会長　市川　宏

日本建築協会創立80周年（平成９年３月）に向けての会員増強運動を開始いたしました。本年３月末の個人会員2,600人台、団体会員1,900口台を、それぞれ3,000人（約400人増）、2,200口（約300口増）まで増やすという目標です。まず、大口団体会員25社に御願いしましたところ、長びく不況下にもかかわらず、ほぼ全社から格別のご協力が得られ、お蔭様でスタートはきわめて順調です。

ここには６月までの入会分を報告しておりますが、７月末現在までに個人会員160人、団体会員120口の入会、増口を頂き、すでに目標の３分の１を実現できました。ご高配賜りました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、目標の完全達成のため、引き続き本部、支部役員を始め会員各位の一層のご協力をひとえにお願い申し上げます。

〔団体会員３社〕

㈲アトリエジグソー

鹿島建物総合管理㈱関西支社

大興物産㈱

〔個人会員119名〕

浅田　和雄（竹中工務店）　井手　洋一（竹中工務店）　上原　正行（竹中工務店）
小野　洋昭（竹中工務店）　坂井　俊男（竹中工務店）　坂口　安春（竹中工務店）
信田　徹（竹中工務店）　髙川　慎司（竹中工務店）　野村　充（竹中工務店）
林　良次（竹中工務店）　芳村　惠司（竹中工務店）　乾　康一（大成建設）
内村　満夫（大成建設）　柿原　良信（大成建設）　北川　光明（大成建設）
迫田　豪（大成建設）　辻本　和夫（大成建設）　中村　純治（大成建設）
西本　伸男（大成建設）　藤原　和寛（大成建設）　藤原　義則（大成建設）
堀田　秀明（大成建設）　槇岡　進（大成建設）　八木為治郎（大成建設）
青柳　繁（大成プレハブ）　池田　行男（大成プレハブ）　石井　哲也（大成プレハブ）
岩田　憲三（大成プレハブ）　大村　信彦（大成プレハブ）　太田　範男（大成プレハブ）
西田　満夫（大成プレハブ）　原　龍二（大成プレハブ）　榎並　信男（大成設備）
佐藤　正敏（大成設備）　笹井　弘之（大成設備）　柴田　三義（大成設備）
菅野　義三（大成設備）　髙木　太郎（大成設備）　谷　健一（大成設備）
日野　博（大成設備）　平澤　正充（大成設備）　藤原　久光（大成設備）
弓座　孝幸（大成設備）　鳥養　進（奥村組）　小泉圭一郎（奥村組）
藤崎　安弘（奥村組）　武田　健（奥村組）　清水　俊久（奥村組）
岡山　信（奥村組）　坂本　守（奥村組）　中江新太郎（奥村組）
谷　哲司（奥村組）　内田　俊明（佐藤工業）　木村　孝昭（佐藤工業）
武士　邦広（佐藤工業）　龍田　紘男（佐藤工業）　谷本　正和（佐藤工業）
名村　英紀（佐藤工業）　仲井　輝夫（佐藤工業）　西浦　靖（佐藤工業）
林川征次郎（佐藤工業）　藤野　一成（佐藤工業）　船津　克史（佐藤工業）
松田　英樹（佐藤工業）　町田　勉（佐藤工業）　山田　健一（佐藤工業）
山田　耕作（佐藤工業）　山田　真一（佐藤工業）　山本　春樹（佐藤工業）
下野　靖彦（フジタ）　後藤　精治（フジタ）　田底　修一（フジタ）
中井　周一（フジタ）　丹羽　英明（フジタ）　松本　七郎（フジタ）
宮田　通正（フジタ）　飴本三喜大（錢高組）　飯尾　憲彦（錢高組）
石井　繁（錢高組）　石田　利雄（錢高組）　乾　幸一郎（錢高組）
岩倉　勝行（錢高組）　浦川　隆文（錢高組）　奥野　良之（錢高組）
落合　伸次（錢高組）　亀岡　健吾（錢高組）　亀尾　健司（錢高組）
亀田　一郎（錢高組）　小柳　聰（錢高組）　久保　貞雄（錢高組）
齋藤　等（錢高組）　坂井　貞雄（錢高組）　志村　実（錢高組）
田内菊治郎（錢高組）　田中克治郎（錢高組）　田村　貞雄（錢高組）
高倉　政則（錢高組）　坪ノ内輝信（錢高組）　中井　紳司（錢高組）
長尾　正幸（錢高組）　西村　利次（錢高組）　野佐　秀雄（錢高組）
春名　直紀（錢高組）　弘　隆成（錢高組）　福田　雅実（錢高組）
藤原　清隆（錢高組）　三野　信夫（錢高組）　南　勝利（錢高組）
森　保啓（錢高組）　山崎　隆昭（錢高組）　阿津坂裕二（大牟田高校）
近藤　幸生（中部ケイソー工業）　田内　徳隆（東急建設）　髙砂　正弘（高砂建築事務所）
中曽　暁尚（鹿島建設）　松浦　洋（大気社）　三砂　隆史（大建設計）
森山　佳嗣（関西ビジネスインフォメーション）　山田　納（山田建設）

〔准会員３名〕

天野　弘章（大工大院）　川井　孝浩（関西大院）　田中　麦（大阪芸大院）

information

建築文化懸賞論文募集

雑誌『建築文化』の「建築文化懸賞論文」は、建築論の高揚と新人評論家の登竜門の役割を担って1967年に創設され、29回目を迎える。応募資格は特になし。

今回の課題は、「都市の記憶」。審査員は岡部憲明氏。

課　題　……ここでいう「都市の記憶」とは、過去から抽出される記憶以上に、未来において構築される「都市の記憶」を指しており、議論されるべきは、その構築方法の展開である。……今回の論文では、できれば抽象的論理に終始することなく、都市のひとつ、あるいは複数を、具体的に取り上げ、都市の未来へ向けての方向と方法を「都市の記憶」をキーワードに論述してほしい。（岡部憲明氏の課題主旨より）

原稿枚数　400字詰原稿用紙30枚以内
・未発表のものに限る。
・400字詰原稿用紙２枚以内の梗概と氏名、住所、電話番号、年齢、勤務先または学校名、略歴を明記したものを添付する。

応募締切　1995年10月31日㈫、当日消印有効、書留便

入選・賞金　下出賞１点50万円、佳作数点各10万円

入選発表　『建築文化』1996年２月号

応　募　彰国社建築文化編集部　TEL03-3359-3231
〒160 東京都新宿区坂町25

札幌国際デザイン賞募集

札幌市が平成３年度から実施している「札幌国際デザイン賞」。今回は「雪の生活文化 〝雪と楽しむ〜輝き・彩り〜〟」をテーマに、快適な冬の生活の実現をめざしていく、あらゆる分野でのデザインの提案を募集している。応募資格は一切問わず。個人、団体も問わず。

応募点数　１人あるいは１団体で何点でも応募可。

応募方法　出品書類を、氏名ほか必要事項明記の上、郵送かFAXで事務局へ請求。

出品方法　(1)出品票、(2)デザイン・コンセプト説明書、(3)作品（A１判パネル２枚以内、平面に表現したもの）を1996年１月31日までに出品先の札幌通運㈱特運部桑園支店へ。

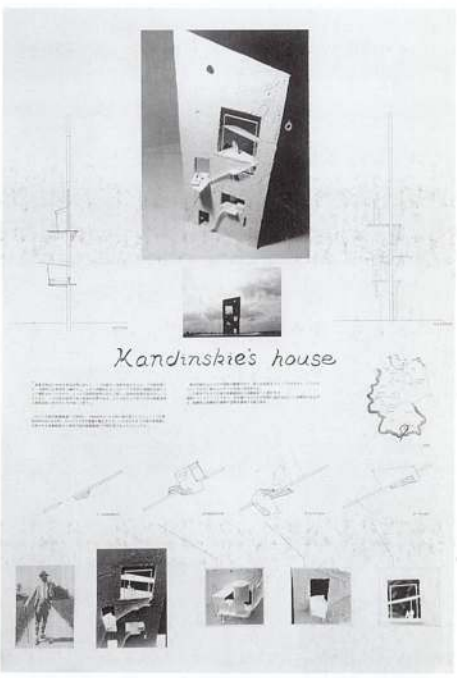
賞の種類　大賞１点200万円、準大賞と佳作数点賞金合計200万円、入選数点記念品

審査委員　清家　清氏（札幌市立高等専門学校校長）一委員長一、伊藤隆一氏（北海道デザイン協議会）、渋谷邦男氏（北海道東海大学）、渋谷　滋氏（グラフィックデザイナー）、中井和子氏（環境デザイナー）、若濱五郎氏（北星学園大学）

事務局　札幌国際デザイン賞実行委員会事務局
（〒060 札幌市中央区北１条西７丁目 住友海上札幌ビル㈱北海道未来総合研究所内、TEL 011-271-7574、FAX 011-261-4882）

KANDINSKYの家大賞決定

第５回エス・バイ・エル住宅設計コンペで、海外を含め719点の応募作品から選ばれた大賞は、下記のもの。



第５回エス・バイ・エル住宅設計コンペ大賞作品
大竹　幹（筑波大学芸術研究科建築デザインコース、24歳）

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目 (電話811-3610)

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ——— コーバータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所 TEL06(391)1081〜2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660
横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341
埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1−2−10(TSビル)
TEL(06)943−6571(代)
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3−4−−5
TEL06(792)5858　FAX06(792)2810

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

㈱川岸窯業商店

本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06−532−0461(代表)
FAX.06−535−5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

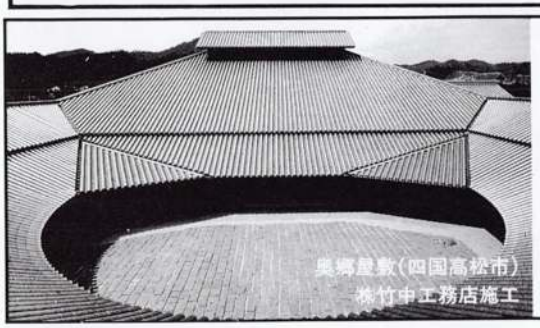
新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND
日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3・4F
TEL. 06-352-7502㈹ FAX. 06-352-7486



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
☎ 五六一〜七四一六
ファックス 五六一〜七四五四

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社　☎06－448－5851(代)　名古屋支店　☎052－211－1535(代)　中国支店　☎082－247－5541
九州支店　☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－3211－8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　三田村　嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話06(202)3071(代表)
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・神戸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営 業 所　札幌・大宮・千葉・山梨・福井・和歌山・松江・沖縄
出 張 所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・鳥取・岡山・高松・下関
熊本・宮崎・鹿児島

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話（06)352-3501代
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26-3610代
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431代
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738代

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768—5031代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）768—1651代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話（03）5689—2351代表

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier
冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役 土井敏裕
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
まちと暮らしにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
三宝電機株式会社
SANPO
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105 東京都港区新橋2-16(二ユー新橋ビル) TEL 03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571・FAX 078(871)6261
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06(385)1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34－6 電話06(385)1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

特殊壁装材製造販売 和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは,日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本社:東京都港区六本木3－16－26
大阪支店:大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294
Master Builders Technologies

技術と信頼で人と企業に貢献する
青葉印刷株式会社
代表取締役社長 依藤孝行
〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）	コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）	鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）	コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）	地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）	コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443−6181

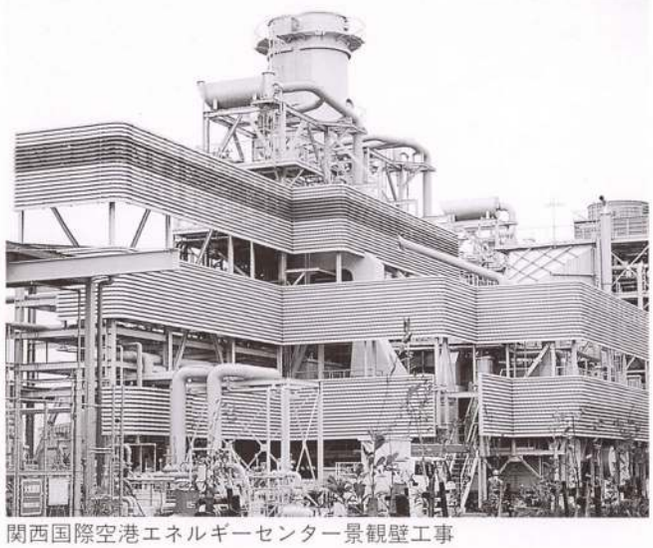
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252−6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）877−1581

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケア！


関西国際空港エネルギーセンター景観壁工事

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコア（ETC-F）
・オリエンタルスチールライト（STL）
・オリエンタルユニライト（UNL）

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕
ボーロイド（断熱材）D.G.　※カタログをご請求下さい。

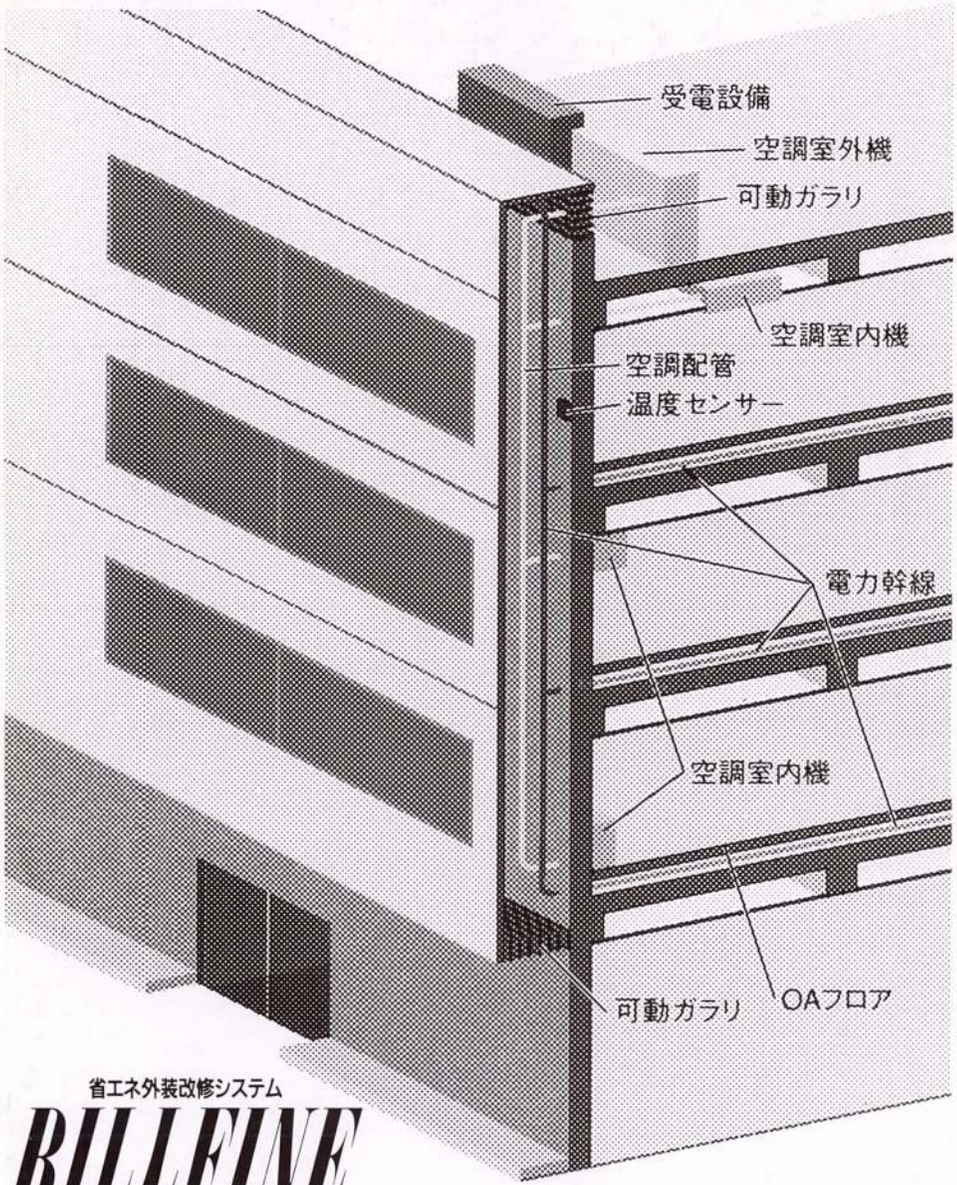
オリエンタルメタル株式会社

本　社　〒335 埼玉県蕨市塚越5−12−2 TEL（048）442-3111
東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越5−12−2 TEL（048）442-3115
西日本支社　〒660 兵庫県尼崎市長洲中通3−24−35 TEL（06）487-2121
支　店　関東、東北、大阪、名古屋、広島、九州
工　場　熊　谷・東　条・姫　路

自然との共生に挑む
TOYO Shutter

ビルが呼吸を始めた……

ビルの省エネ対策、インテリジェント化を実現するビルファイン。



省エネ外装改修システム
BILLFINE®

ビルファインは、温度センサーの働きで、可動ガラリが開閉し、快適なビル環境を維持する省エネビル外装改修システム。春夏秋冬の気温にあわせ、内壁と新壁との空気の流れを調節し、ビル全体の省エネルギー化を実現します。また、電信電話や光ファイバー、電力幹線等の新設や増設に対応。インテリジェントビル化にも適応した次代のリファインシステムです。

■シャッター ■ドア ■カーテンウォール ■扉用ハンドル

東洋シヤッター株式会社

本　　社 〒540 大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル ☎06(943)6571
東京本社 〒106 東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル ☎03(3479)2911

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634
振替口座 大阪一一三九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価1,200円（本体1,165円 消費税35円 送料共）
雑誌 03379-8